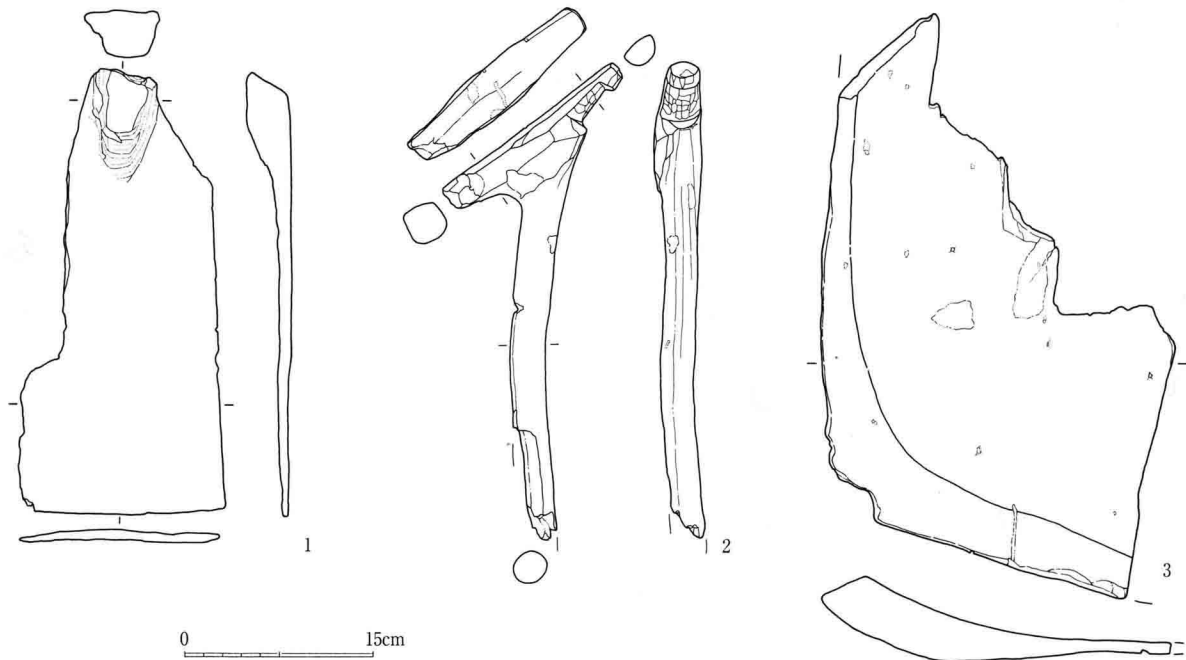
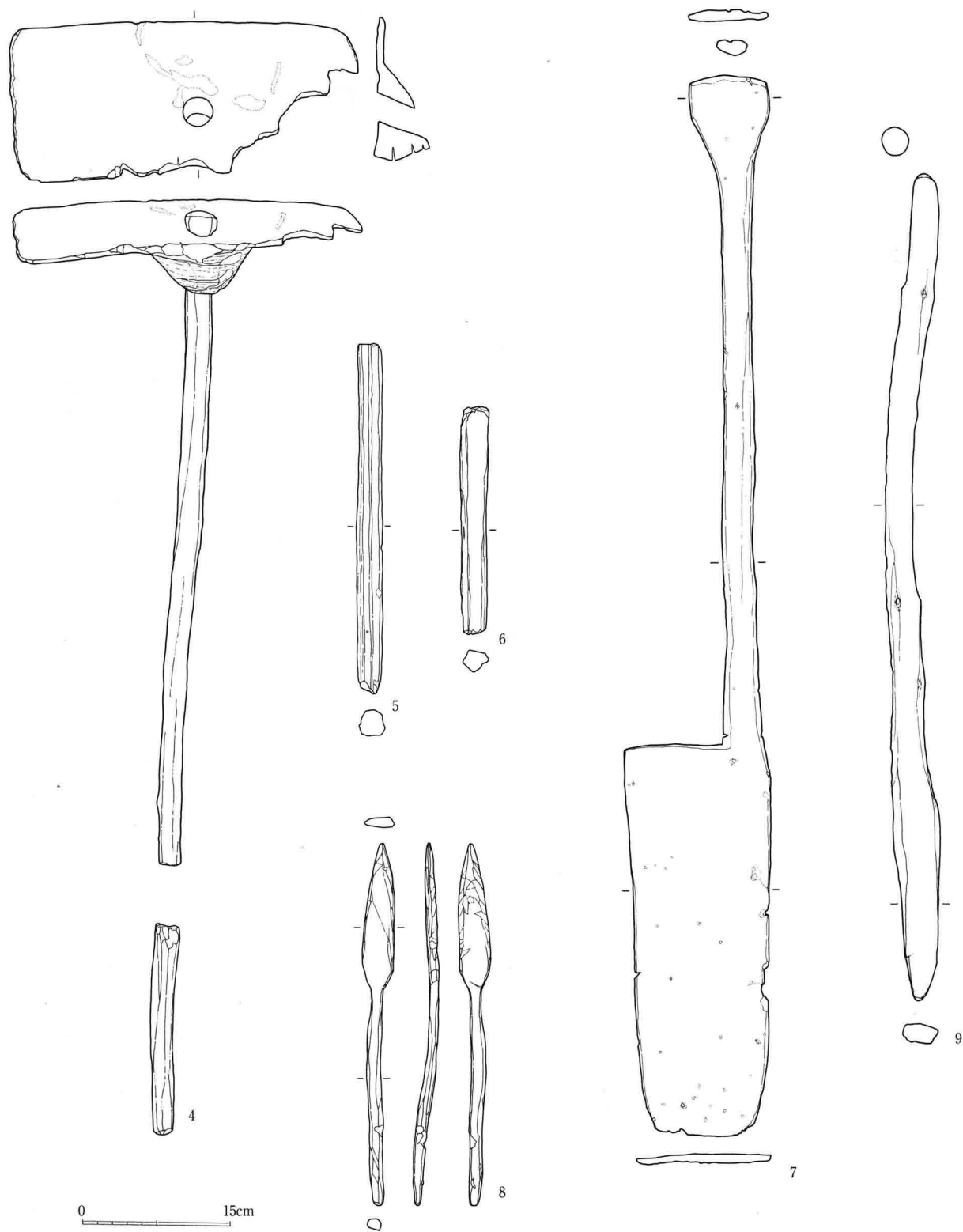


(5・6)・板状製品(14・15)そして加工痕のない自然樹木(枝付)等がある。横鋏は身部と柄が装着した状態で出土した。身部は長方形を呈し、中央上部に鋭角に穿孔された瘤状突起を有する柄受け穴をもうける。柄は芯のある加工丸材を用いる。身部は横幅35.5cm・縦幅15.5cm・厚0.7cm・瘤状突起高5.5cmを測る。柄の直径は2.5~2.0cmで、65cm程が残存し、柄の末端と思われる21cmを測る棒状製品がある。平鋏は身部のみの出土で、柄孔の上部と身部の一部を欠損する。残存部位から形態は長方形を呈するが上部にかけて横幅を漸減するようである。後面に瘤状突起が認められることから直柄型式のものであろう。刃部幅は15.8cm・身部厚は中央で1.0cm・瘤状突起高3.4cmをそれぞれ測る。鋤は一木平鋤と呼ばれるもので、把手から刃先まで一枚板から作り出している。把手は平板で三角形に作られ、柄は楕円形を呈する。身部は長方形を呈するが平鋤と逆に刃部に向かって横幅を漸減し、刃部は丸味を帯びる。身部上端の足踏み用の床は水平で柄に対して片方のみで作られる。全長106.5cm・把手から柄部67.0cm・把手幅7.5cm・柄部長軸3cm前後で、身部縦幅39.5cm・横幅14.5~9.5cm・厚1cm前後の規模になる。膝柄は曲柄鋏の装着具で、自然木の枝から作られている。着装台は平坦で、着柄軸を結縛部の背面には挟り込みがみられる。残存長37cmで、着装台長15.6cm・幅2.4~3.5cmを測る。槽状製品は中央が膨らむ隅丸長方形を呈するものと思われる。全体の法量は不明であるが、短辺の直線面は32cm前後になる。6・7の断面が不整形円形を呈する棒状製品は農具の柄の可能性が高い。6は残存長34.3cm・7は22.5cmである。直径は共に2.5cm前後である。武器類のうち2個の盾については第4章で項を改め橋本氏の玉稿を掲載する。弓または未製品と想定するものが5本出土している(9~13)。10は片側に細かい加工痕がみられ、両端部を削り取ることにより弓筈を作り出している。全長4.53cm・中央部幅2.2cmである。13は両側に若干反るが上端部の末筈が削り取られていることから弓とみてよいだろう。全長35cm・中央部幅1.4cmである。12は下方の本筈部付近が欠損している。末筈は2cm程明確に削られている。残存長41.2cm・中央幅1.7cmである。11は末筈部付近を欠き、本筈部に不十分な削り込みが認められることから弓の未製品と考えられる。残存長46.1cm・中央幅2.3cmである。10も両端部に弓筈が作られていないが、材の張り状の加工から弓の未製品と思われる。全長83cm・中央幅2.7cmである。槍先は完形品が1本出土しており、身部と茎部は一枚板から作り出され、全長は36.4cmである。身は柳葉形を呈し、先端から基部まで14.3cm・基部幅3.1cmを測る。茎の断面は幅1.5cm程の楕円形に加工される。14・15は板材と思われるが用途

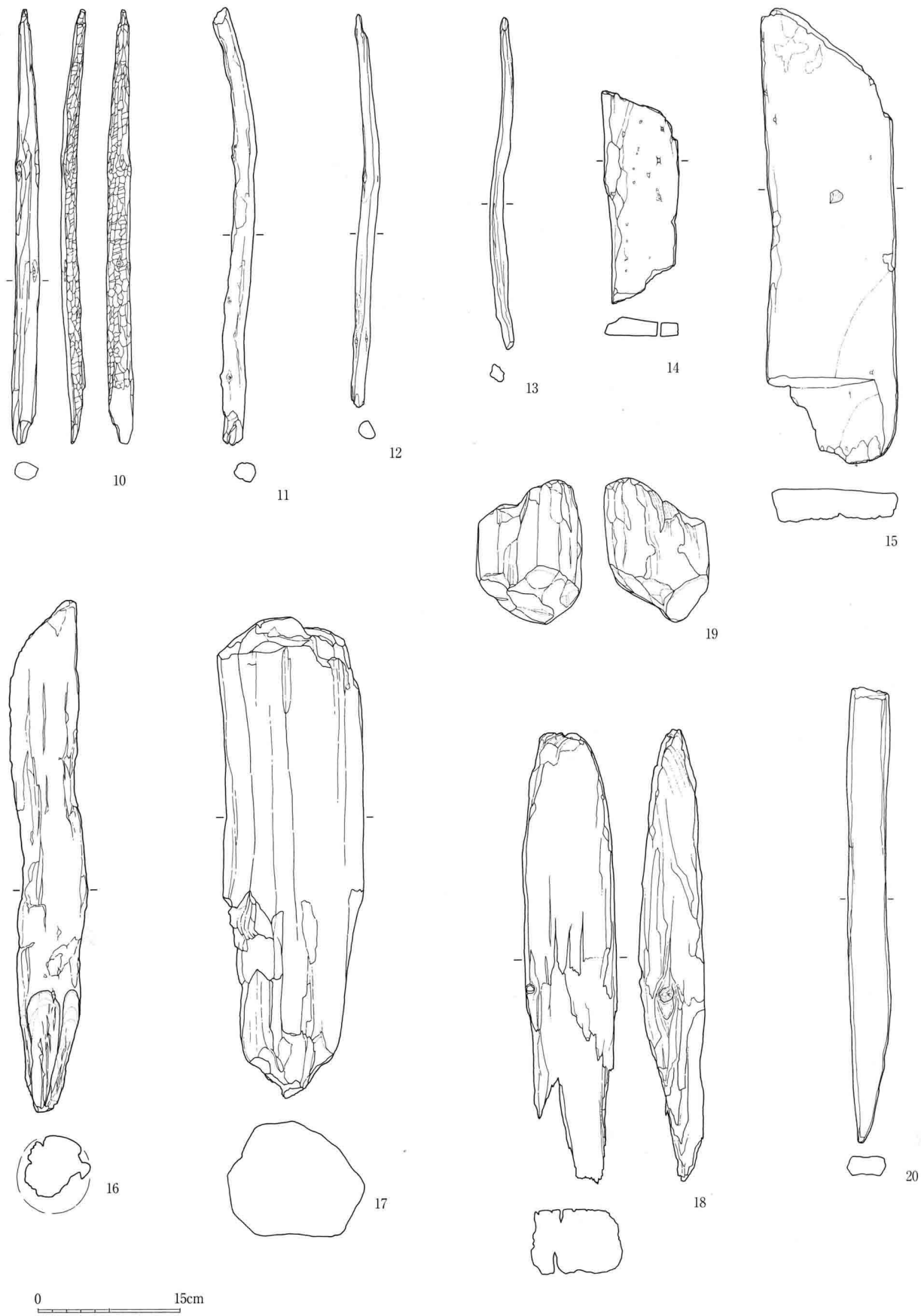


91図 木製品実測図①(1:6)

は不明である。15は完形品であるとするれば、横鋸または柄振の未製品の可能性がある。16・17・19は丸太材に加工を加えた杭と推定される。18は角材、20は割板材を用いている。杭の先端は鈍器状工具により切り落としている。16は残存長55cm、17は完形品で全長50cm・中央幅14.5cm、18は残存長47cm、19は残存長15cm、20は残存長47cmをそれぞれ測る。



92図 木製品実測図② (1:6)



93図 木製品実測図③ (1 : 6)

第4節 石製品

本遺跡より出土した石製の遺物は総数217点である。このうち石器の製作過程で生じた剥片や碎片等の石屑、原石や石核などを除いた資料は98点ある(94～101図)。内訳は打製石鏃1点、磨製石鏃1点、磨石6点、敲石10点、みがき石8点、台石2点、凹石1点、刃器35点(大形34点、小形1点)、磨製石包丁1点、太型蛤刃石斧5点、扁平片刃石斧4点、ノミ状石器1点、両刃石斧1点、石槌6点、砥石10点、軽石製品2点、玉類3点、紡錘車1点である。

石核 5点出土している。「大形剥片石器用素材」と判別できる資料には珪質頁岩材2点がある。「小形剥片石器用素材」にはチャート材3点がある。1は珪質頁岩材の剥片を素材とし、剥離面を利用した打面転移による剥片剥離を行っている。打面転移は2回で、いずれも90度である。最終的な剥離痕は長さ4.6cm×2.1cm程度の縦長剥片である。

剥片・碎片 剥片剥離作業の過程で弾き出された石屑のうち石器の素材となり得る程度の大きさを持った例を剥片、それより小さな例を碎片とする。総数114点出土している。「大形剥片石器」用の剥片71点、碎片28点、「小形剥片石器」用の剥片9点、碎片4点がある。また素材の両端に対向する剥離痕を留め「挟み打ち」技術の介在を想定させる「楔形石器」が2点ある。2はチャート材の剥片を素材とし、四方からの加撃が行われ、上・下端部には細かな剥離痕が認められる。長さ3.4cm×3.9cm、重さ17.8gを量る。3はチャート材の剥片を素材とし、左右からの加撃による細かな剥離痕が認められ、長さ4.6cm×4.5cm重さ46.7gを量る。4・5はともに粘板岩材の加工痕のある剥片である。石器製作の初期段階での失敗により、目的の器種を確定できない資料である。

打製石鏃 1点出土している。6は黒曜石材の凸器無茎式で、先端部が大きく欠損している。左右側辺部の形が統一されていないことと全体的に厚みがあることから、完成度は低いと思われる。

磨製石鏃 1点出土している。7は表裏両面が研磨された片岩材の未製品である。整形段階で側辺部が欠損したものであると思われる。

磨石 6点出土している。材質は硬砂岩材4点、安山岩材1点、ホルンフェルス材1点である。8・9は硬砂岩材の扁平な礫を用い、表・裏両面に磨面が認められる。10は安山岩材の扁平な礫を用い、表裏面に加え側面にも磨面が認められる。1/3程度の欠損がある。

敲石 10点出土している。材質は硬砂岩材5点、砂岩材2点、シルト質砂岩材1点、花崗岩材1点、チャート材1点である。11・12は砂岩材の礫を素材とし、上下端部に敲打痕がある。表裏両面にははっきりとした磨面が認められることから、磨石としても用いられていたと思われる。特に12は扁平であり煤状付着物も認められる。重さ79.3gを量る。13～16は硬砂岩材の棒状の礫を素材とし、長軸の両端部もしくは一方にアバタ状の敲打痕が認められる。なお、14は側辺部にも敲打による欠損がみられる。重さ256.6gを量る。17は花崗岩材の礫を素材とし、上下両端部および表裏側面に敲打痕がみられる。赤色付着物が認められ、重さ607.3gを量る。18はチャート材の棒状の礫を素材とし、上下端部にアバタ状の敲打痕を認める。重さ104.7gを量る。19はシルト質砂岩材の棒状の礫を素材とし、表裏面および両側面にスジ状の敲打痕跡を認める。また全面にわたって磨面がみられ、みがき石としての機能も有していたと思われる。重さ91.8gを量る。

みがき石 主に河原石を素材とし8点出土している。材質は粘板岩材4点、硬砂岩材1点、安山岩材1点、頁岩材1点、チャート材1点である。20は頁岩材の礫を用い、半球状の全面にわたって細かな線状痕が認められる。重さ61.1gを量る。21はチャート材の礫を用い、平な面上に使用痕跡が認められる。重さ35.8gを量る。22～24

は粘板岩材の礫を用いた例である。いずれも全面を使用しており、24はロウ状の光沢がみられる。また23・24は白色付着物が観察され、1/3程度の欠損がある。重さは22が28.3g、23が72.2g、24が31.5gを量る。25は安山岩材の礫を用いた例で、表裏側面に線状痕が認められる。重さ149.2gを量る。

台石 2点出土している。材質は2点とも輝石安山岩である。26は1/2程度の欠損があるが、残存している表面には明瞭な線状痕が認められる。側面および縁辺を敲打成形している。重さ3,672gを量る。

凹石 1点出土している。27は安山岩材の礫を素材とし、半分程度の欠損がある。凹部の直径は約8cm、深さは2.2cm程度である。

刃器 35点出土している。「大形剥片素材の刃器」は34点あり、材質は粘板岩材13点、シルト質砂岩材15点、輝石安山岩材2点、安山岩材1点、珪質岩材2点、硬砂岩材1点である。素材の片面が自然面に覆われた一次的な剥片を利用した例や、刃部または背部に調整剥離加工を施した例があり、刃部に摩耗・光沢・線状痕および潰れの内いずれかを確認できる例が10点ある。29は粘板岩材の縦長剥片を素材とし、背部加工はみられないが、刃部に明瞭な摩耗・光沢・線状痕と微細な剥離痕が観察できる。刃部は外弯で刃角55度を測る。33は粘板岩材の縦長剥片を素材とし、刃部以外に剥離調整を行い楔形石器状を呈している。刃部に微細な剥離痕が観察され、刃角33度を測る。34は粘板岩材の縦長剥片を素材としたナイフ状の刃器である。背部に挟りがあり、刃部に微細な剥離痕が認められる。刃角60度を測る。40は輝石安山岩材の横長剥片を素材とし半分程度の欠損があると思われる。刃部に剥離調整を施し摩耗・潰れが観察される。刃角90度を測る。41は輝石安山岩材の縦長剥片を素材とし、刃部および背部に剥離調整を行っている。刃部に摩耗・潰れを観察し刃角48度を測る。42は珪質岩材の円形の剥片を素材とする一次的な剥片であるが、全周に摩耗・光沢痕が観察される。刃角16度を測る。43は珪質岩材の横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・線状痕が観察される。刃角90度を測る。44は硬砂岩材の一次的な横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・光沢・線状痕を観察する。石包丁形を呈し刃角50度を測る。45は粘板岩材の横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・線状痕を観察する。刃角66度を測る。「小形剥片素材の刃器」は1点ある。46は黒色頁岩材の横長剥片を素材とし、刃部に摩耗・光沢痕が観察される。楔形石器状を呈し、刃角26度を測る。

磨製石包丁 1点出土している。47は安山岩材の剥片を素材とした未製品である。表裏両面に研磨が施されているが2/3程度の欠損がある。

大型蛤刃石斧 製品3点、未製品2点の合計5点が出土している。材質はすべて変質輝緑岩材である。48は敲打整形段階の未製品である。打裂による刃部の成形も行われている。長さ19.0cm、重さ1,745gを量る。49は刃部への研磨整形加工を施した未製品である。1/3程度基部の欠損があり、現時点での刃角は73度を測る。50は基部の大半を欠損した製品である。刃部は使用による損傷が著しく、剥落・摩耗・光沢痕が観察される。刃幅6.7cm、刃角69度を測る。

扁平片刃石斧 製品2点、未製品2点が出土している。材質は蛇紋岩材1点、珪質岩材1点、粘板岩材1点、玄武岩材1点である。51は珪質岩材の横長剥片を素材とした打裂成形段階の未製品である。敲打痕跡は見られないが、少量の研磨が認められる。長さ5.4cm×3.3cm、重さ19.2gを量る。52は蛇紋岩材の製品である。刃部に摩耗・線状痕が観察され、刃幅2.8cm、刃角42度を測る。また全体形は小形で長さ4.6cm×2.9cm、重さ13.8gを量る。

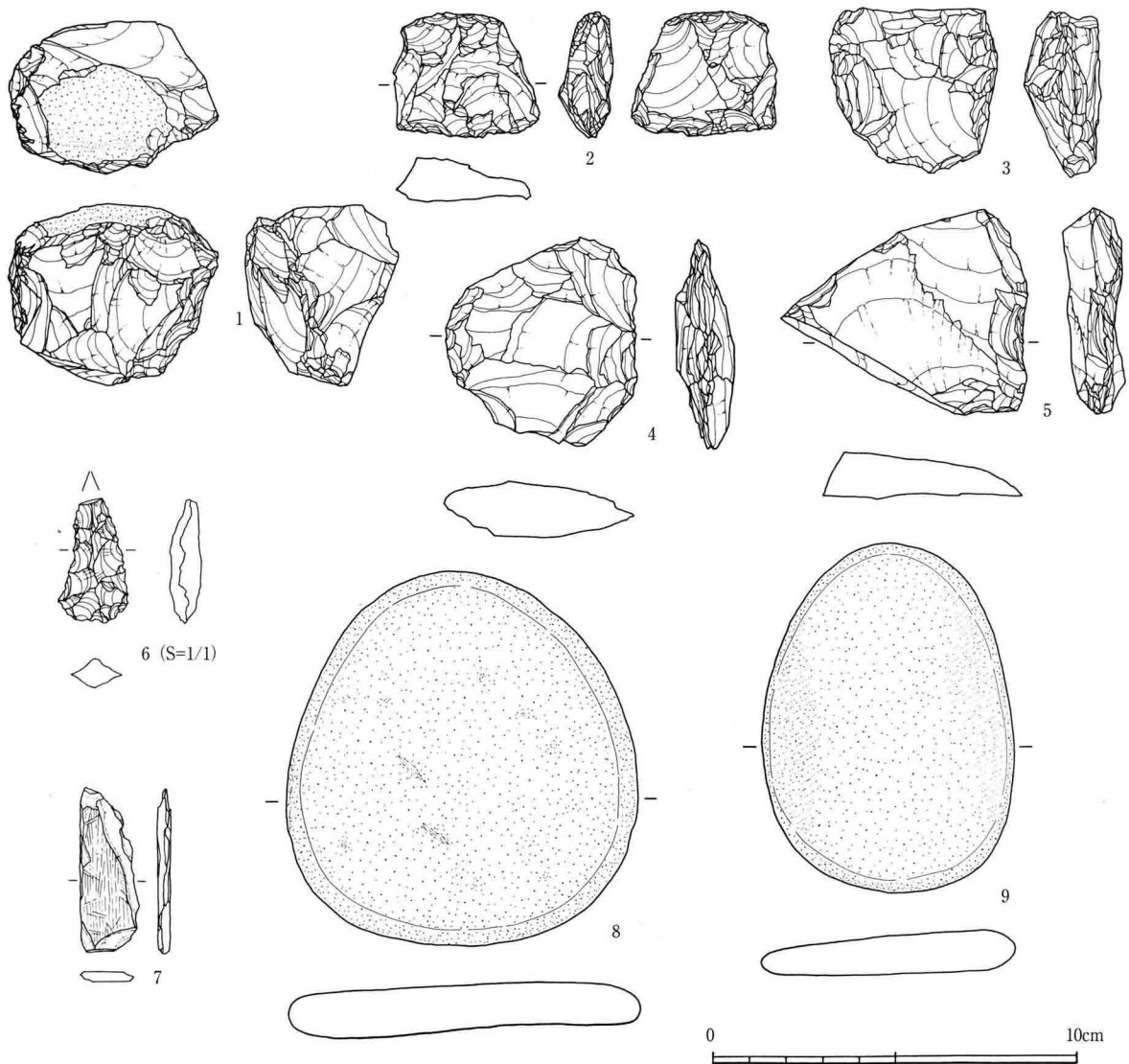
ノミ状石器 1点出土している。53は片岩材の製品である。使用痕は認められないが、刃幅1.1cm、刃角60度を測る。

両刃石斧 1点出土している。材質は変質輝緑岩材である。54は同一遺構内から基部と刃部が分割された状態で出土し、接合した製品である。頭部に一部敲打痕跡が残る。刃部は摩耗・線状痕および潰れが明瞭に観察され使用頻度の多さをうかがわせる。刃幅5.4cm、刃角48度を測る。

石槌 6点出土している。材質は変質輝緑岩材2点、玄武岩材1点、硬砂岩材2点、砂岩材1点である。55・56は変質輝緑岩材の蛤刃石斧の基部を転用した例で、機能部の摩耗は僅かである。表裏および両側面に敲打によるアバタ痕が顕著にあり、装着用とも考えられる。57は玄武岩材の蛤刃石斧基部の転用例である。機能部は顕著に摩耗し鏡面状を呈している。頭部に敲打痕跡が残り、機能部周辺と裏面に著しい剥落が認められる。58・59は硬砂岩材の礫を用いた例である。58の機能部に摩耗・光沢が明瞭に観察される。60は砂岩材の礫を用いた例で、機能部の使用痕跡は僅かであるが、頭部に明瞭な敲打痕が認められる。

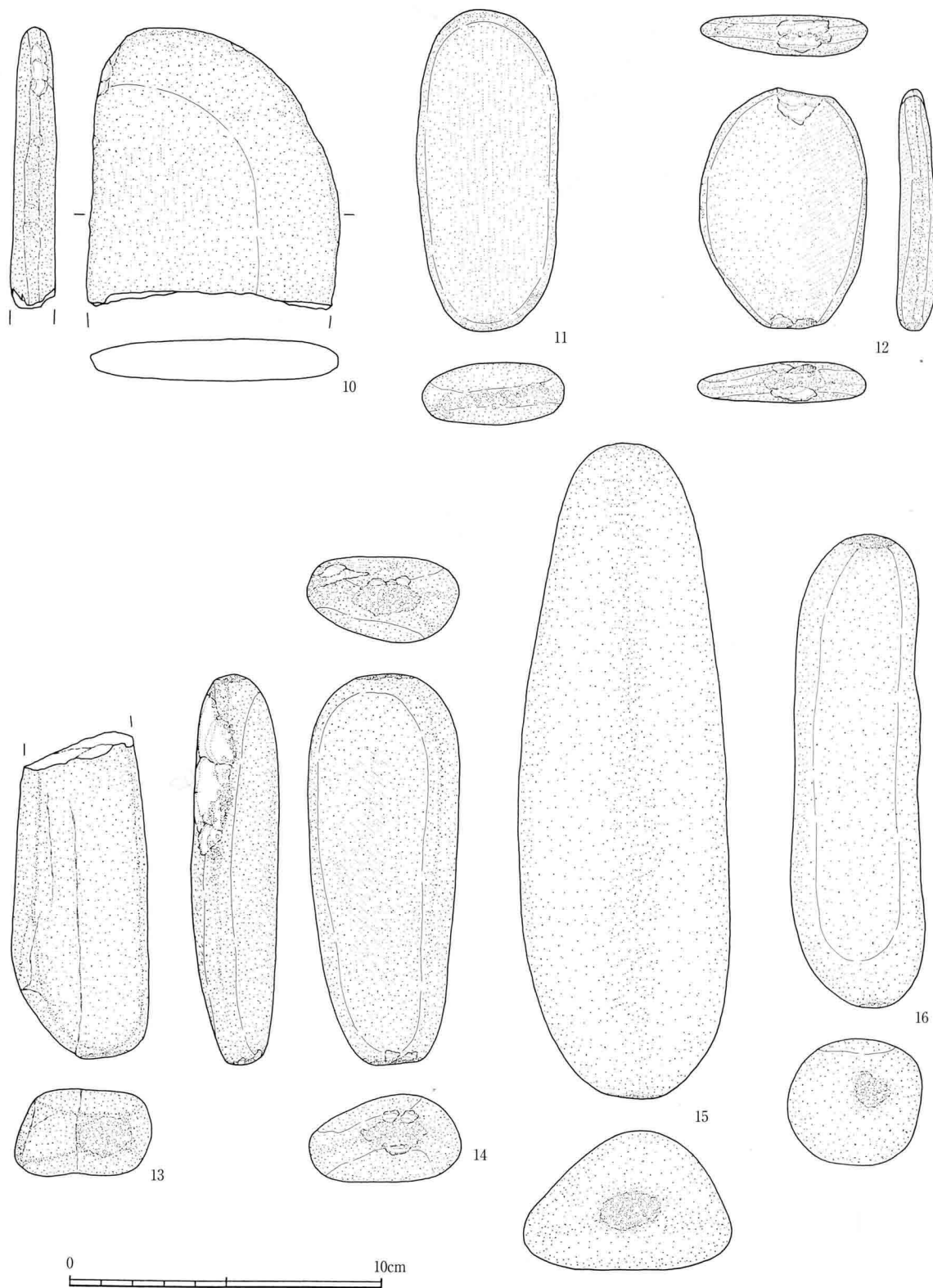
砥石 10点出土している。軽量で手に保持して使用する手持ち砥石は8点あり、材質は砂岩材4点、硬砂岩材2点、玄武岩材1点、石墨片岩材1点である。地面等に固定して使用する置き砥石は2点あり、材質は砂岩材1点、硬砂岩材1点である。61は砂岩材の置き砥石である。機能部は表裏面および全側面にわたり、表面には長さ8.1cm、幅1.8cmの範囲内に顕著な溝や筋状の痕跡が何本も認められる。62~64は砂岩材の手持ち砥石で3点とも1/3程度の欠損がある。63は機能部が上部側面を除き全面にわたり、表裏面ともに顕著な使用痕跡が認められる。

軽石製品 2点出土している。65・66はともに面状の砥面(?)を有し、半分程度の欠損がある。特に66は全側面にわたって砥面(?)が認められる。

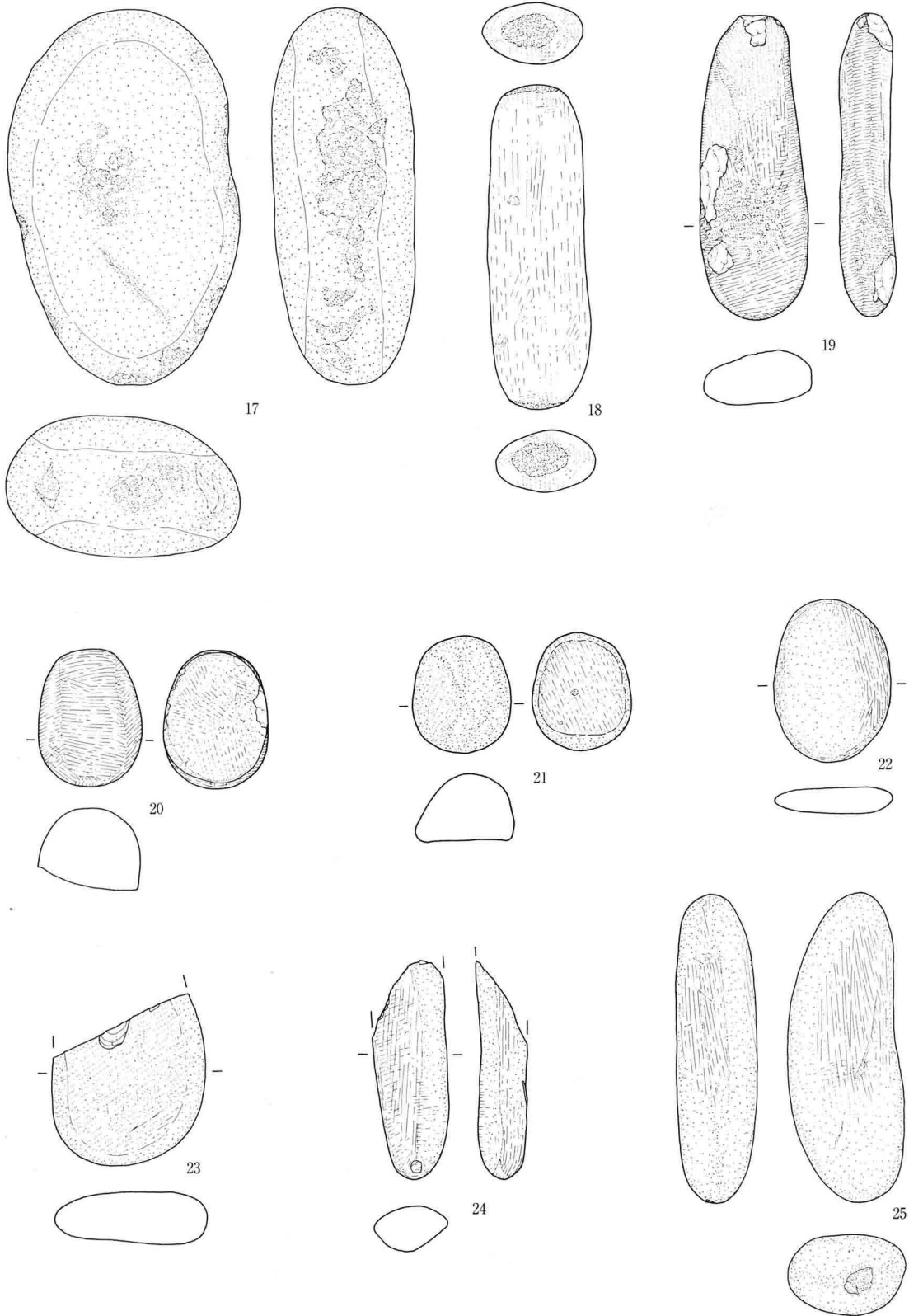


94図 石器実測図① (1:2)

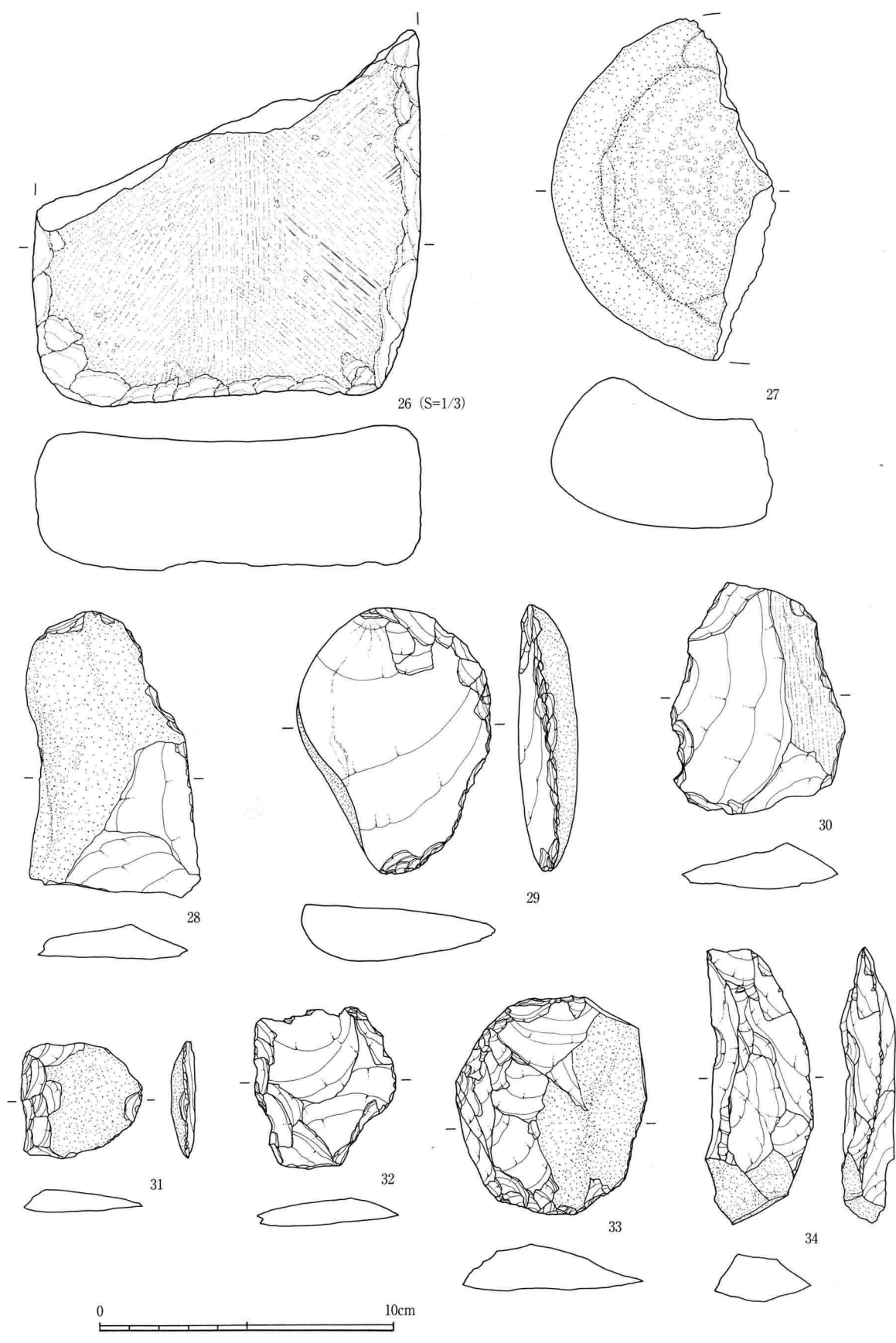
玉類 3点出土している。ヒスイ材の白玉1点(67)、ガラス玉1点(68)、黒色頁岩材の管玉1点(69)である。
 紡錘車 糸を紡ぐときの回転軸のはずみ車に使用されたもので、欠損品が1点出土している。70は蛇紋岩材の直径4.7cm程度と推定される紡錘車の一部である。表面に研磨による光沢があり、孔の縁辺には使用痕とみられる筋状の溝が時計周りに認められる。



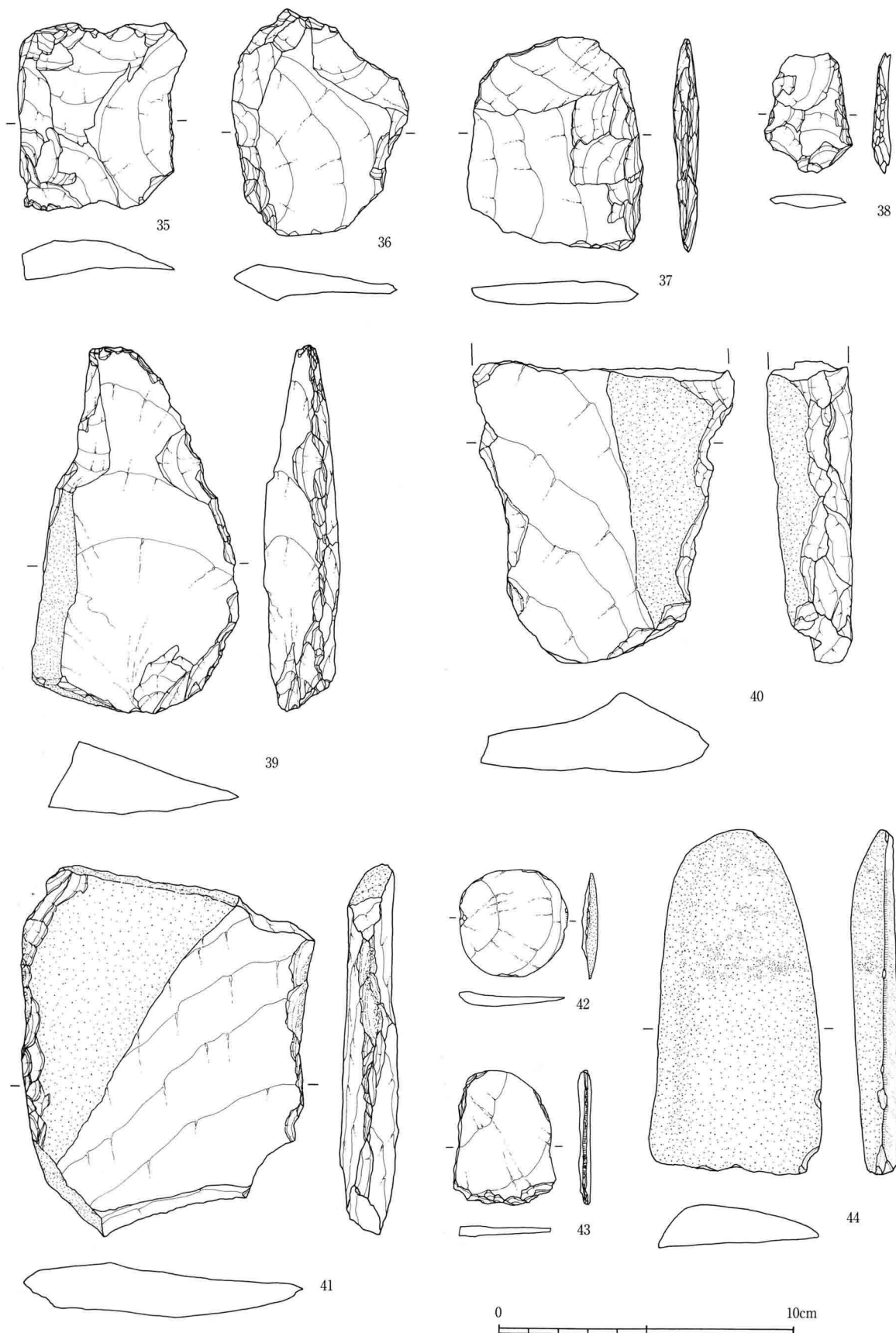
95図 石器実測図② (1:2)



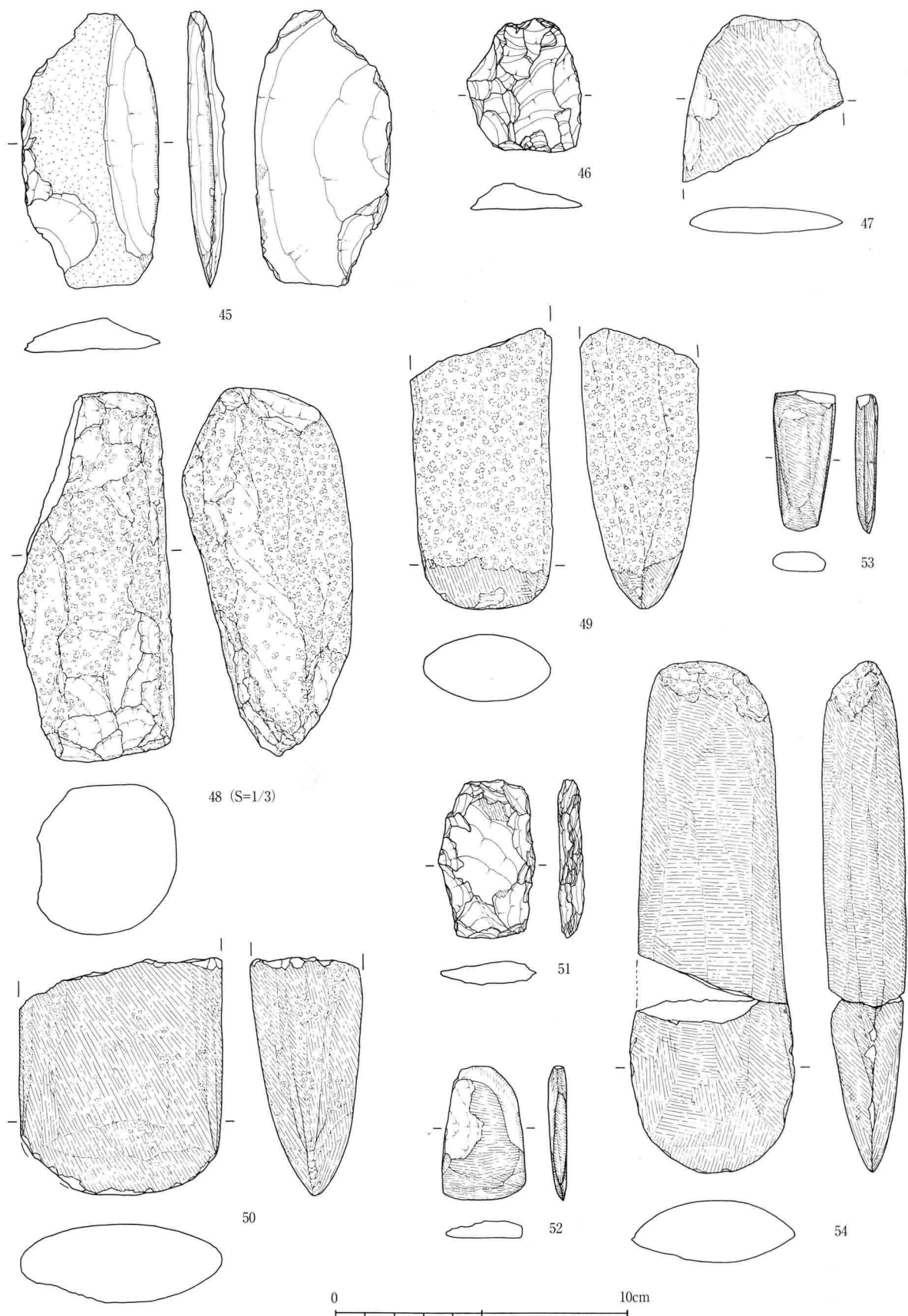
96图 石器实测图③ (1:2)



97图 石器实测图④ (1:2)



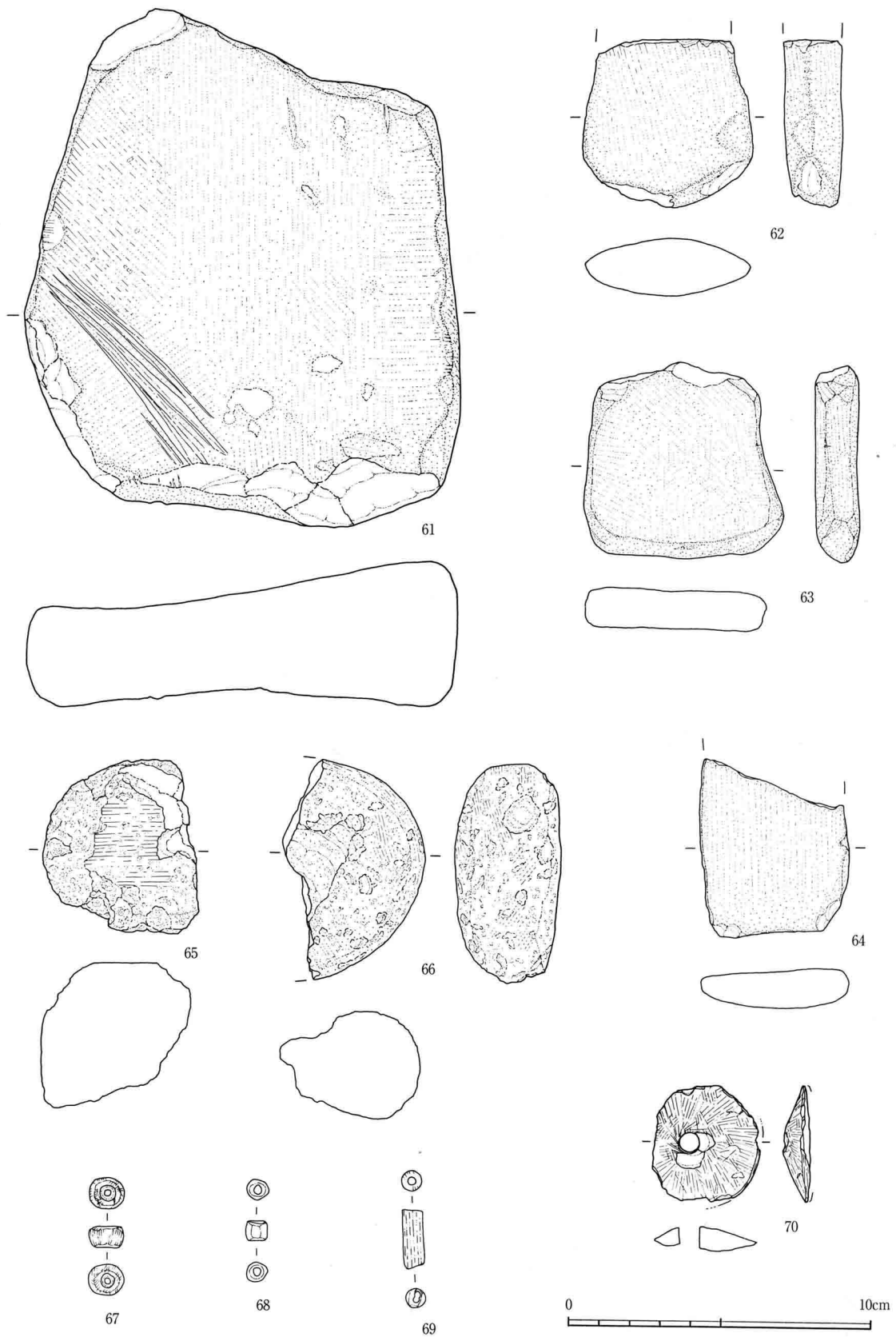
98图 石器实测图⑤ (1:2)



99图 石器实测图⑥ (1:2)



100图 石器实测图⑦ (1:2)

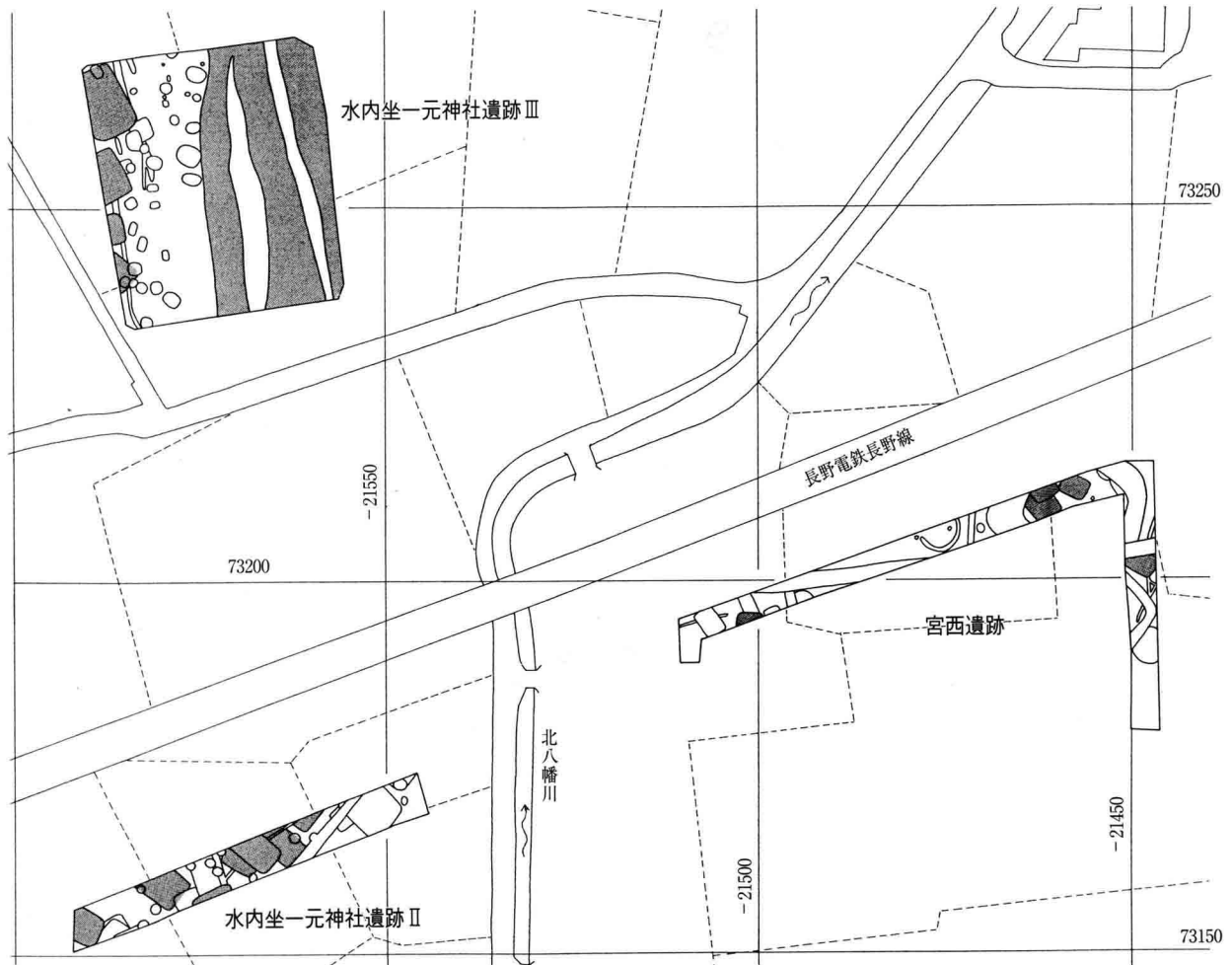


101図 石器実測図⑧（1：2）ならびに玉類実測図（2：3）

第4章 考 察

第1節 環濠と集落

環濠はA号・B号の2条の大溝で形成されているようであるが、調査地北端で合体し1条の溝になるようである。また、南端付近においてもB号溝址の内側上端の曲線からこの傾向がうかがわれる。この推測が正しければ土塁と称した中央の土盛りは意識的に造られた祭祀的な場の可能性がある。実用性の無い弓・槍先・装飾盾等の武器形木製品は環濠の性格を裏付けるとともに、枝付の自然木や農耕具等の木製品と共に祭祀の一翼を担った祭祀具と考えられる。B号溝址の最下層から出土したことも重要な意味をもっているものと思われ、弥生時代終末期の時代比定と祭祀後のあり方を暗示しているようである。それは、外周の断面扁平U字形のB号溝址に遺棄している点からV字形を呈するA号溝址の優位性と、祭祀行為の短期的な一時性をものごとっている。5・4層の出土土器には在地のもの他に北陸系や東海系の土器やその影響のもとに作られた在地系の土器がある。土器の取り上げ方によるものか一部に混在がみられるが、5層出土土器の方が在地系弥生時代後期・箱清水式土器そのものが多く認められる。これに対し4層のものは在地系土器に形態や文様構成に変化がみられ、更に北陸系や東海系に系譜を求めることができる器種が増加する。二層間における時間的差はほとんどなく継続的關係にあるも



102図 調査地と近隣遺跡の弥生時代後期主要遺構分布図 (1:1,000)

のと思われる。土器の他地域との交流にみられるように弥生時代の解体期を迎え、政治的・文化的揺籃からの緊張から環濠の形成と、土塁上では農耕祭祀というよりも武器形木製品を伴う戦闘祭祀が行われたものと考えられる。こうした意味から環濠は弥生時代後期終末期に機能し、その後徐々に埋没して古墳時代後期に至って溝の姿を消す。さて、環濠が二重の溝で巡るのかを含めて形態・規模等は不明であるといわざるをえない。調査地の南約70mに位置する水内坐一元神社遺跡Ⅱからはこの遺構の続きが確認されない。この距離範囲内で屈曲しているものと思われる（102図）。

今回の調査では環濠に関与すると思われる住居址は4軒確認されているが、調査区の西端に位置し全容を検出した遺構はない。それぞれ単独で確認され、主軸方向もほぼ北西に方位を指すという画一性がみられる。C号溝址より東側の遺構面は傾斜をしているとの所見を得ているので、環濠内集落跡の一部とみて間違いないだろう。出土土器も弥生時代後期箱清水式期のもので、5号住居址からは東海系の低脚高坏片が出土しており終末期の様相がうかがえる。しかし、環濠と同様に集落形態や規模等は不明である。水内坐一元神社遺跡Ⅱは環濠外に位置し、弥生時代後期の住居址8軒確認されている。この内5軒は主軸方向が北西にあり、出土土器にも北陸系のものやその影響下の在来系土器が多く確認されている。また、近接する宮西遺跡で当該期の住居址が少なくとも3軒が検出されている。今回調査した地点とこれら調査地の住居址や集落形態に近似したものがあり、同時存在の可能性が高いものとみている。こうしたあり方から環濠・集落・祭祀等の関係は地域共同体による集団祭祀であるのか、環濠内集落と環濠外集落の性格の相違や従属関係の有無等の内容の把握は今後の調査に委ねるところが大きい。

当該期の土壌も数多く検出されているが、土塁上からは確認されていない。調査の所見では環濠と住居址域との間に展開しているようである。また、土塁構築間に集中する可能性も高い。また、内蔵する土器も豊富で、17号土壌のように炭化材がみられることから祭祀行為に関与する遺構とみている。

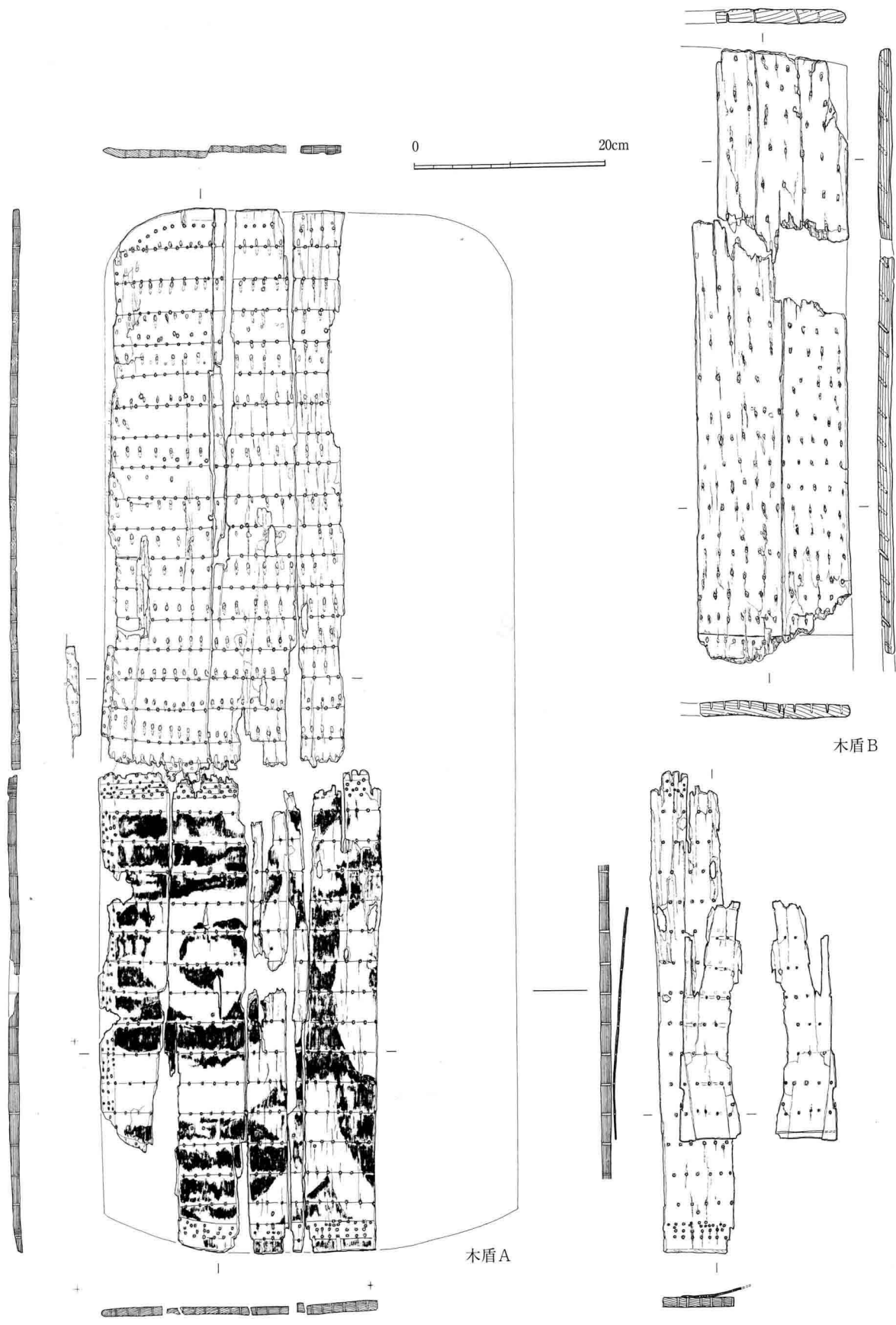
第2節 環濠出土の木盾

鹿児島大学 橋本達也

木盾（103図）は2面出土している。そのうち残存部位の大きい方を木盾A、小さい方を木盾Bとして以下記述する。なお、両盾ともにきわめて脆弱な遺存状態であったため、保存処理を先行し、後に図化・観察を行っている。よって、湾曲のひずみ、接合部の不一致など、本来の形態が変化している部分がある。また各計測値にも若干の歪みによる誤差が含まれている可能性が高い。なお、以下の記述において盾の左右は盾面に向かった状態での方向を示す。

1. 木盾A

形態 左側辺は良好に残り、また上下辺も全体の約2/3程度残存しているとみられ、その構造は良好に復元できる。また、幅の推定も可能で全体を復元することが可能である。すなわち、木盾Aは盾全体の右側約1/3を欠失した遺存状態である。輪郭は上辺、下辺ともに角を落として弧を描き、側辺は直線的である。上辺は直線部が長く、弧はやや急で、下辺は弧が長く緩やかになるようである。構造は、上半部と下半部で大きく異なり、それを区画する中間帯がある。上半部の上辺、下半部の側辺と下辺に沿って縁取りをなす帯状の部位が存在する。ただし上半部と下半部ではその縁取り方法は異なっている。全長は108.6～108.8cmである。残存幅は上半部で25.5cm、下半部で29.6cmを測る。木取りや後述する下半部文様の表現から、盾本来の幅は43～46cm程度に復元できる。木取りは板目取りで上下を縦におき、盾表面を木表、盾裏面を木裏とし、心に近い部位を盾中軸になるようにしている。厚みは、現状で上半部は0.7～0.8cm、下半部は0.9～1.1cmである。下に向かって徐々に厚くなっている



103图 木盾实测图 (1:6)

ようである。ただし下辺周辺は逆に削り落として薄く仕上げている。端部は上辺では板の木口の角を落とした程度であるが、側辺では1.5cmくらいの幅を最大で2mm程度削り、丸くおさめている。また下辺では端部より2.2cmの幅で最大3mm削り、薄く仕上げている。盾本来のカーブは変形と割れのため、不明確であるが横方向にはやや内湾するようである。また、上下方向では本来の形状が不明であるが、現状で上下端がやや外面側にそる弓反りの状態を呈している。盾面に開けられた孔は基本的に表面からあけられている。孔はおおむね縦長の形状を呈し、多くは直径2～3mm程度である。穿孔面は一段やや広く彫り下がり、それから真っ直ぐ開削されている。孔付近の繊維はやや乱れるように見え、鋭利な穿孔具によるものではなさそうである。材質は分析結果によるとヒノキ科ヒノキ属である。

上半部 上半部は上辺から中間帯までの58.0～58.2cmを測る。上辺から1.7～1.9cm下方に辺に沿って1.0～1.2cm間隔で上辺部を縁取る穿孔を行う。とくにこの部分に何らかの付属部品があったとは観察できない。下半部の縁取りとは異なりこの孔に直接、紐を通したとみられる。上半部は全面に2種類の加工がみられる。一つは罫書き線を刻み、その線上に穿孔をするものである。この孔に紐を通して縦割れ防ぎ、また装飾的効果をもたらす弥生時代前期以来の木盾に広くみられる技法である。以下、この孔を紐列孔、横方向の孔列を紐列とする。また紐列は上から第1・第2紐列と数える。罫書き線はきわめて細く、またほとんど深さがなく鋭利な利器によって描かれたとみられる。もう一方の加工は盾表面から斜め下方向に孔を抉り、そこに細い木材部品を差し込むものである。この孔は裏面まで貫通しているものと、貫通していないものがあるが、木盾Bとの比較などからみても、本来は貫通させないものである可能性がある。木盾Aで裏まで抜けているものは意図したものではなく、その薄さのために貫通したか、後の木痩せによるものであろう。差し込まれている木材部品は良好なものでも盾面からごくわずかにはみ出る程度にしか残っていないため、本来の長さやそれ自身への装飾の有無などは不明である。これはとくになかを挟んで留めた痕跡もなく、盾の本質的な構造に関わるものではないので、盾面から上向きに飛び出るトゲ状の装飾と見なし得る。また、側辺部では外側斜め上向きに飛び出すように配置されており、さながらハリセンボン状を呈している。以下、これを棘状装飾と呼ぶ。紐列は17列ある。紐列間の間隔は3.0～3.5cmまでであるが3.2cm程度の間隔のものをもっとも多い。また、横方向の紐列孔の間隔は部位によって若干異なるが線刻上におおむね1.0～1.5cmで穿たれ、1.2cm程度がもっとも多い。紐列孔は縦方向・横方向ともに割り付けられて配置されている。棘状装飾は断面長5mm前後、幅3mm前後の楕円形状を呈する木材部品を差し込んだものである。その多くが紐列間に横方向1列ずつ存在するが、第1～2紐列間、第6～7紐列間には存在しない。また、第8～9紐列間は側辺近くに3本ほど存在するのみでほとんど存在しない。第3～4紐列間の中央部は2段の棘状装飾、また中央部第4紐列直下にも集中部分があり、第3～4紐列中央部付近では集中的な分布をしている。第5紐列より上にある上半部上半の棘状装飾はそれより下位のものより鋭角に刺さっており、部位によって傾きを変えている。側辺に沿ったところでは外側斜め向きに飛び出る縦方向に配列された2列の棘状装飾が存在する。第4紐列上、側辺近くに6孔が横に並び、中央部にも1孔確認できる。また、第6紐列上の側辺よりに4～5mmの大きめの孔が2孔、4.7cm間隔をあけて並んでいる。また、第8紐列でも残存側辺の5.7cm内側から3ないし4つの穿孔がある。ほかにも若干ランダムに穿孔がある。これらがいかなる性格の孔であるかは、ただちには明確にし難い。ただ、構造・装飾に関わる孔の配置とは異質であることからすれば、盾を置いておくときか、持つときかの判断は別として使用に関わる部品を取り付ける孔である可能性は考え得る。

中間帯 上半部と下半部の境に帯状に密な穿孔を行った部分がある。その穿孔間隔が上下左右ともに狭いため、かえって強度を弱めており破損が著しい。また、歪みによる変形もあるが、中間帯の幅はおおむね2.7cmと考えられる。この幅の間に横方向5列ほどの紐列を施している。穿孔間隔は1.0～1.4cm程度が多いが、部分的にはさら

にその間に穿孔したところもあり、また必ずしも正確な直線的配置になっていない部分がある。上半部の第17紐列から2.2cm下とさらにその下1.0cmのところに罫書き線が刻まれている。それより下位に罫書き線はない。また中間帯の孔をつなぐような黒ずんだライン状の痕跡が観察できる。この穿孔方法は中央部分で下半部の装飾が直線的にとぎれることや下半部の側辺、下辺部縁取りと同様の構造であることから考えて（詳細は後述）、盾面の上に帯状の板を当ててその上から紐を通したものと考えられる。ここでは記述の便宜上、中間帯としたが構造上はむしろ下半部の上縁とできる。

下半部 下半部は長さ47.9cmを測る。きわめて、特徴的な赤色の装飾文様を施す部位であるが、まずはその構造から記す。下半部も横方向の罫書き線を刻み、その線に沿って穿孔を行っている。装飾の塗彩痕跡からみて、横方向の孔間に紐を通していたことが明確にうかがえる。紐列は14列あり、その間隔は3.0～3.5cmの範囲におさまるが、3.1cm程度のものが最も多い。横方向の紐列孔間隔は1.0～1.5cmであるが、1.2cm程度が最も多い。すなわち、上半部の紐列幅・紐列孔間隔と同様に割り付けられている。側辺は側辺端に沿って幅1.5cmの、下辺部は下辺端から1.5cm内側から幅1.5cmの帯状部がある。この帯状間には3列の孔がある。ただし、必ずしも整然と並んでいるわけではない。この帯状部を境に赤色塗彩が直線的に途絶えることから、この上には板を当てて縁取りし、その上から塗彩していたものと観察できる。また、紐列の罫書き線は縁取り板の下となる帯状部にも及んでおり、縁取り部製作以前に紐列の罫書き線を刻んでいる。この帯状の縁取り板は紐列で取り付け、盾周辺部を補強し、反りを防ぐものとみられる。第3紐列下、側辺から3.5cmの位置とそれからさらに5cmあけたところに穿孔がある。また、第4～5紐列間の側辺近くに3孔、第8紐列上の側辺から12.1cmの左側渦巻き文中心部下に1孔、第11～12紐列間に側辺部から欠損部を挟んで両側に5孔およびその列の中央部付近に1孔がある。これらの孔も上半部にあったものと同様にその用途を明らかにすることはできないが、第3紐列下の孔は上半部の第6紐列上のものと様相が近く、対応関係にある可能性も考慮できる。他のものは明確にし難いが、やはり側縁に近い位置に、紐列・装飾ともに直接関係しない横位の穿孔があることは上半部と同様である。下半部には全体を使い、赤色塗彩によって蕨手状の渦を基調とした装飾文様が施されている。赤色部分と、地色の白木の部分からなる配色である。赤色塗彩は盾表面のみで端部側面に及ばない。また、紐列の紐部分は着色されていないことから、紐列孔に紐を通した後、塗彩を行ったことがうかがえる。残存部位では左巻きの渦巻文が主体を占め、その渦の輪郭をかたどるように上部、下部に対象をなす山形の白色部とその内側に三角形の赤色部がある。また、残存部位の左端付近では向かって右側にある右巻きの渦巻文とみられる部分がある。渦巻文は左右に一对であろうから、この盾は全体幅の中心よりやや右側まで残っていることが確認できる。これは盾全幅を推定する一つの情報となる。赤色塗彩は分析によるとベンガラである。木盾は基本的に朱彩を行うものであることや、実物が保存処理後もピンクに近い発色をしている部分が多いことなど、やや異彩を放っている。

付属板 下半部の残存部位のうち、もっとも右側にある板の裏面には厚さ1.8～2.3mmのきわめて薄い板が貼り付けられている。大部分は現状で盾本体から外れているが、一部は接着したまま残っている。残存長は25.0cm、残存幅6.5cmを測るが、欠損しており、本来の大きさは不明である。下側2辺の一部が残り、角は直角に近い。木目は上下に真っ直ぐ通る。現状では歪んでいるため、盾本体と正確には一致しないが本来は本体の孔にあわせた穿孔が行われている。また、盾本体を裏返したときの付属板の表面に紐を通したとみられる痕跡がうかがえ、本体と同時に紐を通したものとみられる。下辺部の角から1cmのところでは盾本体の紐列孔を避けたとみられる小さい挟りがある。また本体と接着する側となる付属板の裏面には下辺に沿って、5～6mm内側に二本の罫書き線刻がある。この板の位置は盾表面からみれば下半部のほぼ中央部にあたる。よって、木材の心に近く、反りによるもっとも変形や破損のしやすい盾面中央部を補強したものと考えられる。また、使用時の構造に関わる可能性

もあるが、現状では板が貼り付いているという以外の情報を読みとることはできない。

2. 木盾B

形態 大きく5片が残っている。盾面に向かって右側辺が比較的良く残り、また上辺は一部残存する。下辺および左側辺は全くないため右上半部の状況のみ確認できる。また、裏面の遺存状況が不良でかなり木痩せし、深い溝が多くできている。側辺は直線的である。上辺もまた直線的であるが、角部に向かってややさがり気味に傾斜し、全体に緩やかな弧を描くようである。現状の破片をつないだ残存全長は64.7cm、幅は最大16.1cmである。残存する盾表面全体に棘状装飾をもつが、詳細は後述する。とくに上辺や側辺に沿った縁取りはない。残存部位の下端近くに1本の罫書き線刻があるが、これがいかなる部位にあたるのか判断は難しい。上辺から罫書き線刻までの長さは61.6cmである。木盾Aを参考にするるとこの近辺から上半部と下半部の構造が異なった可能性は考慮できる。木取りは板目取りで上下を縦におき、盾表面を木表、盾裏面を木裏として、おそらく心に近い部位を盾中軸になるようにしているとみられる。厚みは1.3~1.5cmあり、あきらかに木盾Aよりも分厚い。端部は板材の角を丸くおさめる程度に削っているが特別な加工はしていない。現状で上下方向のカーブはなく、ほぼ直線的に残存する。左右方向は上辺近くでは直線的ながらやや外反りがあり、残存下半部では内反りになっている。材質は分析されていないが、硬い針葉樹材でモミではないと見られる。

装飾 木盾Bには残存部位の全面に棘状装飾が施されている。それ以外では残存下端部近くに1本の罫書き線刻があるだけで、紐列孔やその他の孔は存在しない。また残存部位は白木である。棘状装飾は盾表面から斜め下向きに孔を抉り、その中に棘状の細い木材部品を差し込んでいる。この孔は裏面には貫通しない。棘状装飾は必ずしも直線的ではないが基本的に横方向に列をなして並んでいる。上辺から罫書き線刻までの間には21列存在し、また線下に1列確認できる。おおむね列ごとの間隔は第12列目までの残存上半部が3~4cmと広く、また中心から側辺に向かってさがり気味に弧を描き配されている。第13列より下位の残存下半部の列間隔は2~3cmで2.5cm程度のものが最も多く上半部より狭い。またこの部分の列は比較的直線的に並んでいる。また残存上半部の装飾孔間はおおむね2.0~2.5cm程度であるが、残存下半部の孔間は1.3~1.8cm程度のものが多く上半よりも密である。すなわち第12と13列を境に配置を変えており、装飾効果に変化をつけている。なお、第1列は上辺との関係からその間隔は他のものと異なり狭くなっている。ここに1.2cm以上飛び出た棘状部品を差し込んだ場合、棘上部は盾の上辺より上に飛び出ることになる。側辺付近も装飾孔間隔が狭くなっているが、木盾Aのように外側向きにはしていない。棘状の部品はややはみ出る程度にしか残っていないため、形状を確かめることはできないが、その残存部からみると、断面長6mm・幅3mm前後のものが差し込まれている。大きいものでは断面長9mm・幅3mmにもなる、平たい部品が入っている。

木盾Aの特徴

弥生時代から古墳時代の木盾の樹種は一般的にモミであり、また赤彩は水銀朱である。それ以外は稀であるといつてよいほど盾の素材は限定的である。その限定性は盾の製作・使用に関わる精神的な背景を反映すると考えられ、その意味において木盾は単なる物理的な防御具としてのみ機能したわけではない可能性が考えられる。この点においてまず、木盾Aがヒノキ材であり、ベンガラによる彩色を行っていることはきわめて特異である。ただし、木盾Aがこれほどまでに良好に遺存したのは保存環境に恵まれたことに加えて、木盾に一般的なモミ材ではなく、ヒノキ材で製作されていたこともあるだろう。また、上半部にみられる棘状装飾は同じく長野市内の石川条里遺跡に類例が存在するが、これは他の地域では確認されていない技法である。この技法は長野善光寺平に特有のものなのか、東日本での木盾の類例が少ないので確定はできないが、現状では弥生時代後期のこの地域でしか見られない技法であり、木盾の研究に地域性の視点が必要であることを示している。一方で、罫書き線を刻

み、穿孔し、紐を通す技法は弥生時代前期に現れ、中期以来一般的に存在する紐列式木盾の範疇にあることを示している。この盾自体は弥生～古墳時代木盾の系譜において異質なものである。文様に関してはただちに同一文様の類例をあげられないが、これは木盾Aほど遺存状況の良好な資料が少ないことによるもので、同様の模様を描いたのではないかとみられる木盾破片は若干存在する（奈良県唐古・鍵遺跡第13次、大阪府瓜生堂遺跡、鳥根県青谷上寺遺跡など）。一般的に弥生時代後期には装飾的な盾が多くなる。木盾Aは特徴的な素材、装飾をもち、地域的様相の検討を必要とする一方で、弥生時代後期の盾に共通する要素を保持しており、その良好な遺存状態からしてもこの時期を最も代表する盾であることは疑い得ない。

木盾Bの特徴

木盾Bは棘状装飾を少なくとも上半部全面に配置することを特徴とする。上述したようにこの技法はきわめて例の少ないものである。また、少なくとも上半部には紐列孔がなく、木盾Bをただちに紐列式木盾として分類することはできない。ただ、その下半部に紐列の存在を想定するか、木盾Aを介することによって木盾Aの粗製品ないし省略形とみなし、紐列式木盾から派生したものと考えることは可能である。弥生時代後期において紐列式木盾以外の木盾の明確な資料が現状では確認できないことからすればきわめて特殊な木盾といえる。たとえ下半部に紐列があっても、上半部の広範囲に紐列を施さない例は弥生時代中期前半までに存在した無紐式木盾以降ほとんどない。あるいはこれがより縦割れの懸念が少ない硬い材とみられることと関係しているかもしれない。木盾Bは形態・端部・技法・厚みなどの点からみて、木盾Aよりも粗雑なつくりである。しかし、基本的には棘状装飾からみて密接な関係をもつもので、その粗製品である可能性が高いとみる。ともかくこの盾も木盾Aとともに、弥生時代後期において、これまでほとんど確認されていない技法を用いたものであり、盾の時期・地域を検討する重要な資料である。

水内坐一元神社遺跡出土木盾の意義

水内坐一元神社遺跡出土の木盾、とくに木盾Aはきわめて良好な資料である。これまで弥生時代の盾は全国各地から出土しているが、全形が復元できるほど良好な資料は大阪府東大阪市鬼虎川遺跡出土のうちのもっとも遺存状況の良い1例以来である。確実な資料情報に基づいて全形復元模型（140頁下段写真）まで製作されたのは、これに次いで2例目である。これまで、弥生時代の木盾で全形復元されたものが鬼虎川盾のみであったことから、弥生盾＝鬼虎川盾のイメージがかなり強いと思われる。しかし、鬼虎川盾は弥生時代中期前半の近畿の盾は代表しても、それが弥生時代を代表する盾とはできないものである。無紐式木盾に分類できるこの盾は、現状では弥生時代前期末～中期前半の近畿でのみ確認される盾である。弥生時代から古墳時代までの一般的な盾はこれと異なる紐列式木盾である。これらの意味において水内坐一元神社遺跡例において初めて、弥生時代の紐列式木盾の全形が復元されたことはきわめて重要である。しかし、弥生時代後期の善光寺平に存在した水内坐一元神社盾も棘状装飾などほかではみられない独自の属性を有しており、これも弥生時代の全般に一般的な盾とはできない。しかしむしろ今後、この盾の系譜的な脈絡などの検討を要するという点を念頭に置いた上で積極的に評価することは、新たな研究の方向性を提供したという大きな意味をもっている。また、盾の技法のみならず弥生時代の文様の系譜やその背景にある世界まで検討する素材を提供し、今後の研究においてこの盾から引き出される可能性ははかり知れないと考える。

[参考文献]

橋本達也 1999「盾の系譜」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室

(財)長野県埋蔵文化財センター 1997『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書15 石川条里遺跡』

(財)東大阪市文化財協会 1987『鬼虎川の木質遺物－第7次発掘調査報告書 第4冊－』

第3節 木盾Aの樹種鑑定

(株)吉田生物研究所 汐見 真
京都造形芸術大学 岡田 文男

樹種 ヒノキ科ヒノキ属 (Chamaecyparis sp.)

木口では仮導管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹種細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1~2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。

以上の検鏡結果から、本材はヒノキ科ヒノキ属と考えられる。

使用顕微鏡 Nikon MICROFLEEX UFX-DX Type 115

第4節 木盾Aの赤色塗彩部分の観察結果

京都造形芸術大学 岡田 文男

盾の赤彩部分について、塗装断面の顕微鏡観察を行い、塗装技法を調査したので結果を報告する。

調査方法 赤色に彩色された部分から約2mm角の剥落試料を採取し、資料をエポキシ樹脂に包埋し、研磨して薄片に仕上げ、透過光による観察を行った(現段階ではその他の機器分析は行っていない)。

結果 写真1(透過光、100倍) 木材組織の板目部分が観察され、赤色顔料が仮導管に1層分浸透し、木材表面にもわずかに付着しているのが認められる。膠着剤はわずかに黄褐色を呈している。写真2(透過光、500倍) 写真1をさらに拡大し、赤色顔料の粒子を観察したもので、パイプ状のベンガラ粒子がわずかに認められた。膠着剤は黄褐色を呈している。

以上の観察から、赤色顔料は形状からパイプ状ベンガラ、膠着剤は漆と推察された。

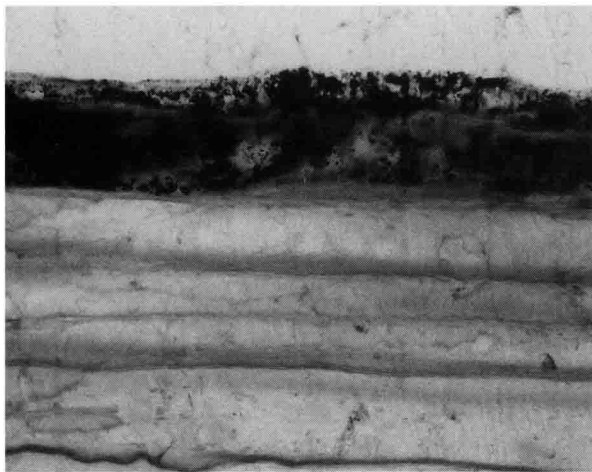


写真1

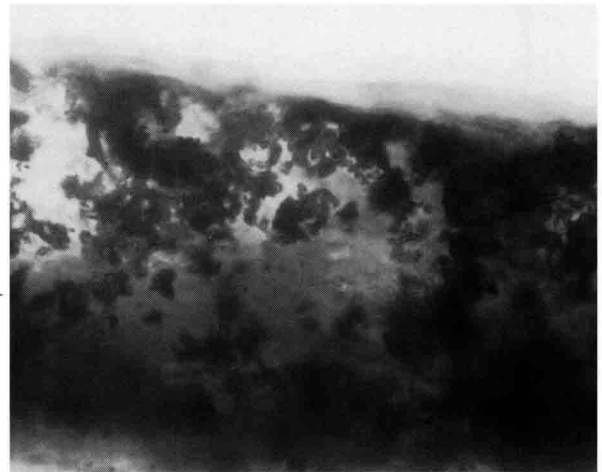


写真2

土器観察表

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
2号住居址									
1	甕	36.8			1/10		複合口縁(粘土帯貼り付け) 文様: IV B	横覧磨き	
2	台付甕	12.2	8.7	14.3	4/5		文様: I C 胴下半: 縦覧磨き 胴部: ハケ→縦覧磨き	胴部: 横覧磨き 脚部: ナデ	
3	器台?	7.6	8.1		完		ハケ→ナデ(摩耗詳細不明)	ナデ	
4	蓋				完		摘部: 指頭押捺 体部: ナデ	ナデ	
3号住居址									
5	甕	11.2	4.4	12.0	1/3		文様: IV B (施文単位毎に施文順序異なる) 胴下半: 縦覧磨き 底部: 篋削り	横覧磨き	
6	甕	13.5			完		文様: I B 簾状文の止め数は不明	横覧磨き	
5号住居址									
7	壺	18.9			3/4		篋磨き・赤彩	口縁: 篋磨き・赤彩 胴部: ナデ	
8	壺	23.0			1/4		ハケ→縦覧磨き	横覧磨き・赤彩	
9	壺				4/5		口縁: 縦覧磨き・赤彩 頸部: 櫛描T字文(2本) 胴部: 横～斜覧磨き・赤彩	口縁: 篋磨き・赤彩 胴部: ハケ	
10	壺				1/4		二重口縁 ハケ→篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	
11	壺		11.8		完		ハケ→縦覧磨き	横覧磨き	
12	壺		6.5		1/3		胴部: 縦覧磨き 底部: 篋削り	胴部: 部分的に横覧削り ハケ	
13	甕				1/3		文様: I B・C (施文単位毎に施文順序逆になる) 等間隔止め簾状文 胴下半: 縦覧磨き	横覧磨き	
14	甕	18.0			2/3		文様: I E 右回り等間隔止め簾状文 ハケ	篋磨き(胴部は磨き以前に篋削りの可能性有り)	
15	甕		4.8		2/3		胴部: 波状文 胴下半: 縦覧磨き 底部: 篋削り	横覧磨き	
16	台付甕		8.2		1/3		縦ハケ(摩耗詳細不明)	ハケ→ナデ	
17	台付甕		9.3		3/4		ハケ→ナデ	胴部: 摩耗不明 脚部: ナデ	
18	坏	13.8	4.8	5.4	完		口唇部: 山形突起4 体部: 篋磨き・赤彩 底部: 篋削り	横覧磨き・赤彩	
19	穿孔鉢	22.5	6.2	11.8	2/3		口縁～体部上半: 篋削り→横覧磨き 体部下半: 篋削り 底部: 篋削り・焼成前穿孔1	横覧磨き(摩耗詳細不明)	
20	高坏	26.3			1/6		横覧磨き・赤彩	横覧磨き・赤彩	
21	高坏				1/10		直線文→山形文→直線文→羽状刺突文→直線文(原体はハケもしくは貝殻腹縁)	ナデ	SD1に同一個体有り
1号土壌									
22	坏	15.0		5.4	2/3		口縁: 篋磨き 底部: 篋削り→篋磨き	口縁: ハケ→篋磨き 底部: 放射状篋磨き	
2号土壌									
23	蓋	26.8		9.7	2/3		摘部: ナデ→赤彩 体部: 篋磨き・赤彩	摘部: ナデ→赤彩 体部: 篋磨き・赤彩	
24	蓋	25.2		8.1	完		摘部: ナデ→赤彩 体部: ハケ→篋磨き・赤彩	摘部: ナデ→赤彩 体部: 篋磨き・赤彩 口縁付近に煤附着	
25	蓋	19.5		8.9	3/4		ハケ→篋磨き 頂部に焼成前穿孔1	ハケ→篋磨き	
26	台付鉢		10.2		2/3		ハケ→篋磨き 脚部: 篋磨き 外面赤彩の可能性有り(摩耗不明)	胴部: 篋磨き 脚部: 篋ナデ→ナデ	
27	高坏	29.6			完		篋磨き・赤彩 脚部との接合は円板充填	篋磨き・赤彩	
8号土壌									
28	壺	16.8			1/10		縦覧磨き・赤彩	横覧磨き・赤彩	
29	蓋	13.1		4.5	完		摘部: ナデ 体部: 篋磨き 頂部に焼成前穿孔1	篋磨き	
30	壺	32.4			4/5		口唇: 山形突起 口縁部: ハケ→縦覧磨き・赤彩 頸部: 櫛描T字文(2本)→右回り等間隔止め簾状文 胴部: ハケ→篋磨き・赤彩	口縁部: 篋磨き・赤彩 胴部: 篋削り	
12号土壌									
31	甕	14.5			1/4		文様: I A 頸部は直線文	横覧磨き	
32	台付甕		8.0		完		縦覧磨き 脚部との接合は円板充填	胴部: 篋磨き 脚部: ハケ	
33	台付甕		6.6		2/3		文様: I E 頸部は直線文 脚部: 縦覧磨き	胴部: 篋磨き 脚部: ナデ	
14号土壌									
34	壺	31.8			3/4		口縁部: 縦覧磨き・赤彩 頸部: 右回り2連止め簾状文→櫛描T字文(2本)	口縁部: 篋磨き・赤彩 胴部: ナデ	
35	壺	16.0			3/4		口縁部: 面取り→横覧磨き 口縁部: 縦覧磨き	横覧磨き	
36	坏	14.4			1/3		横覧磨き・赤彩	横覧磨き・赤彩	
37	台付甕		9.6		3/4		胴部: ハケ→横覧磨き 脚部: 縦ハケ→雑な篋磨き	胴部: 篋磨き 脚部: ナデ	
38	壺		11.0		1/3		胴部: 斜覧磨き・赤彩 胴下半: 横～斜め篋磨き 底部: 篋削り	ハケ→ナデ(剥落詳細不明)	
16号土壌									
39	壺	11.0			1/5		横覧磨き	篋磨き→黒色処理	
40	甕	14.0			1/8		ハケ→横ナデ	ハケ→ナデ	
41	甕	20.4			1/8		口縁部: ハケ→横ナデ 胴部: ハケ	口縁部: ハケ→ナデ 胴部: ナデ	
17号土壌									
42	壺	17.8			完		口縁部: つまみ上げ状の強横ナデ面取り 口縁部: 縦覧磨き 胴部: 横覧磨き	口縁部: 横覧磨き 胴部: 篋削り→ナデ	
43	壺	14.2	5.1	18.7	完		口縁部: ハケ→雑な横覧磨き・赤彩 胴部: ハケ→篋磨き・赤彩 底部: 篋削り	口縁部: ハケ→篋磨き・赤彩 胴部: ナデ 底部: 篋削り	
44	壺	15.1			完		口縁部: 横覧磨き・赤彩 2個一対の緊縛孔 胴部: 篋磨き・赤彩	横覧磨き	
45	無頭壺	8.6	4.2	8.6	4/5		口縁部: 2個一対の緊縛孔 篋磨き・赤彩 底部: 篋削り	横覧磨き	
46	甕	17.4	6.7	23.2	完		文様: I B 頸部は右回り2連止め 口縁部: 強い横ナデによる面取り 胴下半: 縦覧磨き 底部: 篋削り	口縁部: 横覧磨き 頸部: 篋削り→篋磨き 胴部: 篋磨き	

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
47	台付甕	15.4			完		文様：I A 頸部はやや不規則な右回り等間隔止め 胴下半：縦磨き (摩耗詳細不明)	口縁部：横磨き 胴部：ハケ→磨き	
48	台付甕	13.2			完		文様：I A 頸部：右回り3～4連止め簾状文 胴下半：縦磨き	磨き	
49	甕		4.0		1/3		文様：I B 頸部：右回り2連止め簾状文 胴下半：ハケ→磨き 底部：磨き	横磨き (頸部は磨き以前に磨きの可能性有り)	
50	高坏	24.6			完		横磨き・赤彩	横磨き・赤彩	
18号土壌									
51	壺		5.8		完		口縁部：縦磨き 胴部：磨き 底部：磨き	口縁部：横磨き 胴部：ハケ→磨き	
52	甕	17.8			1/4		口縁部：面取り 口縁部：縦ハケ	横ハケ	
53	台付甕	13.8			1/8	○	口縁部：ハケ状工具による押し引きの刺突 胴部：斜ハケ→横ハケ	口縁部：内面面取り 頸部～胴部：ナデ	
54	坏	14.0	4.1	6.3	1/6		磨き・赤彩 底部：磨き	磨き・赤彩	
55	壺	5.2			完		ハケ→ナデ	磨き	
56	器台				4/5		磨き・赤彩 円形透孔3	受部：磨き赤彩 脚部：ナデ	
57	高坏				3/4		縦磨き 円形透孔3	ナデ	
58	器台	7.4	11.2	7.9	4/5		口縁・受部：横磨き 脚部：縦磨き円形透孔3	受部：横磨き 脚部：ハケ→ナデ	
23号土壌									
59	壺	12.9			完		磨き・赤彩	口縁部：磨き・赤彩 頸部：ナデ	
60	壺				1/3		磨き・赤彩	ハケ→ナデ	
61	台付甕		8.4		1/3	○	胴部：粘土帯貼付突帯 磨き・赤彩 脚部：磨き・赤彩	口縁部：ナデ 胴部：ナデ 脚部：ナデ	
62	鉢	12.6			1/8		口縁部：横磨き・赤彩 体部：磨き・赤彩	口縁部：横磨き・赤彩 体部：磨き	
63	穿孔鉢	20.8	4.9	9.5	完		磨き 底部：焼成前穿孔1	横磨き	
64	坏		4.9		2/3		体部：磨き・赤彩 底部：ナデ	磨き	
28号土壌									
65	甕	16.8			1/3		口縁部：横磨き 胴部：縦磨き	口縁部：横磨き 胴部：磨き	
66	鉢	16.8			1/8		磨き	横磨き	
67	坏	14.9			1/4		口縁：横磨き 底部：磨き→磨き	口縁：横磨き 底部：ハケ→磨き	
68	鉢	14.8			1/4		磨き？	口縁部：面取り 体部：磨き？	
29号土壌									
69	台付甕	12.4			1/4	○	口縁：ハケ刺突 胴部：羽状ハケ→横ハケ	口縁部：面取り 頸部：横ハケ 胴部：指押しえ	
30号土壌									
70	甕	16.3			1/3		口縁：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：磨き→ナデ	
71					完		横磨き (摩耗詳細不明)	横ナデ	
72	杯	12.4		5.0	1/2		口縁：横磨き 底部：ハケ→磨き	口縁：横磨き 体部：ハケ→磨き	
73	杯	20.2		6.8	1/2		磨き	磨き→黒色処理	
74	高坏	16.2	13.8	12.2	完		杯部：横磨き 脚部：磨き	杯部：磨き 脚部：しぼり→ナデ	
75	瓶	22.6	10.5	29.2	1/2		口縁：横ナデ 胴部：縦～斜磨き	口縁：横ナデ 胴部：磨き→ナデ	
31号土壌									
76	甕	15.5			1/6		文様：I E	ハケ→磨き	
33号土壌									
77	台付甕		8.2		1/2		文様：I A 胴下半部～脚部：縦磨き	胴上部：磨き・赤彩 胴下半：ハケ→磨き 脚部：ナデ	
1・A号溝址第5層									
78	壺		8.0		3/4		口縁：縦磨き・赤彩 頸部：右回り2連止め簾状文→描T字文 (2本) 胴上半：横磨き・赤彩 胴下半：縦磨き 底部：ナデ	口縁：横磨き・赤彩 胴上半：ハケ 胴下半：剥落不明	I区R20
79	壺				1/6		口縁：縦磨き 頸部：描T字文 (2本) 胴部：横磨き	口縁：横磨き 胴部：ナデ	IV区
80	壺				2/3		口縁：ハケ→横磨き・赤彩 頸部：描直線文	口縁：磨き・赤彩 胴部：ナデ	IV区R27
81	壺				1/2		口縁：ナデ 頸部：描T字文 (1本) 胴部：横磨き	口縁：磨き 胴部：剥落不明	II区 R24
82	壺				2/3		口縁：縦磨き・赤彩 頸部：直線文→1/2円弧文 胴部：横磨き・赤彩	口縁：磨き・赤彩 胴部：磨き	V区
83	壺	14.3	7.2	26.7	3/4		口縁：縦磨き 頸部：右回り等間隔止め簾状文2段 胴部：磨き→ナデ	口縁：横磨き 胴部：磨き→ナデ	II区R24
84	広口壺				1/2		磨き・赤彩	磨き	IV区
85	広口壺	16.2			1/4		口縁：磨き・赤彩 頸部：直線文or簾状文	ハケ→磨き・赤彩	III区
86	広口壺	14.4			1/3		ハケ→磨き・赤彩 口縁：2個一対の緊縛孔	ハケ→磨き・赤彩	III区
87	壺	12.5	5.1	21.9	1/2	○	口縁：強横ナデ 胴上部：斜ハケ 胴下部：磨き 底部：磨き	口縁：強横ナデ 胴上部：磨き→ナデ 胴下部：磨き	I区R20
88	壺	17.3			1/10		横磨き・赤彩	横磨き・赤彩	VI区
89	壺	7.4			1/2		擬凹線文	ハケ→ナデ	I区R21
90	甕	20.6			4/5		文様：II B・C (施文単位毎に施文順序異なる) 口縁部：面取り→波状文 頸部：右回り3連止め 胴下部：磨き	口縁：横磨き 胴部：磨き 頸部：磨き→磨き	I区
91	甕	10.2			1/4		文様：I A 頸部：右回り等間隔止め簾状文	口縁：横磨き 胴部：ナデ	I区
92	甕	23.3	10.7	34.1	1/3		文様：I A・B (胴部は施文単位毎に施文順序異なる) 口縁部：つまみ上げ状の横ナデ面取り→波状文 胴下部：ハケ→磨き→ナデ 底部：磨き→ナデ	口縁：磨き→磨き 胴部：磨き→磨き	I区R20・R21
93	甕	22.2			1/3		文様：I A 口縁部：つまみ上げ状の横ナデ面取り 頸部：右回り3連止め簾状文 胴下部：縦磨き	口縁：磨き→磨き 胴部：磨き→磨き	I区
94	甕		6.4		1/3		胴下部：縦磨き 底部：磨き→ナデ	横磨き	I区
95	甕	28.5			1/8		描波状文上→下	横磨き	I区R21

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
96	甕	22.0			1/6		文様：ⅣB 口縁端部：面取り→横覧磨き	横覧磨き	V区
97	甕	22.2			1/6		文様：ⅠB 口縁端部：複合口縁（粘土帯貼付）→横覧磨き	横覧磨き	V区
98	甕	15.4			2/3		口縁：縦覧磨き 頸部：ハケ 胴部：ハケ→横覧磨き	口縁：ハケ→横覧磨き 胴部：覧ナデ	Ⅳ区R27
99	甕	22.1			1/6		文様：ⅠB 頸部：右回り等間隔止め簾状文 口縁端部：面取り	口縁：覧磨き 頸部→胴部：覧削り→覧磨き	V区
100	甕	18.2			1/4		口縁：波状文上→下 頸部右回り等間隔止め簾状文 口縁端部：面取り→覧磨き	横覧磨き	I区
101	甕	15.5			1/5		口縁端部：面取り→波状文 口縁：波状文上→下	横覧磨き	Ⅱ区
102	甕	13.3	4.8	13.2	完		口縁端部：面取り→波状文 文様：ⅠA 胴下部：縦覧磨き 底部：ナデ	口縁：横覧磨き 頸部：覧削り→覧磨き 胴部：縦覧磨き	Ⅲ区R26
103	甕	12.2	4.6	12.9	4/5		口縁端部：横ナデ面取り 文様：ⅠA 頸部：右回り3連止め簾状文 胴下部：縦覧磨き 底部：ナデ	口縁：横ナデ 胴部：覧削り→ナデ	V区
104	甕	10.8	4.4	10.7	完		口縁端部：面取り 文様：ⅠA 頸部：櫛描直線文 胴下部：縦覧磨き 底部：覧削り→ナデ	口縁→頸部：横覧磨き 胴部：縦覧磨き	Ⅵ区R25
105	台付甕	11.7			完		文様：ⅠA 頸部：右回り4連止め簾状文 胴下部ハケ→縦覧磨き	覧磨き	Ⅵ区R25
106	甕		8.6		2/3		胴部：波状文上→下 胴下部：縦覧磨き 底部周辺：横覧削り 底部：覧削り→ナデ	覧磨き	I区R21
107	甕	18.5			1/2	○	口縁：横ナデ 胴部：ハケの可能性有り	口縁：横ナデ 頸部：ハケ 胴部：覧削り	I区
108	甕	14.7			1/20	○	口縁：横ナデ 頸部：ハケ→覧磨き	口縁：横覧磨き 胴部：覧削り→ナデ	Ⅲ区
109	甕	15.2			1/20	○	口縁：横ナデ 頸部：ハケ	横ナデ	Ⅱ区
110	甕	18.6			1/20	○	口縁端部：ナデ→面取り 口縁：横ナデ 頸部：ハケ	口縁：横ナデ 頸部：ハケ	Ⅱ区
111	台付甕	14.4	8.6	22.8	2/3		口縁端部：面取り無し 口縁：横ナデ 胴部：羽状ハケ 脚部：斜ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：覧ナデor覧削り→ナデ 脚部：ナデ 脚端部の折り返しは無し	Ⅱ区
112	蓋	18.9		5.7	完		摘部：ナデ 体部：覧磨き 頂部に焼成前穿孔1	横覧磨き	I区
113	穿孔鉢	17.8	4.4	10.1	完		口縁：横ナデ→覧磨き 体部：ハケ→覧磨き 底部：焼成前穿孔1 覧削り	ハケ→横覧磨き	I区
114	注口鉢	15.6	7.9	17.5	2/3		注口1 ハケ→覧磨き 底部：覧磨き	ハケ→覧磨き	I区R28
115	坏	14.0	5.9	5.5	1/3		覧磨き・赤彩 底部：覧削り→覧磨き	覧磨き・赤彩	Ⅲ区
116	台付鉢				1/3		頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：ハケ→覧磨き	横覧磨き	Ⅲ区
117	高坏	22.7			1/2		覧磨き・赤彩	覧磨き・赤彩	I区R21
118	高坏	24.0			1/8		覧磨き・赤彩	覧磨き・赤彩	Ⅲ区
119	高坏	24.6			1/8		覧磨き・赤彩	覧磨き・赤彩	Ⅳ区
120	高坏	16.5			1/2		口縁端部：山形突起 覧磨き・赤彩	覧磨き・赤彩	I区
121	高坏	16.4			1/8		覧磨き・赤彩	覧磨き・赤彩	I区
122	高坏	9.5	7.3	11.6	3/4		坏部：覧磨き・赤彩 脚部：覧磨き・赤彩	坏部：覧磨き・赤彩 脚部：ハケ→ナデ	Ⅵ区
123	高坏		10.9		1/4		覧磨き・赤彩 三角形透孔：上下二段 千鳥状に各4個配列	横ナデ	Ⅳ区
124	高坏		4.8		1/4		脚端部内湾 覧磨き・赤彩	覧ナデ→ナデ	Ⅲ区
125	片口鉢	15.4			1/3		片口1 口縁：波状文 体部：ハケ→覧磨き・赤彩	ハケ→覧磨き・赤彩	Ⅳ区
126	高坏	16.2	9.8	12.6	2/3		口縁端部：面取り→覧磨き・赤彩 坏部・脚部：覧磨き・赤彩 脚端部：擬凹線・覧磨き・赤彩 円板充填	坏部：横覧磨き・赤彩 脚部：ハケ→ナデ	Ⅵ区
127	高坏		12.0		1/3		覧磨き・赤彩	坏部：覧磨き・赤彩 脚部：ハケ→ナデ	Ⅵ区
128	器台	23.3			1/2		覧磨き・赤彩	覧磨き・赤彩	Ⅵ区R27
129	器台	10.5	7.5	7.1	3/4		口縁端部：面取り 口縁：横ナデ 坏部：覧磨き 脚部：覧磨き	坏部：覧磨き 脚部：ナデ	I区
1・A号溝址第4層									
130	壺	21.1	5.8	29.9	1/2		口縁端部：山形突起 口縁：ハケ→覧磨き 頸部：櫛描T字文（2本）→右回り等間隔止め簾状文 胴部：ハケ→覧磨き 底部：覧削り	口縁：ハケ→覧磨き 胴上部：覧ナデ→ナデ 胴下部：ハケ	I区
131	壺				2/3		口縁：縦覧磨き・赤彩 頸部：櫛描T字文（2本）	覧磨き・赤彩	Ⅳ区
132	壺	17.4	6.1	27.3	4/5		口縁：縦覧磨き 胴上部：斜覧磨き 胴下部：覧削り→ナデ 底部周辺：横覧削り 底部：覧削り	口縁：横覧磨き 胴部：覧ナデ→ナデ	V区R18
133	直口壺	7.7	4.0	15.3	4/5		口縁：縦覧磨き・赤彩 胴部：縦覧磨き・赤彩 底部：覧削り→覧磨き	口縁：横覧磨き・赤彩 胴部：ナデ	Ⅲ区R13
134	壺	14.6	7.4	27.4	完		口縁：ハケ→横ナデ 胴部：波状文1 ハケ→縦覧磨き 底部：覧削り	口縁：横ナデ 胴部：覧ナデ→ナデ	Ⅱ区
135	壺	20.7			1/2		縦覧磨き	横覧磨き	Ⅵ区R19
136	壺	12.3			1/2		横ナデ	横覧磨き	Ⅲ区
137	蓋	9.5		1.6	1/4		口縁端部：面取り 覧磨き・赤彩	覧磨き	Ⅱ区
138	蓋	16.8		5.6	完		口縁端部：2個一対の緊縛孔 覧磨き・赤彩	覧磨き	I区R15
139	広口壺	12.0			1/8		覧磨き・赤彩 頸部：2個一対の緊縛孔	口縁：覧磨き・赤彩 胴部：覧磨き	V区R18
140	壺	11.3			2/3		口縁：縦ハケ→ナデ 胴上部：斜ハケ 胴下部：覧削り→ハケ	口縁：ハケ→横ナデ 胴部：覧削り	I区
141	壺				1/4		横覧磨き・赤彩	覧ナデ→ナデ	Ⅵ区
142	壺		8.7		1/3		ハケ→縦覧磨き 底部：覧磨き	ハケ	Ⅵ区
143	甕	27.8			1/6		口縁端部：面取り→波状文 口縁：波状文上→下 頸部：右回り等間隔止め簾状文	ハケ→横覧磨き	I区
144	甕	21.0			1/8		口縁：波状文上→下	口縁：横覧磨き 胴部：ハケ	Ⅱ区
145	甕	22.8	7.0	31.2	1/2		口縁端部：つまみ上げ状の横ナデ面取り 文様：ⅠB 頸部：右回り3連止め簾状文 胴下部：ハケ→縦覧磨き 底部：覧削り	口縁：横覧磨き 頸部：覧削り 胴部覧磨き	I区R17
146	甕	20.2	6.7	29.0	3/4		口縁：横ナデ 胴部：覧削り→ナデ 底部：覧削り	口縁：横ナデ 胴部：覧削り→ナデ	I区R14
147	台付甕		8.9		2/3		覧削り→ナデ	胴部：ナデ 脚部：覧削り	Ⅲ区
148	甕	21.3			1/8		口縁：波状文 頸部：簾状文	横覧磨き	Ⅱ区
149	甕	21.8			1/10		文様：Ⅱ 口縁：波状文上→下 頸部：簾状文or直線文	横覧磨き	V区

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
150	甕	20.1			1/6		口縁端部：面取り 口縁：波状文上→下	篋削り→軽い篋磨き	V区
151	甕	22.0			1/8		文様：II 口縁：波状文上→下 頸部：簾状文 or 直線文	ハケ→横篋磨き	III区
152	甕	14.0			1/6		口縁端部：つまみ上げ状の横ナデ面取り 文様：IA 頸部：右回り4連止め簾状文	ハケ→横篋磨き	I区
153	甕	18.8			1/6		口縁端部内湾 頸部：直線文 胴部：波状文 口縁：ハケ→ナデ	横篋磨き	II区
154	甕	20.4			2/3		口縁端部内湾 文様：I 波状文施文順序不定 胴下部：ハケ	口縁：横篋磨き 頸部：篋削り 胴部：篋磨き	I区
155	甕	16.5			2/3		口縁：強横ナデ 頸部～胴部：ハケ→ナデ	口縁：篋削り→横ナデ 胴部：篋削り→ナデ	V区
156	甕		6.5		1/3		ハケ→縦篋磨き 底部：篋削り→篋磨き	横篋磨き	I区
157	甕	10.5			1/3		文様：II 波状文施文順序不定 頸部：右回り3連止め簾状文 胴部：ハケ→ナデ	篋削り→篋磨き	VI区
158	台付甕	10.0			1/3		文様：IA 頸部：右回り簾状文 胴下部：摩耗不明	ナデ	I区
159	甕	8.6	4.4	10.6	完		口縁：指ナデ 胴部：ハケ	口縁：横ナデ 胴部：ハケ	II区
160	甕	10.7	5.8	13.5	完		口縁：横ナデ 胴上部：ハケ→ナデ 胴下部：篋削り 底部：ナデ	口縁：横ナデ 胴部：ナデ	II区
161	甕	9.0	4.0	11.1	1/3		口縁：ハケ→ナデ 胴部：篋削り→ナデ	ナデ	III区
162	甕	19.8			1/4		口縁：横ナデ 頸部：ハケ	ハケ→横ナデ	III区
163	甕	17.4			1/10		ナデ	ナデ	II区
164	台付甕	18.4	9.4	26.6	3/4		口縁：縦ハケ→横ナデ 胴部：斜ハケ 脚部：縦ハケ	口縁：横ハケ 胴部：篋ナデ 脚部：篋ナデ→ナデ	V区 R18
165	台付甕	13.4	8.2	18.6	完		口縁：横ナデ 胴部：斜～縦ハケ 脚部：ナデ	口縁：横ハケ 胴部：篋削り・ハケ 脚部：ハケ→ナデ	II区 R69
166	台付甕	15.3	8.5	19.1	完		口縁端部：面取り 口縁：横ナデ 胴部：剥落詳細不明 脚部：ナデ	口縁：横ナデ 胴部：篋削り 脚部：ナデ	VI区 R16
167	甕	12.2	4.0	11.9	完		口縁：横ナデ 胴部：篋磨き 底部：篋削り→ナデ	口縁：横篋磨き 胴部：篋磨き	IV区
168	甕	11.3	5.3	14.0	1/2		口縁：横ナデ 胴部：篋削り→ナデ 底部：篋削り	口縁：横ナデ 胴部：篋削り→ナデ	I区
169	甕	11.2			2/3		口縁：横ナデ 胴部：ナデ	口縁：横ナデ 胴部：篋削り→ナデ	IV区
170	甕	17.0			1/2	○	口縁：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	ナデ	VI区
171	甕	12.0			1/10	○	口縁：横ナデ 胴部：ナデ 口縁端部内面：面取り	口縁：横ナデ 胴部：ナデ	I区
172	坏	13.0	5.1	6.3	1/2		口縁：2個一対の緊縛孔 体部：篋磨き・赤彩 底部：篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	VI区
173	坏	12.1	3.6	15.8	完		体部：篋磨き・赤彩 底部周辺：篋削り 底部：篋削り	篋磨き・赤彩	I区
174	高坏	23.6			1/6		口縁端部：山形突起 坏部：篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	IV区
175	高坏	23.5			1/3		篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	III区
176	高坏	15.2			1/3		篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	VI区
177	高坏	17.5	13.1	14.4	2/3		坏部：篋磨き・赤彩 脚部：篋磨き・赤彩 三角形透孔4	坏部：篋磨き・赤彩 脚部：ナデ	VI区
178	高坏	19.6			1/8		篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	III区
179	高坏	18.0			2/3	○	重山形文→菱形文→山形文→菱形文を直線文で区画 原体はハケもしくは貝殻腹縁	口縁端部内面：面取り 坏部：篋磨き	II区
180	高坏	20.3	13.3	14.7	4/5		坏部：ハケ→篋磨き 脚部：ハケ→縦篋磨き 円形透孔上下二段各3個	口縁端部内面：面取り 坏部：篋磨き 脚部：ナデ	II区
181	高坏				1/3		篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	V区
182	高坏	14.3			3/4		坏部：篋磨き・赤彩 脚部：篋磨き・赤彩 円形透孔3	坏部：篋磨き・赤彩 脚部：ナデ	I区
183	高坏		13.0		完		ハケ→篋磨き・赤彩 円形透孔4	篋削り・ハケ	III区
184	高坏		14.4		完		篋磨き・赤彩 3個一組の円形透孔4組	坏部：篋磨き・赤彩 脚部：ナデ	III区
185	高坏		12.0		完		縦篋磨き 円形透孔上下二段各3個	篋削り→ナデ	I区
186	高坏		10.8		1/3		篋磨き・赤彩 円形透孔5	坏部：篋磨き・赤彩 脚部：篋磨き	VI区
187	高坏				1/8		粘土帯貼付突帯→櫛描直線文・赤彩	ハケ→ナデ	VI区
1・A号溝址第3層									
188	壺				4/3		頸部：右回り等間隔止め簾状文→波状文 胴部：ハケ→縦篋磨き	ハケ	
189	壺	36.0			1/4		口縁端部：山形突起4 口縁：縦篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	II区
190	広口壺	16.0			1/4		口縁端部：面取り→篋磨き 口縁：縦篋磨き	横篋磨き	III区
191	壺	15.5			1/4		横篋磨き	横篋磨き	III区
192	壺	20.0	7.3	33.2	3/4		口縁端部：面取り・ナデ 口縁部：横ナデ 胴上部：ハケ→篋磨き 胴下部：ハケ→篋磨き	口縁：横篋磨き 胴部：篋削り・ハケ→篋磨き	II区
193	壺	15.0			1/2		口縁端部：面取り・ナデ 口縁：縦篋磨き 胴部：縦～斜篋磨き	口縁：横篋磨き 胴部：ハケ	
194	広口壺	13.7	3.3	13.4	2/3		口縁：ハケ→横ナデ 胴上部：ハケ→ナデ 胴下部：篋削り？→ナデ	口縁：横ナデ 胴上部：篋削り 胴下部：ナデ	III区
195	壺		4.4		3/4		胴部：ハケ→ナデ 底部：篋削り→ナデ	篋削り→ナデ	III区
196	埴	12.6		14.3	3/4		口縁：篋磨き 胴部：篋磨き 底部：篋削り→篋磨き	口縁：縦篋磨き 胴部：ナデ 底部：篋平滑化やナデ	II区
197	小埴	8.8		8.0	完		口縁：横ナデ 胴部：ナデ 底部：篋削り→ナデ	口縁：ナデ 胴部：ナデ	I区
198	小埴	7.2		8.6	4/5		口縁：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：ナデ 底部：篋平滑化やナデ	I区
199	小埴				1/2		口縁：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：篋平滑化→ナデ	I区
200	小埴	8.0		9.8	2/3		口縁：横ナデ 胴部：ナデ 底部：篋削り	口縁：横ナデ 胴部：ナデ	I区
201	甕	15.0			1/10	○	口縁端部：つまみ上げ状の横ナデ→面取り 口縁：横ナデ	横ナデ	III区
202	甕	16.2			1/4	○	口縁端部：つまみ上げ状の横ナデ→面取り 口縁：摩耗不明	摩耗不明	III区
203	甕	15.0			1/10		横ナデ	横ナデ	III区
204	甕	13.0			1/10		横ナデ	横ナデ	
205	甕	16.6			1/2		口縁：横ナデ 胴部：ハケ	口縁：横ナデ 胴上部：ナデ 胴下部：篋削り・ハケ	
206	甕	17.7			1/8		口縁：横ナデ 頸部：横ナデ	口縁～頸部：横ナデ 胴部：篋削り	III区

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
207	甕	14.2		18.6	2/3		口縁：横ナデ 胴上部：篋削り→ナデ 胴下部～底部：篋削り	口縁：横ナデ 胴上部：篋ナデ 胴下部：篋削り 底部：篋ナデ→ナデ	Ⅱ区
208	甕	17.8			3/4		口縁：横ナデ 胴部：ささら状工具による擦痕	口縁：横ナデ 胴部：篋ナデ→ナデ	Ⅲ区
209	坏	14.1		6.6	3/4		篋磨き		Ⅰ区
210	坏	16.1		4.8	1/3		口縁～坏部上半：篋磨き 底部：篋削り→篋磨き	篋磨き→黒色処理	Ⅱ区
211	高坏	20.1			1/6		篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	Ⅱ区
212	高坏	12.7	8.0	12.1	完		坏部：篋磨き・赤彩 脚部：篋磨き・赤彩 三角形透孔4	坏部：篋磨き・赤彩 脚部：ナデ	Ⅰ区
213	高坏		13.5		1/3		縦篋磨き・赤彩 三角形透孔・円孔連続穿孔列各3単位	ハケ→ナデ	Ⅱ区
214	高坏		10.0		2/3		篋磨き・赤彩 円形透孔8	坏部：篋磨き・赤彩 脚部：ナデ	Ⅰ区
215	高坏	18.1	13.9	15.4	1/3		坏部：横ハケ→篋磨き 脚部：ハケ→篋磨き	坏部：篋ナデ→篋磨き 脚部：ハケ→ナデ	Ⅱ区
216	高坏	17.3	14.8	13.3	3/4		坏部：暗文状の縦篋磨き 脚部：縦篋磨き	坏部：篋磨き 脚部：しほり→ナデ	Ⅱ区
217	高坏	19.8	15.7	14.0	3/4		坏部：暗文状の縦篋磨き 脚部：縦篋磨き	坏部：暗文状の粗い縦篋磨き 脚部：しほり→ナデ	Ⅰ区
218	高坏		17.5		2/3		縦篋磨き	しほり→ナデ	Ⅰ区
219	高坏	22.7	17.4	16.7	3/4		坏部：横篋磨き 脚部：縦篋磨き	坏部：横篋磨き 脚部：しほり→ナデ	Ⅱ区
220	高坏		14.6		2/3		縦篋磨き	しほり→ナデ	Ⅰ区
221	高坏	17.1			1/3		横篋磨き	篋磨き→黒色処理	Ⅱ区
222	高坏		13.4		完		縦篋磨き	しほり→ナデ	Ⅱ区
1・A号溝址第2層									
223	壺	35.0			1/4		口縁：縦篋磨き・赤彩 頸部：櫛描T字文(2本)	横篋磨き・赤彩	Ⅱ区
224	壺	16.2			1/4		口縁：横篋磨き 胴部：縦篋磨き	口縁：横ナデ 胴部：ナデ	Ⅵ区R10
225	壺				完		口縁：縦篋磨き・赤彩 頸部：櫛描T字文(2本)	横篋磨き・赤彩	Ⅲ区R29
226	壺	12.0			1/6		擬凹線文 横篋磨き・赤彩	横篋磨き・赤彩	Ⅱ区
227	壺	11.6			1/10	○	擬凹線文 篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	Ⅱ区
228	広口壺	15.0			1/4		口縁：2個一対の緊縛孔 篋磨き・赤彩 頸部：右回り3連止め簾状文 胴部：篋磨き・赤彩	口縁：横篋磨き・赤彩 胴部：ナデ	Ⅱ区
229	壺	15.9			1/2		縦篋磨き	剥落不明	Ⅰ区
230	壺	12.2			2/3		口縁：篋磨き 胴部：斜～縦篋磨き	篋削り→篋磨き	Ⅵ区
231	壺	12.7			1/3		口縁端部：つまみ上げ状の強横ナデ 口縁：横ナデ 胴上部：縦篋磨き 胴下部：斜篋磨き	口縁：横ナデ 胴上部：横篋磨き 胴下部：篋平滑化→ナデ	Ⅱ区
232	埴	9.4		12.9	1/6		篋磨き 摩耗詳細不明	摩耗不明	V区
233	埴	9.7		12.6	4/5		口縁：篋磨き 胴部：摩耗不明	口縁：篋磨き 胴上部：指ナデ 底部：ハケ	Ⅵ区
234	壺	8.5			2/3		口縁：縦篋磨き・赤彩 胴部：縦～斜篋磨き・赤彩	口縁：篋磨き→黒色処理 胴部：ナデ	Ⅲ区
235	埴				完		摩耗詳細不明	胴上部：指押さえ 指ナデ 底部：ハケ	Ⅱ区R3
236	壺	8.3			1/2		摩耗詳細不明	摩耗不明	Ⅵ区R11
237	壺	9.3			2/3		口縁：縦篋磨き 胴部：縦篋磨き	ナデ→黒色処理	Ⅵ区
238	小埴				2/3		頸部：ハケ→ナデ 胴上部：篋磨き 底部：篋削り→篋磨き 焼成後穿孔1	口縁：篋磨き 胴部：ナデ	Ⅲ区
239	小埴				1/2		篋磨き?	ナデ	V区
240	甕	31.8			1/8		文様：Ⅱ 口縁：波状文上→下 頸部：右回り3連止め簾状文	ハケ→横篋磨き	Ⅰ区
241	甕	16.0			1/10		口縁：横ナデ 頸部：ハケ	横ナデ	Ⅰ区
242	甕	26.6	10.4	38.0	3/4		口縁：強横ナデ 頸部：右回り2連止め簾状文 胴部：櫛描縦羽状文→縦篋磨き 底部：篋削り	口縁：強横ナデ 胴部：ハケ→篋磨き?	Ⅵ区R4
243	甕	17.5	6.0	33.3	2/3		口縁端部：面取り 口縁：篋磨き 胴部：篋磨き	口縁：篋磨き 胴部：篋磨き	Ⅱ区R1
244	甕	16.0			2/3		口縁：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：篋削り	Ⅵ区R8
245	甕	14.0			1/3		口縁：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：篋削り・ハケ	Ⅲ区
246	甕	17.5			2/3		口縁：横ナデ 胴上部：ハケ 胴下部：篋削り・ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：篋磨き	V区
247	甕	16.8			1/4		口縁：横ナデ 胴部：ハケ	口縁：横ナデ 胴部：篋平滑化→ナデ	Ⅲ区
248	甕	17.8		21.4	1/2		口縁：ハケ→横ナデ 胴部：篋削り→ナデ	口縁篋ナデ→横ナデ 胴部：篋削り→ナデ	Ⅵ区
249	甕	20.8			3/4		口縁：横ナデ 胴部：篋削り→ナデ	口縁：ナデ 胴部：ナデ	Ⅱ区
250	甕	19.8			1/4		口縁：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	Ⅵ区R11
251	甕	18.2			2/3		口縁：横ナデ 胴部：篋削り 粘土帯接合痕を顕著に残す	口縁：横ナデ 胴部：篋削り	Ⅳ区
252	甕	15.9			1/2		口縁：横篋磨き(摩耗詳細不明)	ハケ→横篋磨き	Ⅰ区
253	甕	14.4			3/4		横ナデ	横ナデ	Ⅰ区
254	甕	4.0			1/3		胴下部：ハケ 底部周辺：篋削り	篋削り	Ⅳ区
255	甕	19.5	4.9	19.0	1/3		口縁：横ナデ 体部上半：ハケ 体部下半：ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	Ⅵ区
256	鉢	11.2			2/3		丁寧な篋磨き	篋磨き	Ⅳ区
257	鉢	14.0			1/3		口縁～胴部：摩耗不明 底部：篋削り→篋磨き	篋磨き→黒色処理	Ⅳ区
258	鉢	12.5			1/3		口縁：横ナデ 体部：篋削り→ナデ or 篋磨き	篋磨き	Ⅵ区
259	鉢	16.6		8.5	2/3		口縁：横ナデ→篋磨き 体部：篋削り→篋磨き	篋磨き	Ⅳ区R8
260	坏	13.5		5.3	2/3		ハケ→篋磨き 底部：篋削り→篋磨き	篋磨き	Ⅵ区
261	坏	14.1		6.3	1/2		口縁：横ナデ 坏部：篋削り→篋磨き	篋磨き→黒色処理	Ⅵ区
262	坏	12.8		5.5	1/3		口縁：横ナデ→横篋磨き 坏部：篋削り→篋磨き	篋磨き	Ⅵ区
263	坏	15.0		5.8	1/2		口縁：横ナデ 坏部：篋削り→篋磨き?	篋磨き?	Ⅵ区
264	坏	12.4		5.9	2/3		篋磨き	篋磨き	Ⅰ区
265	坏	16.0		5.7	2/3		口縁：横ナデ 坏部：篋削り→篋磨き	篋ナデ→篋磨き	Ⅵ区
266	坏	15.2		6.1	4/5		口縁：横ナデ 坏部：ハケ→横ナデ	ハケ→横ナデ→黒色処理	Ⅰ区

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
267	坏	12.8		5.5	1/3	口縁：横ナデ→横磨き 坏部：磨削り→磨き	磨き→黒色処理	Ⅵ区	
268	坏	14.6			2/3	口縁：横ナデ 坏部：磨削り→磨き	磨き？	Ⅵ区	
269	坏	12.9		5.9	1/3	摩耗詳細不明	摩耗不明	Ⅲ区	
270	坏	14.4		6.3	1/2	摩耗詳細不明	磨き→黒色処理	Ⅲ区	
271	坏	12.8		5.1	2/3	口縁：横磨き 坏部：磨削り→磨き	磨き	Ⅱ区	
272	坏	12.0		4.1	1/2	口縁：磨き 底部：磨削り→磨き	磨ナデ→磨き	Ⅴ区	
273	坏	10.0			1/3	磨き？	磨き？	Ⅳ区	
274	坏	11.8		4.4	1/2	口縁：横ナデ 底部：磨削り→ナデ	ナデ	Ⅱ区	
275	坏	15.0		5.0	1/2	磨削り→磨き	磨き	Ⅵ区	
276	坏	16.8		7.1	2/3	口縁：横磨き 底部：磨削り→磨き	磨き→黒色処理	Ⅲ区	
277	坏	15.3			1/2	磨き	磨き→黒色処理	Ⅲ区	
278	高坏	15.2			3/4	口縁端部：山形突起4 坏部：磨き・赤彩 脚部：磨き・赤彩 三角形透孔4	坏部：磨き・赤彩 脚部：ナデ		
279	高坏	17.3	12.7	12.6	完	坏部：縦磨き 脚部：縦磨き 竹管による円形刺突1	坏部：磨き 脚部：ナデ	Ⅴ区R9	
280	高坏	17.8	12.8	12.3	2/3	坏部：磨き 脚部：ナデ			
281	高坏	19.4	13.9	14.2	1/2	坏部：縦磨き 脚部：縦磨き	坏部：磨き 脚部：磨削り→ナデ	Ⅰ区	
282	高坏	17.8	14.6	13.8	3/4	坏部：縦磨き 坏部下半：横磨削り 脚部：縦磨き	坏部：磨き 脚部：ナデ	Ⅱ区	
283	高坏	16.6	12.6	11.2	3/4	坏部：縦磨き 脚部：縦磨き	坏部：縦磨き 脚部：しぼり→ナデ	Ⅲ区	
284	高坏	18.9	14.5	14.5	2/3	坏部：ハケ→磨き 脚部：磨き	坏部：ハケ→磨き 脚部：ナデ	Ⅵ区	
285	高坏	18.4	14.9	15.1	2/3	坏部：ハケ→磨き 脚部：磨き	坏部：ハケ→磨き 脚部：ナデ・ハケ	Ⅵ区R10	
286	高坏	17.5			3/4	摩耗不明	摩耗不明	Ⅱ区R6	
287	高坏	16.8			2/3	磨き	坏部：磨き 脚部：ナデ	Ⅲ区	
288	高坏	21.6			2/3	坏部：ハケ→磨き 脚部：磨き	坏部：磨き	Ⅳ区・	
289	高坏	15.8			2/5	坏部：縦磨き	坏部：縦磨き	Ⅰ区	
290	高坏	15.7			2/5	ハケ→磨き	ハケ→磨き	Ⅵ区	
291	高坏		12.8		2/5	摩耗不明	摩耗不明	Ⅰ区	
292	高坏	18.8	12.4	14.0	2/3	坏部：磨き 脚部：磨き	坏部：磨き 脚部：しぼり→ナデ	Ⅱ区	
293	高坏	18.4	13.4	13.2	2/3	坏部：磨き 脚部：磨き	坏部：磨き 脚部：しぼり→ナデ	Ⅱ区	
294	高坏	18.6	12.9	13.0	2/3	坏部：磨き 脚部：ハケ→磨き	坏部：磨き 脚部：ナデ		
295	高坏	17.6			1/3	坏部：縦磨き 脚部：縦磨き	坏部：斜磨き 脚部：磨ナデ	Ⅱ区	
296	高坏	16.8	11.6	12.8	2/5	坏部：縦磨き 脚部：縦磨き	坏部：摩耗不明 脚部：ナデ	Ⅰ区	
297	高坏	26.6	17.0	20.1	3/4	坏部：ハケ→縦磨き 脚部：縦磨き	坏部：磨き 脚部：ナデ	Ⅱ区R6	
298	高坏	22.6			1/4	ハケ→縦磨き	縦磨き	Ⅵ区	
299	高坏	21.1			2/3	ハケ→磨き	ハケ→磨き	Ⅲ区	
300	高坏	23.6			完	磨き	磨き	Ⅵ区	
301	高坏	17.9	12.8	16.0	1/3	坏部：ハケ→磨き 脚部：ハケ→磨き	坏部：磨ナデ→磨き 脚部：磨削り→横ナデ	Ⅵ区	
302	高坏		11.4		完	縦磨き 端面取り	ナデ	Ⅲ区	
303	高坏		17.8		3/4	縦磨き	ハケ→ナデ	Ⅱ区	
304	高坏	19.4	14.6	15.1	2/3	坏部：磨削り→磨き 脚部：磨き	坏部：磨き→黒色処理 脚部：磨ナデ→ナデ	Ⅰ区	
305	高坏	14.9	12.8	15.5	2/3	磨き (摩耗不明)	坏部：磨き→黒色処理 脚部：ナデ	Ⅵ区	
306	高坏	14.9			3/4	口縁端部：内側へ肥厚 坏部：磨き	磨き→黒色処理	Ⅳ区	
307	高坏	9.5			2/3	ハケ→磨き	磨き→黒色処理	Ⅵ区	
1・A号溝址									
308	壺	7.0			2/3	口縁：横ナデ 頸部：沈線区画→縄文充填	ナデ	Ⅲ区4層	
309	壺	7.9			完	口縁端部：LR縄文 頸部：LR縄文地文→沈線区画	口縁：横ナデ 頸部：ナデ	Ⅲ区5層	
310	壺	8.6			2/3	口縁端部：LR縄文 頸部：粘土帯貼付突帯 LR縄文+沈線区画	口縁：横ナデ 頸部：ナデ	4層	
311	壺	10.2			2/3	口縁端部：LR縄文 口縁：ハケ→ナデ 頸部：LR縄文+沈線区画	口縁：横ナデ 頸部：ナデ	Ⅱ区2層	
1・B号溝址第5層									
312	壺	12.8	5.7	14.8	完	口縁：磨き・赤彩 胴部：磨き・赤彩 胴下半は磨き以前の磨削り痕を顕著に残す 底部：磨削り	口縁：磨き・赤彩 胴部：磨削り	Ⅵ区R62	
313	壺	11.8	4.4	15.3	完	口縁：ハケ→磨き・赤彩 胴部：ハケ→磨き・赤彩 底部：磨削り	口縁：ハケ→磨き・赤彩 胴部：ナデ	Ⅳ区R73	
314	壺	9.4	5.2	14.7	完	口縁：磨き・赤彩 胴部：磨削り→磨き・赤彩 底部：磨削り	口縁：磨き・赤彩 胴部：磨削り 輪積み痕を顕著に残す	Ⅵ区R60	
315	壺	12.6			1/4	横磨き・赤彩	横磨き・赤彩	Ⅵ区	
316	壺		4.7		1/3	ハケ→磨き・赤彩 底部：磨削り	磨ナデor磨削り	Ⅵ区R65	
317	壺	12.5	5.1	21.0	完	口縁：横磨き・赤彩 胴部：縦磨き・赤彩 底部：磨削り	口縁：磨き・赤彩 胴上部：磨削り？ 胴下部：ハケ	Ⅵ区R59	
318	甕	18.2			1/8	○ 口縁：横ナデ 頸部：ハケ	横ナデ	Ⅵ区	
319	甕	13.2			2/5	文様：IA 頸部：右回り等間隔止め簾状文	磨き	Ⅵ区	
320	甕	24.4			2/3	文様：IA 頸部：右回り3連止め簾状文	磨き 頸部付近のみ磨削り痕残す	Ⅵ区R65	
321	甕	22.1	7.0	25.2	2/3	口縁端部：面取り 文様：IA 頸部：右回り3連止め簾状文 胴下部：縦磨き 底部周辺：磨削り→斜磨き 底部：磨削り	磨き	Ⅴ区	
322	甕	16.1			1/5	文様：IA 頸部：右回り5連止め簾状文 胴部：文様無し ハケ→縦磨き	ハケ→横磨き	Ⅵ区	
323	甕		5.9		2/3	文様：IA 頸部：右回り2連止め簾状文 胴部：縦磨き 底部周辺：横磨削り 底部：磨削り	磨き	Ⅵ区R61	

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
324	台付甕	20.3			4/5		文様：I 口縁：波状文施文順序不定 頸部：右回り4連止め簾状文 胴上部：波状文上→下 胴下部：ハケ→縦磨き 脚部：縦磨き	口縁：ハケ→横磨き 脚部：磨き 頸部付近にのみ磨き痕残り 脚部：ナデ	Ⅵ区 R65
325	高坏	13.5			3/4		坏部：磨き・赤彩 脚部：磨き・赤彩 三角形透孔4	坏部：磨き・赤彩 脚部：ナデ	Ⅵ区 R62
326	高坏				完	○	磨き・赤彩	坏部：磨き 脚部：ナデ	Ⅲ区
327	高坏		11.9		2/3		縦磨き・赤彩 円板充填	坏部：磨き・赤彩 脚部：ハケ→ナデ	Ⅲ区
328	高坏		9.8		2/3		磨き・赤彩 脚部：磨きによる面取り	坏部：磨き・赤彩 脚部：磨き	V区
329	壺	19.1			2/3		口縁：斜ハケ 頸部：磨きT字文 直線文は2本一対の磨きによる	口縁：ハケ 頸部：ナデ	Ⅵ区 R58
330	壺				1/2		口縁：横ナデ 頸部：沈線区画→右回り等間隔止め簾状文→波状文(上→下)	口縁：ハケ→ナデ 頸部：ナデ	Ⅲ区
1・B号溝址第4層									
331	壺	16.0			3/4		口縁：ハケ→ナデ 頸部：磨きT字文(直線文2) 胴部：斜磨き	口縁：ハケ→ナデ 頸部：ナデ	Ⅵ区 R49
332	壺	24.4			1/3		口縁：ハケ→ナデ	ハケ→軽い磨き・赤彩	Ⅳ区
333	壺	17.4			1/3		口縁：ハケ→ナデ	ナデ	
334	壺				1/3		口縁：ナデ 頸部：波状文→簾状文→波状文→沈線区画	口縁：横磨き 頸部：縦磨き	Ⅳ区
335	壺		6.8		2/3		胴上部：ハケ→縦磨き 胴下部：ハケ→磨き 底部：磨き	ハケ→ナデ	V区
336	蓋	10.4		2.0	1/2		磨き・赤彩 口縁：2個一対の緊縛孔	ハケ→ナデ	Ⅱ区
337	広口壺	13.1			1/6		口縁部：面取り→L R縄文 口縁：2個一対の緊縛孔 磨き・赤彩	口縁：磨き・赤彩 脚部：ハケ→磨き	Ⅲ区
338	壺				2/3		口縁：磨き・赤彩 頸部：描T字文(2本)→右回り等間隔止め簾状文→円形浮文 胴部：磨き・赤彩	口縁：横磨き・赤彩 脚部：横ナデ	Ⅳ区 R74
339	壺	21.2			1/3		口縁：磨き・赤彩 頸部：描T字文(2本)	口縁：磨き・赤彩 頸部：ハケ→磨き	I区
340	壺	20.4			2/3		口縁部：山形突起+彫刻口 口縁：縦磨き・赤彩 頸部：描T字文(1本)	口縁：磨き・赤彩 頸部：ハケ→ナデ	Ⅲ区
341	壺				1/3		口縁：斜ハケ→磨き 頸部：描T字文(2本)	口縁：磨き・赤彩 頸部：ハケ→ナデ	Ⅵ区
342	壺		6.2		2/5		口縁：縦磨き 頸部：描直線文3 脚部：縦磨き	口縁：横磨き 胴上部：磨き→ナデ 胴下部：ハケ→ナデ	Ⅱ区
343	壺	12.3	5.1	16.5	完		縦磨き・赤彩 底部：磨き→ナデ	口縁：ナデ(剥落不明) 脚部：ハケ→ナデ	Ⅲ区
344	壺	10.3	4.0	13.1	完		口縁：縦磨き・赤彩 胴上部：横磨き・赤彩 胴下部：縦磨き・赤彩 底部：磨き	口縁：横磨き・赤彩 脚部：磨き→ナデ	Ⅱ区 R38
345	壺	11.2			1/3		磨き・赤彩	磨き・赤彩	Ⅲ区
346	壺	13.1			1/2		磨き・赤彩	磨き・赤彩	Ⅲ区
347	壺		4.2		完	○	胴上部：磨き・赤彩 胴下部：ナデor磨き	ナデ	Ⅲ区
348	壺		5.2		4/5		頸部：描T字文(2本) 胴部：磨き・赤彩 底部：磨き・赤彩	ナデ・磨き	Ⅲ区
349	壺				1/3		磨き・赤彩	口縁：磨き・赤彩 脚部：磨き→ナデ	Ⅲ区
350	壺		4.6		1/3		磨き・赤彩 底部：磨き	磨き→ナデ	Ⅲ区
351	壺		8.0		1/3		磨き	磨き→ナデ	Ⅵ区 R47
352	壺		7.0		4/5		胴上部：横磨き・赤彩 胴部：ハケ→縦磨き	磨き→ナデ	Ⅵ区 R64
353	壺		9.8		1/3		ハケ→縦磨き	ハケ	Ⅱ区
354	壺				1/4		脚部：ハケ→磨き・赤彩 底部周辺のみ磨き以前に磨き	磨き→ナデ	Ⅲ区
355	壺	13.3			1/2		口縁部：擬凹線文 頸部～胴部：磨き・赤彩	口縁：磨き・赤彩 脚部：磨き	Ⅲ区
356	壺		6.2		1/2		脚部：磨き・赤彩 底部：磨き→赤彩	磨き	Ⅲ区
357	壺	9.7	5.2	17.4	2/3		口縁：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口縁：ハケ→ナデ 脚部：ナデ	V区
358	壺	12.1			2/3		口縁：磨き・赤彩 胴部：磨き・赤彩	口縁：磨き・赤彩 脚部：磨き→磨き	Ⅵ区 R51
359	壺		5.8		1/3	○	ハケ→磨き 底部：磨き	ハケ	Ⅲ区
360	甕	19.7			2/5		口縁部：磨き 口縁：強横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：3本一対の磨き波状文 胴下部：磨き	口縁：横ナデ 胴上部：ナデ 胴下部：ハケ→磨き	Ⅵ区
361	甕	19.1	7.3	24.8	3/4		口縁部：L R縄文 文様：I B 胴下部：描縦羽状文→縦磨き 底部：磨き	口縁：ナデ 胴上部：ハケ→磨き 胴下部：縦磨き	Ⅵ区 R50
362	甕	32.4	11.4	35.3	2/3		口縁部：つまみ上げ状の横ナデ面取り 文様：基本的にI C(脚部は施文単位毎に施文順序異なる) 胴下部：ハケ→縦磨き 底部周辺：磨き 底部：磨き	口縁：磨き 脚部：磨き	Ⅲ区 R81・82
363	甕	20.6			1/8		口縁部：横ナデ面取り 口縁：波状文(施文単位毎に施文順序異なる)	ハケ→横磨き	Ⅲ区
364	台付甕				4/5		波状文 ハケ→磨き	磨き	Ⅲ区
365	甕	21.2			1/4		文様：IV B	横磨き	Ⅲ区
366	甕	21.1			1/4		文様：II B 頸部：右回り4連止め簾状文	口縁：磨き 頸部～胴部：磨き→磨き	Ⅲ区
367	甕	10.5	4.6	12.0	完		文様：I A 頸部：右回り3連止め簾状文 胴下部：縦磨き 底部周辺：磨き 底部：磨き	口縁：横磨き 脚部：縦磨き	Ⅲ区
368	甕	14.9	5.4	17.6	2/3		文様：I E(波状文施文順序不定) 頸部：右回り4連止め簾状文 胴下部：ハケ→縦磨き 底部：磨き	口縁：横磨き 頸部：磨き→磨き 脚部：縦磨き	Ⅳ区 R75
369	甕	14.2	8.8	17.5	2/3		文様：I A 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴下部：ハケ→縦磨き	口縁：横ナデ 胴上部：ハケ→ナデ 胴下部：磨き	V区
370	甕	17.0			1/3		口縁部：面取り→波状文 文様：I A 頸部：右回り3連止め簾状文	口縁：横磨き 脚部：縦磨き	Ⅱ区
371	甕	14.9			1/3		文様：I A 頸部：右回り3連止め簾状文	横磨き	Ⅱ区
372	甕	15.4			1/4		文様：II C 頸部：右回り3連止め簾状文	口縁：ハケ→横磨き 脚部：強い指ナデ→磨き	Ⅲ区
373	甕	16.3			3/4		文様：I A 頸部：描直線文	磨き 頸部付近のみ磨き痕残り	Ⅲ区
374	甕	13.4			2/3		文様：I A 頸部：右回り3連止め簾状文	磨き 磨き以前に磨きの可能性大	Ⅲ区 R42

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
375	甕	13.6			1/2		文様：I A 頸部：右回り3連止め簾状文 胴下部：縦磨き	口縁：横磨き 胴部：横磨き	I区
376	甕	13.2			2/3		文様：I A 頸部：右回り2連止め簾状文 胴下部：ハケ→磨き	横磨き	III区
377	甕	14.0			2/3		文様：I A (口縁部は施文単位毎に施文順序異なる) 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴下部：縦磨き	ハケ→横磨き	III区 R46
378	台付甕		9.0		2/3		文様：I B 頸部：右回り多連止め簾状文 胴下部：ハケ→縦磨き 脚部：ハケ→縦磨き	胴部：ハケ→磨き 脚部：横ナデ	VI区 R51
379	甕	11.3			1/3		文様：I A 頸部：右回り多連止め簾状文 胴下部：ハケ→ナデ	口縁：ナデ 胴部：ハケ	II区
380	台付甕	8.4	6.7	10.7	完		文様：IV B 胴下部：縦磨き 脚部：縦磨き	胴部：磨き 脚部：ナデ	IV区
381	甕	14.4	6.1	22.5	完		口縁：縦磨き 胴部：斜磨き 底部：磨き→磨き	口縁：横磨き 胴部：磨き→磨き	III区 R43
382	甕				1/3		文様：I A ? 頸部：右回り4連止め簾状文	磨き	VI区
383	甕	12.9	5.2	11.4	3/4		口縁端部：横ナデ→面取り 口縁：強横ナデ 胴部：斜ハケ 底部：ナデ	口縁：強横ナデ 胴部：ハケ	III区
384	甕	17.1			2/5		口縁：強横ナデ 胴部：斜ハケ	口縁：強横ナデ 頸部：磨き→横ナデ 胴部：磨き→ナデ	III区
385	甕	22.4			3/4	○	口縁端部：横ナデ→面取り 口縁：ハケ→横ナデ 胴部：ハケ	口縁：横磨き 胴部：磨き→ナデ	VI区 R51
386	甕	15.6			1/3	○	口縁：横ナデ 頸部：ハケ→ナデ 胴部：ハケ	口縁：横ナデ 胴部：磨き→ナデ (剥落詳細不明)	V区
387	甕	21.3			1/3	○	口縁端部：横ナデ→面取り 口縁：横ナデ	口縁：横ナデ 頸部：磨き	III区
388	甕	16.0			1/10	○	口縁端部：横ナデ→面取り 口縁：ハケ→横ナデ	摩耗詳細不明	
389	台付甕	15.8			1/5	○	口縁端部内面：面取り 口縁：横ナデ→ハケ工具刺突 胴部：斜ハケ→横ハケ	口縁：横ナデ 頸部：横ハケ 胴部：指押さえ→ナデ	I区
390	台付甕	13.5	8.6	15.2	完		口縁端部：つまみ上げ状の横ナデ→面取り 口縁：ハケ→横ナデ 胴上部：斜ハケ 胴下部：ハケ→磨き (胴中位付近は部分的に磨き有り) 脚部：ハケ→縦磨き	口縁：ハケ→横磨き 胴上部：横磨き 胴部：縦磨き 脚部：ナデ	VI区 R54
391	台付甕		12.0		完		縦磨き	胴部：磨き 脚部：横ナデ	VI区
392	台付甕		10.2		完		ナデ 脚部：磨きによる面取り	胴部：ナデ 脚部：ナデ	V区
393	台付鉢		9.2		3/4		斜ハケ	胴部：ナデ 脚部：ハケ→ナデ	V区
394	台付鉢	13.1			1/2	○	口縁：ハケ→ナデ→磨き 体部：ハケ→磨き	口縁：磨き 体部：ハケ→磨き	III区
395	高坏	22.2	16.1	21.0	2/3		坏部：磨き・赤彩 脚部：縦磨き・赤彩	坏部：磨き・赤彩 脚部：磨き	VI区 R51・56
396	高坏		18.6		2/5		縦ハケ 三角形透孔4	ハケ→ナデ	III区
397	高坏	16.6	12.2	12.2	完		坏部：磨き・赤彩 脚部：磨き・赤彩 円板充填	坏部：磨き・赤彩 脚部：ナデ	VI区 R48・51
398	坏	14.9	4.5	5.8	1/4		坏部：磨き・赤彩 脚部：磨き・赤彩	磨き・赤彩	III区
399	高坏	14.2			1/3		磨き・赤彩	坏部：磨き・赤彩 脚部：ナデ	VI区 R56
400	高坏	14.0			1/4		口縁端部：山形突起 坏部：磨き・赤彩 脚部：磨き・赤彩 三角形透孔4	坏部：磨き・赤彩 脚部：ナデ	III区
401	鉢	28.7			1/4		ハケ→磨き	ハケ→磨き	VI区
402	高坏	24.4			1/10		口縁端部：面取り→擬凹線→磨き・赤彩 坏部：磨き・赤彩	磨き・赤彩	I区
403	高坏		11.2		1/4		磨き・赤彩 三角形透孔	ハケ→ナデ	I区
404	高坏		9.6		完		磨き・赤彩 脚部内湾	坏部：磨き・赤彩 脚部：磨き	III区
405	高坏		18.4		1/3		磨き・赤彩	ナデ 端部のみ横磨き	II区
406	高坏		11.8		完		磨き 円形透孔4 脚部内湾	しぼり→ナデ	I区
407	高坏		14.8		2/3		脚部：面取り 磨き・赤彩	磨き→ナデ	VI区 R48
408	器台		10.4		1/2		磨き	磨き ハケ→ナデ	VI区
1・B号溝址第3層									
409	壺		8.4		3/4		頸部：右回り等間隔止め簾状文2段 胴部：ハケ→ナデ	摩耗剥落・詳細不明	VI区 R53
410	壺				1/4		口縁：ハケ→ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文→波状文→沈線区画	ハケ→ナデ	III区
411	壺				1/4		二本一対の縦直線文→磨きI字文→波状文→鋸歯文→波状文磨き消し	ナデ	III区
412	壺		8.7		2/3		ハケ→磨き 底部周辺：横磨き 底部：磨き	横ハケ	VI区
413	壺		8.6		1/3		胴上部：磨き・赤彩 胴下部：縦磨き 底部：磨き	摩耗不明	V区 R66
414	壺		4.5		完		胴上部：磨き・赤彩 胴下部：縦磨き 底部：磨き	ナデ	III区 R80
415	壺		5.8		2/3		縦磨き 底部：磨き	磨き→ナデ	II区
416	蓋	12.2		3.4	1/4		磨き・赤彩	磨き・赤彩	III区
417	蓋	12.2		2.2	1/2		磨き・赤彩 2個一対の繫縛孔	磨き・赤彩	III区
418	壺	15.8	7.2	23.1	1/2		口縁：ハケ→磨き・赤彩 胴部：ハケ→磨き・赤彩 底部：剥落不明	口縁：ハケ→磨き・赤彩 胴部：磨き	III区
419	壺		15.9		2/3		磨き・赤彩	ハケ	IV区
420	甕	28.6			1/3		文様：I A 頸部：右回り3～4連止め簾状文	口縁：ハケ→横磨き 胴部：ハケ	II区 R37
421	甕	17.5			3/4		文様：I A 頸部：右回り2連止め簾状文	口縁：横磨き 胴部：磨き→磨き	II区 R39
422	甕	12.6	5.4	14.0	1/2		文様：I A 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：ハケ→縦磨き	口縁：ハケ→横磨き 胴部：縦磨き	VI区
423	甕	14.1			1/6		口縁：強横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：波状文	横磨き	VI区
424	甕	14.2			完		口縁端部：面取り 文様：II B 頸部：磨き直線文	磨き	V区 R66
425	甕				1/8		文様：I A 頸部：右回り2連止め簾状文	口縁：横磨き 胴部：ハケ→ナデ	V区 R66
426	甕	15.6			1/3		ナデ	ナデ	
427	甕	7.5	4.6	9.8	3/4		口縁：横ナデ 胴部：磨き→ナデ 底部：磨き	口縁：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	III区
428	甕	22.5			1/3		口縁：ハケ→ナデ 胴部：斜ハケ	口縁：横ナデ 胴部：磨き	III区

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
429	甕	19.3			1/4		口縁：強横ナデ 胴部：篋削り→指ナデ	口縁：横ハケ 胴部：篋削り・ハケ 脚部：ハケ→ナデ	Ⅲ区
430	甕	18.1			1/2		口縁：ハケ→横ナデ 胴部：ハケ	口縁：横ナデ 胴部：不明	Ⅳ区
431	甕	16.2	4.8	28.1	1/2		口縁：強横ナデ 胴部：ハケ 底部：ナデ	口縁：横ナデ 胴部：ハケ・篋削り	Ⅰ区
432	甕	14.5	5.6	12.8	完		口縁：ハケ→横篋磨き 胴部：ハケ→篋磨き 底部：ハケ→篋磨き	口縁：ハケ→篋磨き 胴部：篋ナデ→篋磨き	Ⅳ区 R72
433	高坏	19.1			完		脚端部：面取り・擬凹線 篋磨き・赤彩 三角形透孔5	坏部：篋磨き・赤彩 脚部：ハケ→ナデ	Ⅵ区
434	小埴	7.9		8.1	完		口縁～胴上部：横ナデ 底部：篋削り→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：指ナデ	Ⅳ区 R72
435	小埴	8.6		7.7	3/4		口縁：ハケ→篋磨き 底部：篋削り→篋磨き	口縁：篋磨き 胴部：指ナデ	Ⅲ区
436	小埴						篋磨き	口縁：篋磨き 胴部：ナデ	Ⅵ区
437	壺	8.7		10.0	4/5		篋削り→篋磨き 摩耗詳細不明	口縁：横篋磨き 胴部：指ナデ	
438	坏	12.7			1/4		口縁：横ナデ 坏部：ナデ 底部：篋削り→ナデ	篋磨き→黒色処理	Ⅰ区
439	ミニチュア	6.3	4.6	3.4	2/3		ナデ	指ナデ	Ⅰ区
1・B号溝址第2層									
440	壺	31.8	10.4	43.9	4/5		口縁端部：山形突起 口縁：篋磨き・赤彩 頸部：櫛描T字文(2本) や円形浮文 胴上部：篋磨き・赤彩 胴下部：篋磨き	口縁：篋磨き・赤彩 胴部：摩耗剥落不明	Ⅱ区 R36
441	壺		7.2		3/4		ハケ→篋磨き 摩耗詳細不明 底部：ハケ	胴上部：指押さえ→ハケ 胴下部：篋ナデ→ナデ	Ⅳ区 R70
442	壺	12.4	7.2	23.5	2/3		口縁：ハケ→横篋磨き 胴部：ハケ→縦篋磨き 底部：篋磨き	口縁：横篋磨き 胴部：ハケ・篋削り	Ⅲ区 R77
443	壺	10.0			1/4	○	ナデ・赤彩	ナデ・赤彩	Ⅲ区
444	壺				3/4		頸部：右回り4連止め櫛状文 胴部：ハケ→斜篋磨き	篋ナデ→ナデ	Ⅵ区
445	壺	12.0	6.0	22.7	2/3		口縁：縦ハケ→縦篋磨き 胴部：ハケ→縦篋磨き 底部：篋削り	口縁：横篋磨き・赤彩 胴部：篋削り→篋磨き	Ⅰ区
446	壺		4.2		3/4		頸部：縦ハケ 胴上部：斜ハケ 胴下部：篋削り 底部：篋削り	頸部：横篋削り 胴部：ナデ	Ⅲ区
447	小埴	6.2		7.7	完		口縁：縦ハケ→横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：指ナデ	Ⅰ区 R33
448	小埴	7.2		8.1	完		口縁：ハケ→横ナデ 胴上部：ハケ→ナデ 底部：篋削り	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ナデ	Ⅲ区 R76
449	小埴	7.8		8.6	完		口縁：横ナデ 胴上部：ナデ 底部：篋削り→ナデ	口縁：ナデ 胴部：篋ナデ→ナデ	Ⅵ区 R32
450	甕	24.7	7.2	30.7	4/5		口縁端部：面取り 文様：ⅣB 胴下部：縦篋磨き 底部：篋削り	口縁：横篋磨き 胴上部：篋削り 胴下部：篋磨き	Ⅰ区 R30
451	台付甕	18.4			1/20	○	口縁：横ナデ→ハケ刺突 頸部：ハケ	口縁：横ナデ 頸部：ハケ	Ⅱ区
452	台付甕		9.5		1/3		胴部：篋削り 脚部：ナデ?	胴部：篋削り 脚部：篋削り	Ⅲ区
453	甕	17.5			1/2		口縁：ハケ→篋磨き 胴部：ハケ	口縁：篋磨き 胴部：篋磨き	Ⅱ区 R31
454	甕	21.1	7.0	21.2	2/3		口縁：横ナデ 胴部：ナデ	口縁：横ナデ 胴部：ナデ	Ⅲ区 R78
455	甕	15.2			1/3		口縁：横ナデ 胴部：篋削り→ナデ	口縁：横ナデ 胴部：篋削り	Ⅱ区
456	甕	16.6	7.2	24.9	1/2		縦篋磨き	剥落詳細不明	Ⅴ区
457	甕		9.4		2/3		ハケ→縦篋磨き	斜ハケ→ナデ	Ⅱ区 R31
458	甕	19.0	3.0	11.6	3/4		口縁：ハケ→横ナデ 胴部：篋削り→ナデ	口縁：ハケ 底部：篋ナデ→ナデ	Ⅳ区 R70
459	高坏		17.2		2/3		摩耗不明	摩耗不明	Ⅳ区 R71
460	高坏	15.0			1/8		篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	Ⅲ区
461	高坏	15.3			1/2		篋磨き	篋磨き	Ⅴ区
462	高坏	14.4			3/4		縦篋磨き	篋磨き	Ⅱ区 R31
463	高坏	16.4	12.1	10.7	2/3		坏部：篋磨き 脚部：篋磨き	坏部：篋磨き 脚部：しぼり→ナデ	Ⅳ区
464	高坏	13.6	11.1	8.7	4/5		坏部：篋磨き 脚部：ハケ→縦篋磨き	坏部：篋磨き→黒色処理 脚部：ナデ	Ⅱ区 R31
465	蓋	14.8		6.1	完		口縁：横篋磨き 体部：横篋削り→縦篋磨き	篋磨き	Ⅱ区 R31
466	坏	13.2		6.3	2/3		口縁：横篋磨き 坏部：篋削り→篋磨き	口縁：篋磨き 坏部：篋ナデ→篋磨き	Ⅲ区
467	坏	14.7		6.8	完		口縁：横篋磨き 坏部：篋削り→篋磨き	篋磨き	Ⅱ区
468	坏	14.4		5.1	4/5		篋削り→篋磨き	篋磨き	Ⅲ区
469	坏	14.2		4.8	1/2		篋削り→篋磨き	篋磨き→黒色処理	Ⅲ区
470	坏	11.8			1/4		篋磨き	篋磨き→黒色処理	Ⅳ区
471	鉢	22.7			1/3		篋磨き	篋磨き→黒色処理	Ⅳ区
1・B号溝址									
472	壺	4.6			1/2		口縁端部：L R縄文 口縁：2孔を有する耳状の縦突帯4 頸部：沈線区画→L R縄文	指ナデ	Ⅳ区 4層
473	壺	7.0			完		口縁端部：L R縄文 口縁：ナデ→篋磨き 頸部：沈線区画→半月形刺突列充填(左回り)	口縁：ナデ→篋磨き 頸部：ナデ	Ⅲ区 4層
474	甕	16.0			1/10		口縁端部：棒状工具による刺突 口縁：櫛描縦羽状文	ハケ→篋磨き	
475	甕	24.0			1/6		口縁端部：面取り→R L縄文 口縁：櫛描縦羽状文→頸部：棒状工具先端による刺突	ハケ→篋磨き	
1号溝址出土須恵器									
476	はそう	11	16		ほぼ完		口縁～肩部：回転ナデ 体部：タタキ→ナデ・回転カキ目 文様 頸部：波状文 体部：二条沈線間に刺突文	口縁～胴上半：回転ナデ 底部：突き出し	Ⅲ区 2層
477	はそう						口縁～肩部：回転ナデ 胴下半：タタキ→ナデ 文様 頸部：波状文 体部：二条沈線間に刺突文	口縁～胴上半：回転ナデ 底部：突き出し	2層
478	はそう				1/8		肩部：回転ナデ 胴下半：タタキ 文様 体部：二条沈線間に波状文	口縁～胴上半：回転ナデ 底部：突き出し	Ⅲ区 3層
479	蓋坏蓋	12.8	4.2		1/2		口縁：回転ナデ 天井：回転ヘラケズリ(半時計回り)	回転ナデ 天井：スタンプ	Ⅱ区 2層
480	蓋杯蓋	12.8	4.2		完		口縁：回転ナデ 天井：回転ヘラケズリ(半時計回り)	回転ナデ 天井：スタンプ	Ⅱ区 2層
481	蓋杯蓋	12	5.2		完		口縁：回転ナデ 天井：回転ヘラケズリ(時計回り)	回転ナデ	Ⅱ区 2層
482	蓋杯身	(13.2)	(4.9)		1/2		口縁：回転ナデ 底部：回転ヘラケズリ(半時計回り) 底部 ヘラ記号「×」か	回転ナデ	Ⅳ区 2層
483	蓋杯身				1/8		口縁：回転ナデ 体部下半：静止ヘラケズリ	回転ナデ 底部：不整方向ナデ	Ⅲ区 3層

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
1号溝址トレンチ出土									
484	壺		8.5		2/3		口縁：篋磨き・赤彩 頸部：右回り等間隔止め簾状文2→波状文1→波状文帯垂下 胴部：篋磨き・赤彩	ハケ（胴上部と下部のハケ原体は異なる）	2層
485	甕	29.4			1/2		口縁：粘土帯貼付の複合口縁・横ナデ 胴上部：ナデ 胴下部：横篋磨き	口縁：横ナデ 胴部：横篋磨き	2層
486	甕	21.3			1/6		口縁端部：面取り→波状文 文様：I A 頸部：2～3連止め簾状文	ハケ→横篋磨き	1層
487	甕	20.0			1/3		口縁：ハケ→強横ナデ 胴部：縦～斜ハケ	口縁：横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	2層
488	甕	22.5			1/6		口縁端部：つまみ上げ状の横ナデ・面取り 文様：I A	ハケ→横篋磨き	2層
489	高坏	20.1	11.9	13.9	4/5		坏部：篋磨き・赤彩 脚部：篋磨き・赤彩 円形透孔4	坏部：篋磨き・赤彩 脚部：ハケ→ナデ	2層
490	罎	11.1					口縁：縦篋磨き 胴上部：縦篋磨き 胴下部：篋削り→篋磨き	口縁：斜篋磨き 胴部：篋ナデ→ナデ	2層
491	灰袖	16.6	8.0	5.3	1/4				
1・C号溝址									
492	台付甕	10.0	6.2	10.1	3/4		口縁端部：L R縄文 口縁：L R縄文→篋描波状文 胴部：L R縄文→コの字重ね文→円形浮文	胴部：ハケ→篋磨き 脚部：ナデ	Ⅲ区
493	坏	9.4	3.0	3.9	2/3		口縁：2個一對の緊縛孔 篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	Ⅲ区
494	台付甕	13.2			完		口縁：横ナデ 胴部：篋描複合鋸歯文 脚部：摩耗不明	篋磨き	Ⅳ区
495	壺	21.6			1/4		口縁：ハケ→横ナデ 頸部：篋描斜格子文	ナデ	Ⅳ区
496	壺	15.2			1/3		口縁：ハケ→横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文→波状文 ハケ→ナデ	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ナデ	Ⅴ区
497	甕	18.4	7.0	20.9	2/3		口縁：強横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文→波状文 胴部：縦篋磨き	口縁～胴上部：横篋磨き 胴下部：縦篋磨き	Ⅴ区
498	壺		8.8		2/5		口縁：摩耗 頸部：2本一對の篋描直線文→波状文 胴部：縦篋磨き 胴下部：ハケ→縦篋磨き 底部：篋削り	口縁：横篋磨き 胴部：ハケ→ナデ	Ⅴ区
499	壺		9.8		2/3		縦篋磨き	ハケ→ナデ	Ⅲ区
500	台付鉢	12.1			完		摩耗詳細不明	摩耗詳細不明	Ⅲ区
501	甕	16.1			1/2		口縁：横ナデ→波状文 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：篋描縦羽状文	横ナデ	Ⅴ区
502	壺	14.2			1/3		ナデ	ナデ	Ⅲ区
503	壺		5.2		2/3		口縁：強横ナデ 胴部：縦ハケ 底部周辺：横篋削り 底部：篋削り	口縁：横ナデ 胴部：篋削り	
504	高坏		11.4		2/3		篋磨き・赤彩 三角形透孔4	ハケ→ナデ	Ⅴ区
505	甕	16.1			1/5		文様：I A 頸部：右回り等間隔止め簾状文	篋磨き	Ⅴ区
506	甕	17.0			1/10	○	口縁：強横ナデ 頸部：ハケ	口縁：強横ナデ	Ⅲ区
507	甕	16.5			1/3	○	口縁：強横ナデ 胴上部：ハケ	口縁：横ナデ 胴上部：ナデ	
508	甕	19.8			1/6		口縁端部：横ナデ・面取り 口縁：ナデ	口縁：横ナデ 頸部：篋削り	Ⅲ区
509	甕		4.2		1/4	○	叩き整形	ハケ	Ⅲ区
510	坏	15.7	5.2	7.2	1/3		坏部：篋磨き 底部：篋削り	横篋磨き	Ⅴ区
511	高坏	26.3			1/2		口縁端部：山形突起 篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	Ⅵ区
512	器台	23.6			1/10		篋磨き・赤彩	篋磨き・赤彩	
1号溝址トレンチ									
513	壺	11.0			3/4		口縁端部：山形突起 口縁：ハケ→ナデ 頸部：縄文地文→篋描文	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ナデ	
514	壺				1/2		頸部：沈線区画縄文帯2→横直線文→縄文地文・篋山形文 頸部：懸垂文	ナデ	
515	壺				1/3		口縁：ハケ→ナデ 頸部：沈線区画→半月形連続刺突→懸垂文	ナデ	
516	壺	21.6			1/5		口縁端部：L R縄文 口縁部：L R縄文→篋描山形文 ハケ→篋磨き 頸部：沈線区画→L R縄文→篋描山形文	口縁：横篋磨き・赤彩 頸部：ハケ→ナデ	
517	壺	16.0			1/3		口縁端部：面取り・L R縄文 口縁部：篋磨き→赤彩	口縁：篋磨き→赤彩 頸部：ナデ	
518	壺				完		口縁：ナデ 頸部：沈線区画→半月形連続刺突2段 懸垂文	ナデ	
519	壺				1/2		口縁：ナデ 頸部：L R縄文隆帯2→横直線文→篋描山形文→円形浮文	ナデ	
520	甕	18.9			1/4		口縁端部：L R縄文 口縁：ハケ→横ナデ 頸部：篋描波状文	横篋磨き	
521	甕	10.6			1/3		口縁：横ナデ 胴部：篋描波状文3（上→下） 胴下部：ハケ→篋磨き	摩耗詳細不明	
522	台付甕	18.2	11.0	23.2	3/4		口縁端部：R L縄文 口縁：強横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：篋描波状文3（上→下） 胴下部：篋磨き 脚部篋磨き	口縁：ハケ→強横ナデ 胴部：ハケ 脚部：ナデ	
523	坏	18.0	6.0	6.4	1/3		口縁端部：瘤状突起4 体部：篋磨き赤彩 底部：ナデ	ハケ→横篋磨き・赤彩	
土壘下部包含層（B層）									
524	壺	19.8			1/3		口縁：斜篋磨き 頸部：篋描波状文4（上→下）→篋描鋸歯文 胴部：ハケ→縦～斜篋磨き	口縁：横篋磨き 頸部：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ	
525	壺	14.9			1/3		口縁：篋磨き 頸部：沈線区画→直線文→波状文2 胴部：篋磨き	口縁：横ハケ→ナデ 胴部：ナデ	
526	壺	18.6			1/3		口縁：斜ハケ→横ナデ 頸部：篋描斜格子文 胴部：ハケ→篋磨き	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ナデ	
527	壺	15.2	7.7	30.6	2/3		口縁端部：山形突起5 口縁：縦篋磨き 頸部：右回り等間隔止め簾状文→篋描波状文 胴部：ハケ→縦篋磨き	口縁：篋磨き・赤彩 胴上部：篋ナデ→ナデ 胴下部：ハケ	
528	壺	15.1			2/5		口縁：ハケ→ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文→波状文 胴部：ハケ→ナデ	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ	
529	壺	14.8			2/3		口縁：ハケ→ナデ 頸部：ハケ	口縁：ハケ→強横ナデ 頸部：ナデ	
530	壺	13.5			1/4		口縁：横ナデ 頸部：篋描直線文	口縁：強横ナデ 頸部：ハケ	
531	壺	18.5			2/3		口縁：ハケ→横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文	口縁：ハケ 頸部：ナデ	
532	壺	21.7			1/4		口縁：篋描波状文1 ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	
533	壺	7.4			1/3		口縁：横篋磨き 胴部：縦篋磨き	口縁：横篋磨き 胴部：篋削り	
534	壺				1/2		頸部：ハケ→2本一對の篋描波状文4 胴部：ハケ→篋磨き	頸部：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ	
535	壺				1/2		頸部：2本一對の篋描直線文2、波状文1 胴上部：ハケ 胴下部：ハケ→縦篋磨き	胴部：ハケ 原体は外面と異なる	

番号	器種	法量 (cm)			遺存度	胎土	成形・調整・文様		備考
		口径	底径	器高			外面	内面	
536	壺				3/4		口縁：ハケ→甃磨き 頸部：右回り等間隔止め簾状文→波状文2→甃描鋸歯文	口縁：甃磨き・赤彩 胴部：ナデ	
537	壺				1/3		口縁：甃磨き 頸部：右回り等間隔止め簾状文→波状文2	頸部：摩耗不明 胴部：ナデ	
538	壺		9.4		1/2		口縁：ハケ→ナデ 頸部：甃描直線文→2本一對の甃描波状文→甃描直線文→甃描鋸歯文 胴上部：ハケ 胴下部：ハケ→ナデ 底部：甃削り	口縁：ハケ→ナデ→赤彩 頸部：摩耗不明 胴部：ハケ	
539	壺				1/2		胴上部：ハケ→ナデ 胴下部：ハケ→ナデ	ナデ	
540	壺		8.4		4/5		胴部：ハケ→ナデ 底部：甃削り	胴部：ハケ→ナデ	
541	壺				1/2		口縁：ハケ→ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文→甃描横羽状文	ナデ→軽い甃磨き	
542	壺				1/3		口縁：ハケ 頸部：甃描直線文6・甃描波状文2	口縁：甃磨き・赤彩 頸部：ハケ→ナデ	
543	壺				1/3		口縁：摩耗不明 頸部：甃描直線文2	ハケ→ナデ	
544	壺		5.2		3/4		胴上部：櫛波状文 胴下部：甃磨き 底部周辺：甃削り→ナデ 底部：甃削り	胴上部：ハケ→横ナデ 胴下部：甃ナデ→ナデ	
545	壺	26.0			1/3		口縁端部：山形突起 口縁：甃磨き・赤彩 頸部：甃描T字文	口縁：甃磨き・赤彩 胴部：甃削り→ナデ	
546	壺	13.0			1/10	○	ナデ	ナデ	
547	壺	10.9			1/3		甃磨き・赤彩	甃磨き・赤彩	
548	壺		9.0		2/3		口縁：甃磨き・赤彩 頸部：甃描T字文 胴上部：甃磨き・赤彩 胴下部：縦甃磨き	口縁：甃磨き・赤彩 胴部：甃削りor甃ナデ	
549	壺		8.0		4/5		ハケ→甃磨き・赤彩	ナデ	
550	壺		7.2		1/3		ハケ→縦甃磨き	ハケ	
551	壺	11.0	3.7		4/5		甃磨き・赤彩 底部：甃磨き・赤彩	口縁：甃磨き・赤彩 胴部：ハケ→ナデ	
552	無頸壺	11.5	5.0	13.3	2/3		口縁端部：2個一對の緊縛孔 体部：甃磨き・赤彩 底部：甃削り→甃磨き	甃磨き・赤彩	
553	短頸壺	11.8			1/8		口縁端部：2個一對の緊縛孔 胴部：ハケ→甃磨き・赤彩	口縁：横ナデ 胴部：ハケ	
554	壺		6.6				甃磨き・赤彩	ハケ→ナデ	
555	甃	14.5	6.5	15.7	4/5		口縁：強横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：甃描波状文4(上→下) 底部：甃磨き	口縁：強横ナデ 胴部：ハケ→部分的に軽い磨き	
556	甃	10.5	5.6	13.5	2/5		文様：I A 頸部：右回り4連止め簾状文 胴下部：縦甃磨き	横甃磨き	
557	甃	25.5			1/10		文様：I A 頸部：甃描直線文2	口縁：横甃磨き 胴部：ハケ	
558	甃	18.9			3/4		文様：I A 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：縦羽状文	口縁：横甃磨き 胴部：ハケ→ナデ	
559	甃	8.2	4.4	7.9	3/4		口縁端部：甃刻み 口縁：横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：甃描鋸歯文+円形浮文	口縁：横ナデ 胴部：ハケ→甃磨き	
560	甃	18.1			1/3		口縁端部：ハケ状工具先端による刻み 口縁：強横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：波状文(上→下)	口縁：ハケ→甃磨き 胴部：横甃磨き	
561	甃	21.8			1/2		口縁端部：粘土帯折り返しによる複合口縁 文様：I A 頸部：右回り等間隔止め簾状文2	横甃磨き	
562	甃	13.0			1/4		口縁：強横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：甃描波状文(上→下)	ハケ→横甃磨き	
563	甃	22.5			1/10		口縁：強横ナデ 波状文(上→下)	横甃磨き	
564	甃	11.5			2/3		文様：I A 頸部：右回り2連止め簾状文	ハケ→横甃磨き	
565	甃		7.6		1/4		文様：I A 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：甃描縦羽状文 胴下部：ハケ 底部：甃削り	口縁：ハケ→ナデ 胴部：ハケ→ナデ	
566	甃	16.6			1/8		文様：I A 頸部：右回り等間隔止め簾状文	甃磨き	
567	甃	18.2			1/6		文様：IV B	横甃磨き	
568	甃	25.1			1/10		口縁：甃描波状文(下→上)	横甃磨き	
569	甃	21.0	7.8	27.7	1/5		文様：I B 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴下部：縦甃磨き	口縁：横甃磨き 胴部：ハケ→横甃磨き	
570	甃	18.6			1/6		文様：I B 頸部：右回り2連止め簾状文	横甃磨き	
571	台付甃	14.2			4/5		口縁：強横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：波状文3(上→下) 胴下部～脚部：ハケ→甃磨き	口縁：強横ナデ 胴部：ハケ→甃磨き	
572	台付甃	11.6			2/3		口縁端部：L R 縄文 口縁：横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴上部：波状文2 胴下部：甃磨き	口縁：強横ナデ 胴部：甃磨き?	
573	台付甃	10.5			完		口縁：強横ナデ 頸部：右回り等間隔止め簾状文→波状文 胴下部～脚部：ナデor甃ナデ	口縁：強横ナデ 胴部：ハケ→ナデ	
574	台付甃	11.4			1/2		文様：I A 胴下部～脚部：甃磨き	甃磨き	
575	高坏		10.6		2/3		甃磨き・赤彩	坏部：甃磨き・赤彩 脚部：甃削り→ナデ	
576	台付甃	18.6			1/2		口縁端部：甃削り 口縁：甃描波状文 頸部：右回り等間隔止め簾状文 胴部：甃描複合鋸歯文+円形浮文	ハケ→甃磨き	
577	台付甃	15.0	11.1	16.9	1/4		口縁端部：面取り 口縁～胴部：摩耗詳細不明	口縁：摩耗詳細不明 胴部：甃削り? 脚部：摩耗不明	
578	鉢	11.6			1/3		口縁：横ナデ 頸部：直線文 体部：甃磨き?	口縁：強横ナデ 体部：ナデ	
579	坏	15.0	5.3	6.8	完		甃磨き・赤彩	甃磨き・赤彩	
580	甃	22.0			1/10		口縁端部：面取り 口縁：横ナデ	摩耗詳細不明	
581	甃	18.3			1/10		口縁端部：面取り 口縁：横ナデ	ハケ→ナデ	
582	坏	11.8	4.5	5.8	4/5		甃磨き・赤彩	甃磨き・赤彩	
583	高坏	20.3	11.1	15.2	完		口縁端部：棒状工具による刻み 坏部から脚部：甃磨き・赤彩	坏部：甃磨き・赤彩 脚部：ナデ	
584	高坏	20.8			2/3		口縁：甃描波状文1 坏部：甃磨き・赤彩	甃磨き・赤彩	
585	高坏?		9.5		3/4		ハケ→甃磨き 摩耗詳細不明	坏部：粗い甃磨き 脚部：ハケ→ナデ	
586	高坏	13.2			2/3		甃磨き・赤彩	坏部：甃磨き・赤彩 脚部：ナデ	
587	高坏		21.6		2/3		甃磨き・赤彩 三角形透孔	ハケ→ナデ	
588	高坏		11.3		完		甃磨き・赤彩	ハケ→ナデ	

太型蛤刃石斧観察表

図版番号	法量(最大値)				刃部				使用痕跡				基部形態	再生の有無	装着痕跡	付着物	敲打痕跡	欠損		再利用器	自然面	石材	素材	用法	出土地区通称名	備考	
	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	数	刃長(cm)	刃幅(cm)	形平	形断	長さ(cm)	幅(cm)	刃角(度)						傾度	種類								部位
48	19.0	7.8	8.4	1745.1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	変質輝緑岩	剥片?	伐木	SD1 フク土 №338	未製品	
49	(9.6)	(4.9)	(4.1)	(287.2)	1	1.1	4.2	1b	—	—	(73)	—	—	不明	—	—	—	—	—	—	—	変質輝緑岩	不明	伐木	SD1 フク土 №298	未製品	
50	(8.1)	7.0	(3.9)	(323.7)	1	1.5	6.7	1b	—	—	—	0.3	6.6	69	○	摩耗潰れ	不明	—	—	—	—	—	変質輝緑岩	不明	伐木	SK24 フク土 №206	

扁平片刃石斧観察表

図版番号	法量(最大値)				刃部				使用痕跡				基部形態	再生の有無	装着痕跡	付着物	敲打痕跡	欠損		再利用器	自然面	石材	素材	用法	出土地区通称名	備考	
	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	数	刃長(cm)	刃幅(cm)	形平	形断	長さ(cm)	幅(cm)	刃角(度)						傾度	種類								部位
51	5.4	3.3	0.9	19.2	1	2.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	未製品
52	4.6	2.9	0.6	13.8	1	0.4	2.8	1b	—	—	—	0.2	2.6	42	○	摩耗縮状	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	未製品

ノミ状石器観察表

図版番号	法量(最大値)				刃部				使用痕跡				基部形態	再生の有無	装着痕跡	付着物	敲打痕跡	欠損		再利用器	自然面	石材	素材	用法	出土地区通称名	備考	
	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	数	刃長(cm)	刃幅(cm)	形平	形断	長さ(cm)	幅(cm)	刃角(度)						傾度	種類								部位
53	4.8	2.1	0.8	13.9	1	0.7	1.1	1b	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

両刃石斧観察表

図版番号	法量(最大値)				刃部				使用痕跡				基部形態	再生の有無	装着痕跡	付着物	敲打痕跡	欠損		再利用器	自然面	石材	素材	用法	出土地区通称名	備考	
	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	数	刃長(cm)	刃幅(cm)	形平	形断	長さ(cm)	幅(cm)	刃角(度)						傾度	種類								部位
54	17.6	5.7	2.9	(424.7)	1	2.7	5.4	3	—	—	—	1.0	4.3	48	○	摩耗アフレ	b	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

石槌観察表

図版番号	法量(最大値)				砥面数	砥面						欠損部位	再生の有無	装着痕跡	付着物	敲打痕跡	欠損		再利用器	自然面	石材	素材	用法	出土地区通称名	備考		
	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		構成	長さ(cm)	幅(cm)	構成	長さ(cm)	幅(cm)						構成	長さ(cm)								幅(cm)	構成
55	12.4	7.5	4.7	785.3	—	—	—	—	—	—	—	7.1	4.0	△	潰れ	1a	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
56	12.3	6.5	3.8	609.6	—	—	—	—	—	—	—	5.3	2.7	△	潰れ	1b	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
57	11.0	6.8	4.5	617.4	—	—	—	—	—	—	—	6.3	3.8	○	摩耗尤尺	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
58	7.3	5.0	2.5	118.1	—	—	—	—	—	—	—	5.0	2.4	○	摩耗潰れ	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
59	(6.0)	4.6	2.0	(90.8)	—	—	—	—	—	—	—	4.1	1.5	○	潰れ	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
60	10.8	6.7	4.2	457.5	—	—	—	—	—	—	—	5.5	3.5	△	潰れ	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

砥石観察表

図版番号	法量(最大値)				砥面数	砥面						欠損部位	再生の有無	装着痕跡	付着物	敲打痕跡	欠損		再利用器	自然面	石材	素材	用法	出土地区通称名	備考		
	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		構成	長さ(cm)	幅(cm)	構成	長さ(cm)	幅(cm)						構成	長さ(cm)								幅(cm)	構成
61	17.0	14.4	5.2	1,703	6	溝面	14.6	13.3	面	14.0	7.5	面	10.2	4.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
62	(5.5)	5.7	2.0	(71.3)	2	面	5.0	5.5	面	5.2	5.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
63	6.5	6.6	1.5	90.5	5	面	5.7	6.1	面	5.7	6.0	面	5.3	1.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
64	(6.0)	5.0	1.4	(51.3)	4	面	(5.7)	4.6	面	(5.0)	4.3	面	(2.6)	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

軽石製品観察表

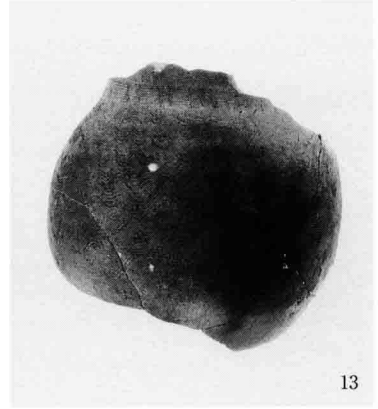
図版番号	法量(最大値)				砥面数	砥面						欠損部位	再生の有無	装着痕跡	付着物	敲打痕跡	欠損		再利用器	自然面	石材	素材	用法	出土地区通称名	備考		
	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		構成	長さ(cm)	幅(cm)	構成	長さ(cm)	幅(cm)						構成	長さ(cm)								幅(cm)	構成
65	5.7	(5.2)	(5.2)	(38.2)	1	面	3.6	3.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
66	(7.3)	(4.8)	3.6	(33.9)	4	面	5.9	2.0	面	6.0	2.5	面	5.0	2.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

玉類観察表

図版番号	器種	長さ(厚さ)(cm)	幅(直径)(cm)	孔径(広)(cm)	孔径(狭)(cm)	重さ(g)	石材	出土地区通称名	備考
67	白玉	0.57	0.88	0.4	0.15	0.74	ヒスイ	検出面	
68	ガラス玉	0.5	0.53	0.2	0.18	0.16	ガラス	検出面 №43	
69	管玉	1.48	0.5	0.22	0.15	0.62	黒色頁岩	SD1 フク土	

紡鐘車観察表

図版番号	長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	欠損部位	石材	出土地区通称名	備考
70	(3.9)	(3.6)	0.7	(0.9)	(11.5)	1/2欠	蛇紋岩	SD1 №100	





35



37



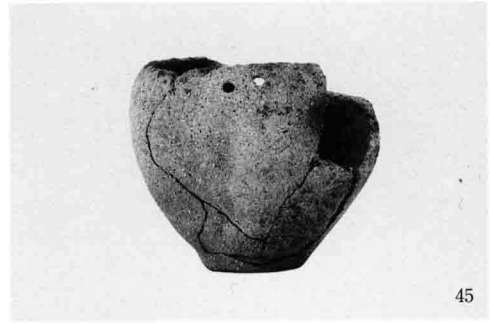
42



43



44



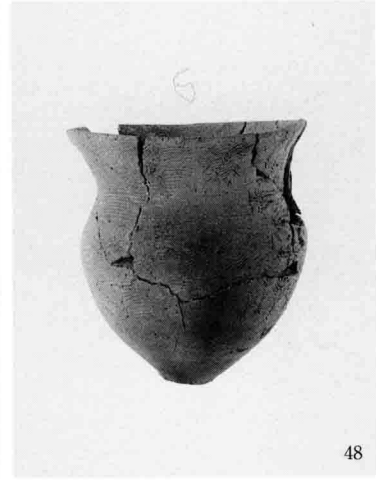
45



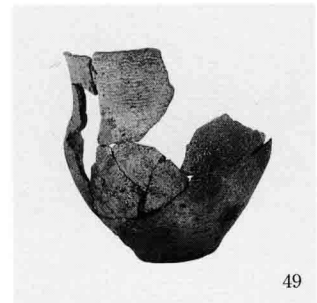
46



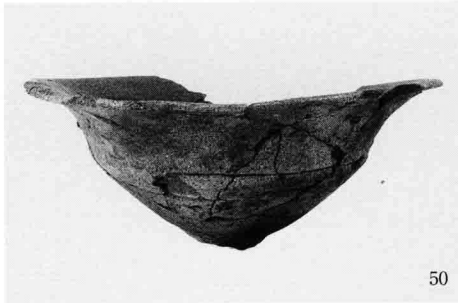
47



48



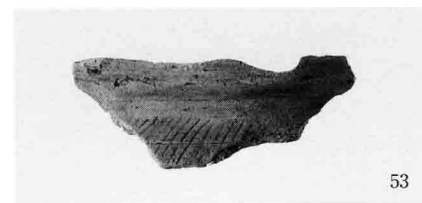
49



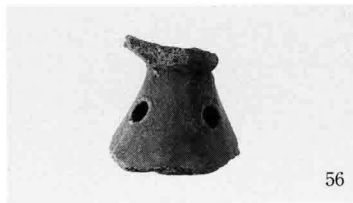
50



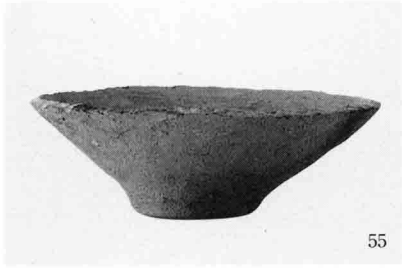
51



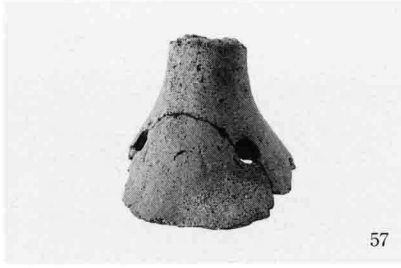
53



56



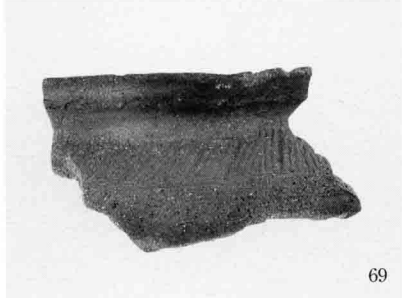
55



57



58



69



71



73



74



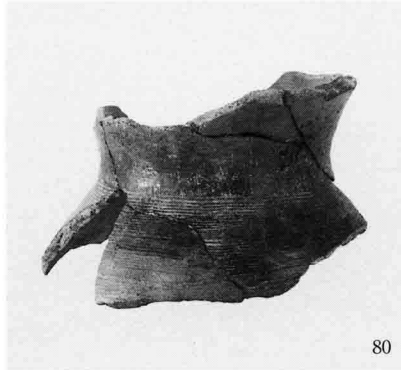
75



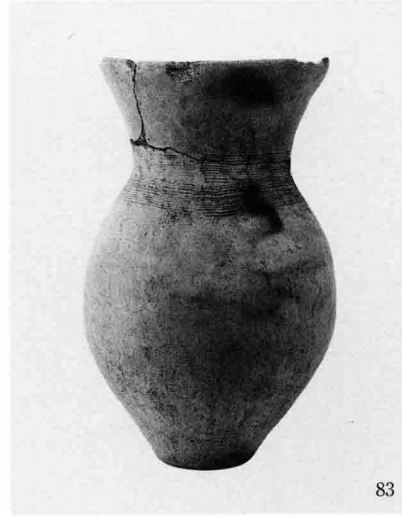
77



78



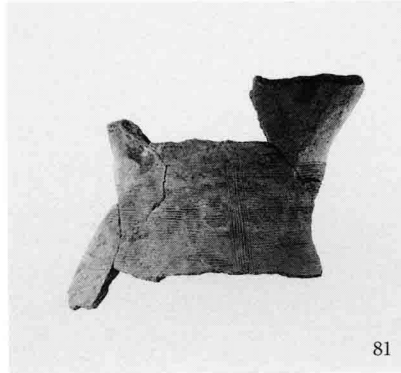
80



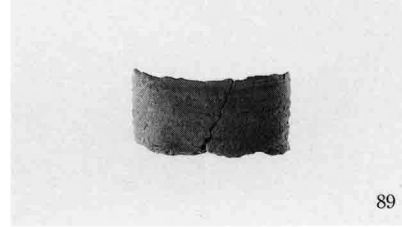
83



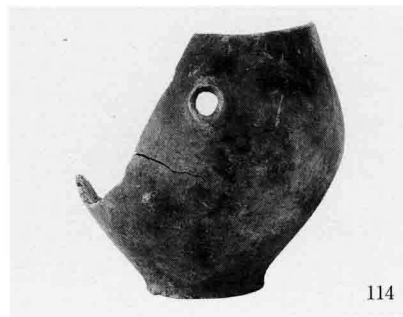
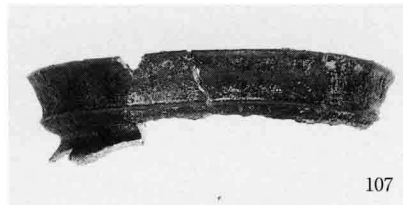
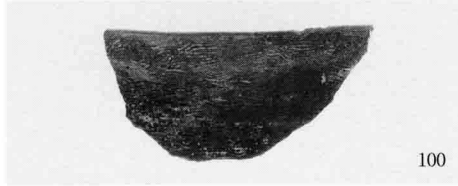
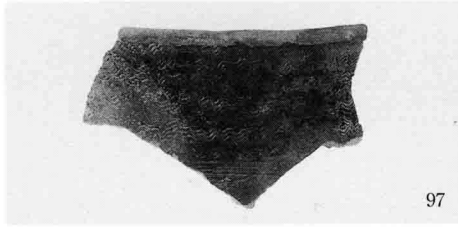
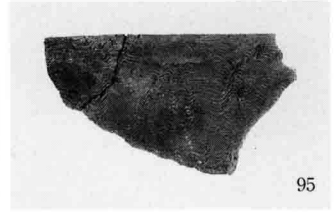
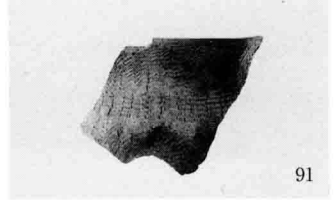
85

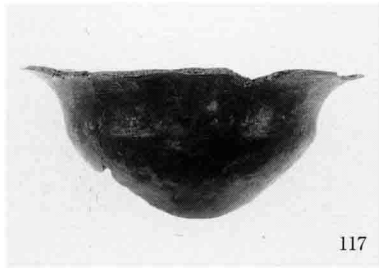


81

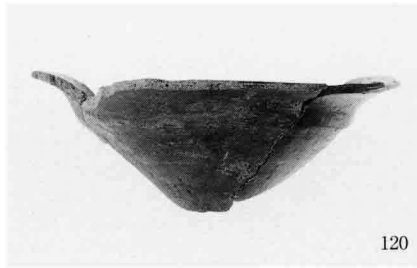


89

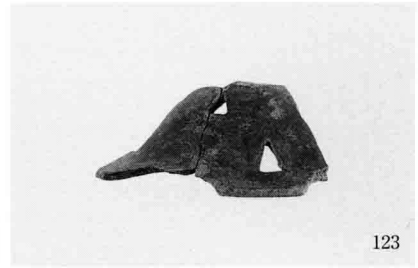




117



120



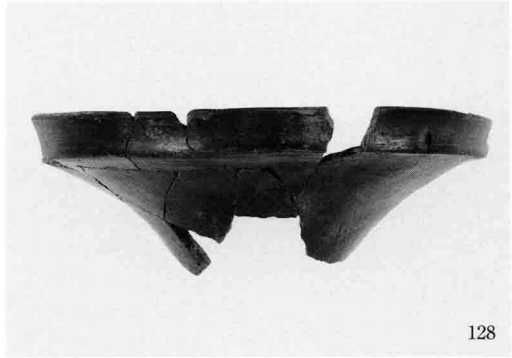
123



126



127



128



129



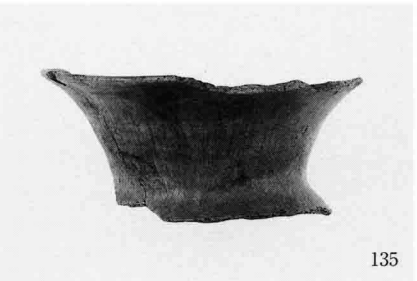
131



132



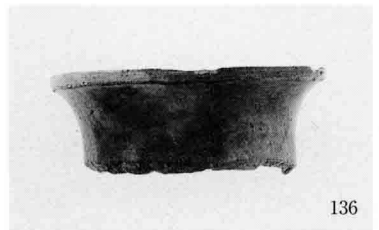
133



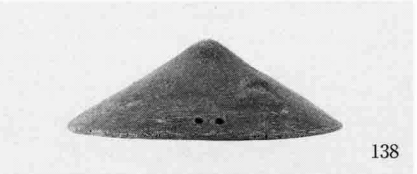
135



137



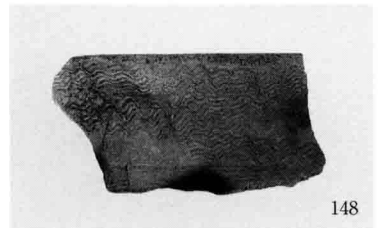
136



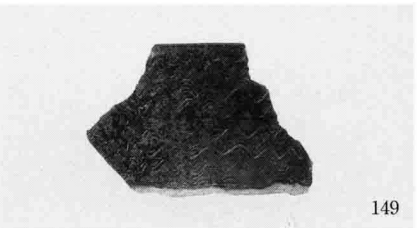
138



134



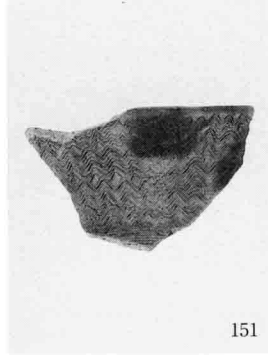
148



149



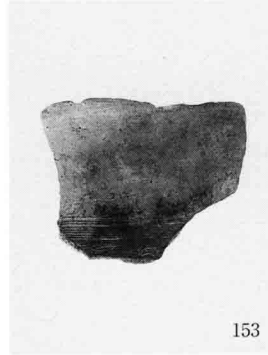
145



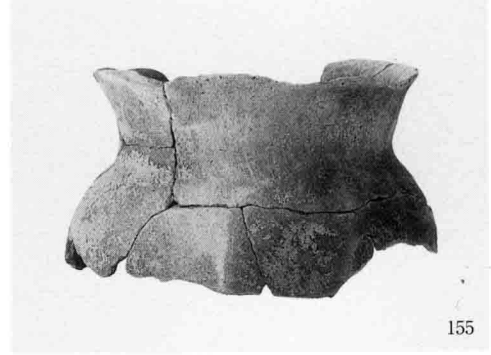
151



154



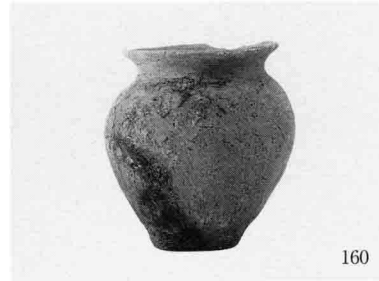
153



155



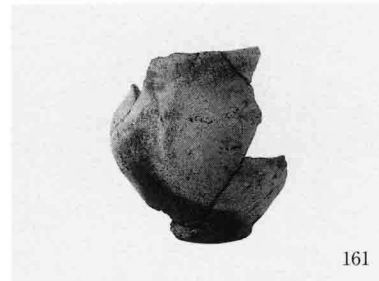
146



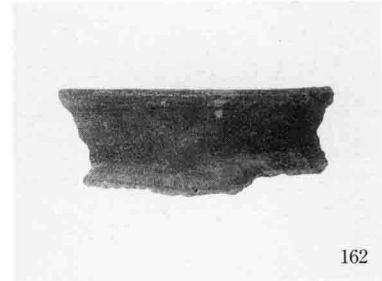
160



159



161



162



164



165



166



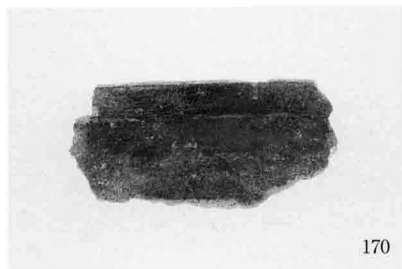
167



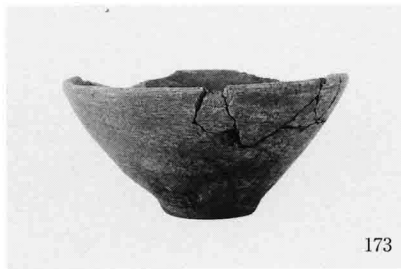
168



169



170



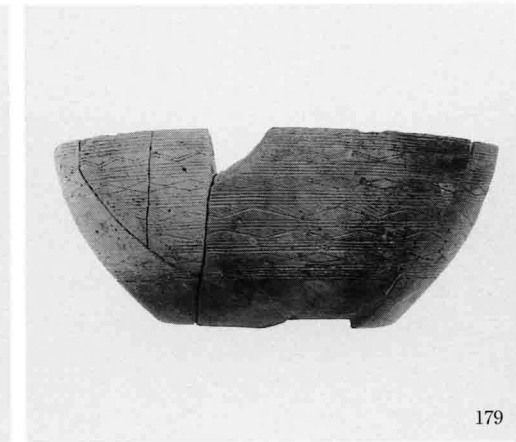
173



182



177



179



180



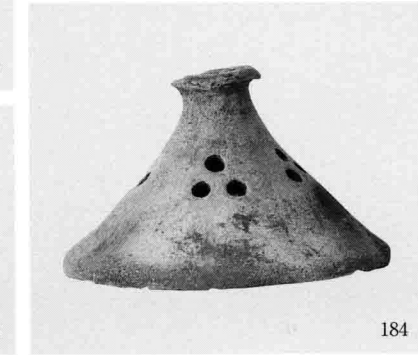
183



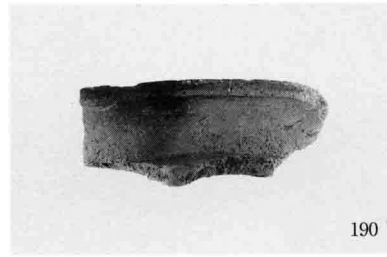
188



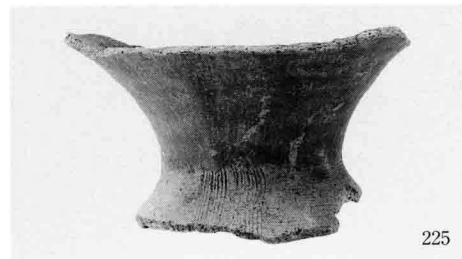
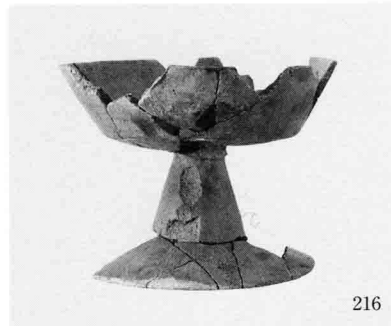
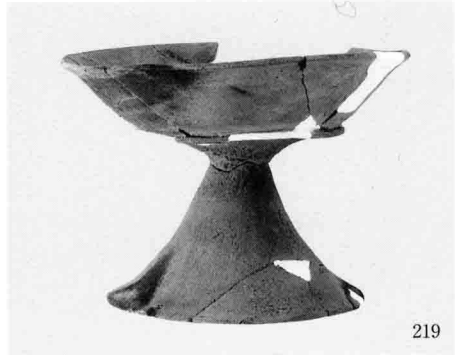
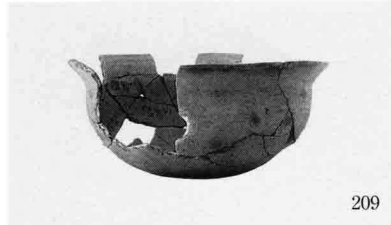
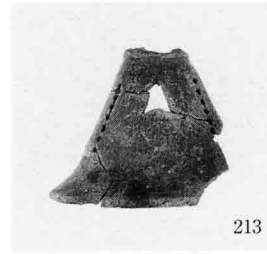
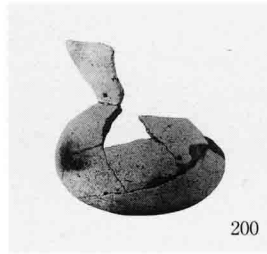
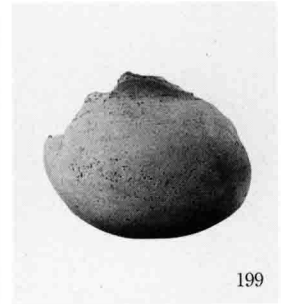
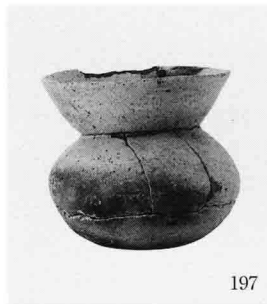
185

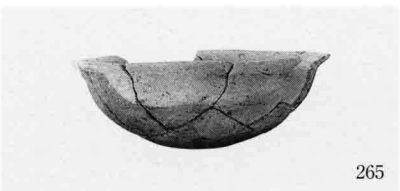
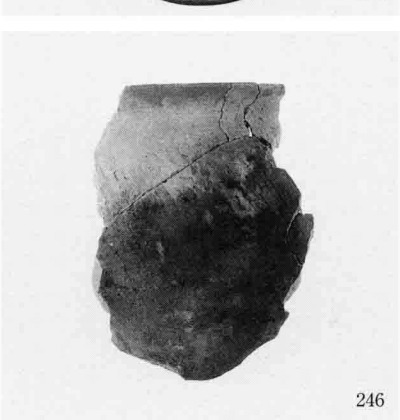
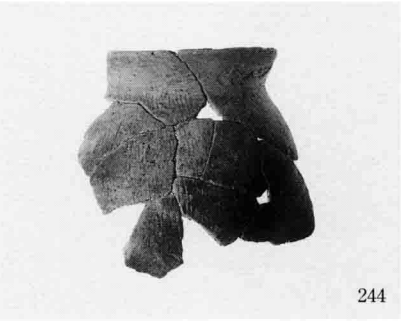
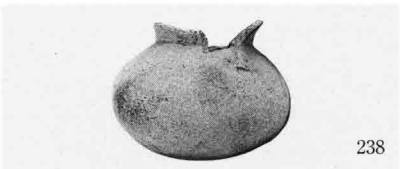
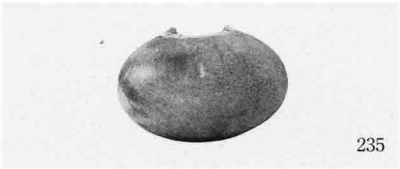
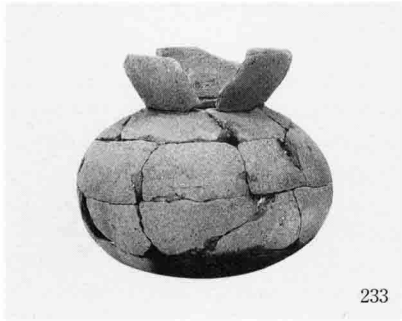
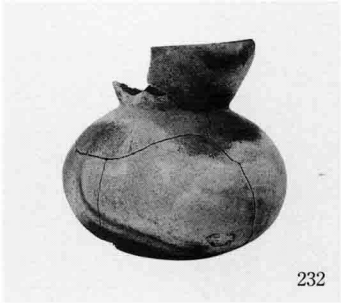
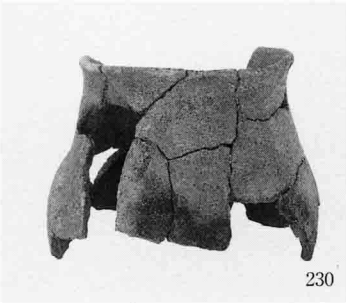


184



190







285



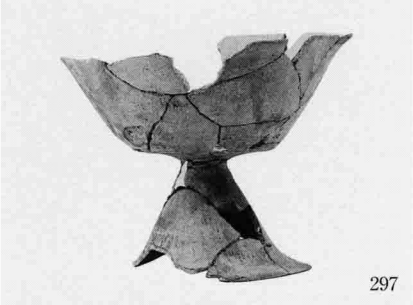
286



292



293



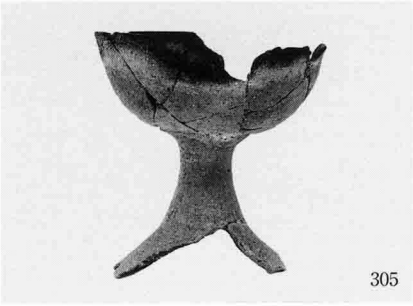
297



301



304



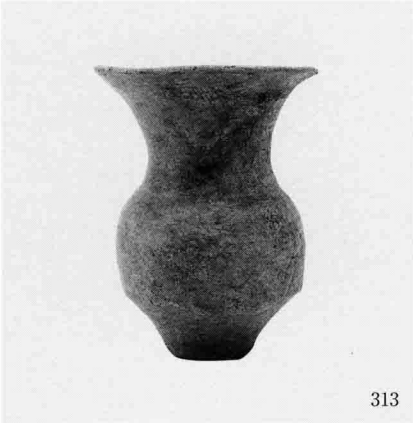
305



309



312



313



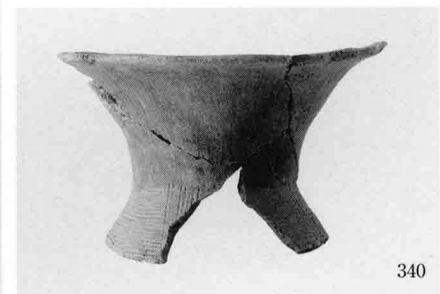
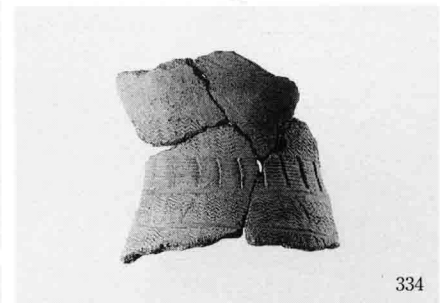
314



317

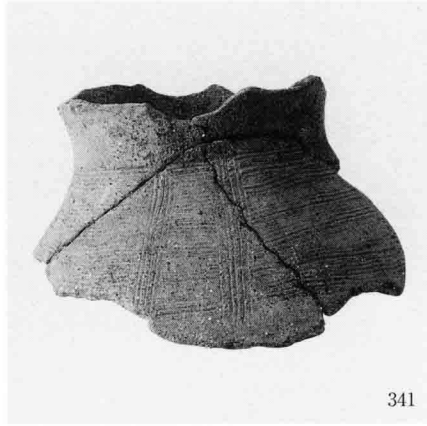


320





338



341



343



347



348



344



350



352



357



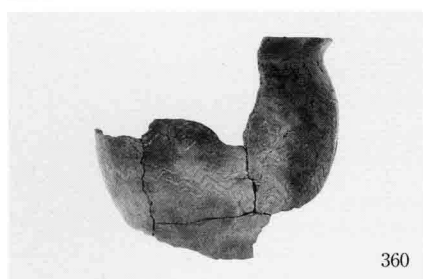
358



359



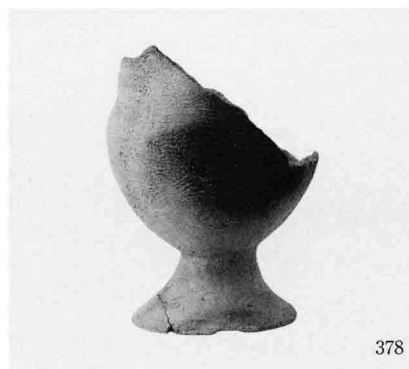
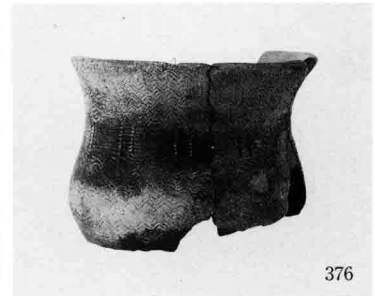
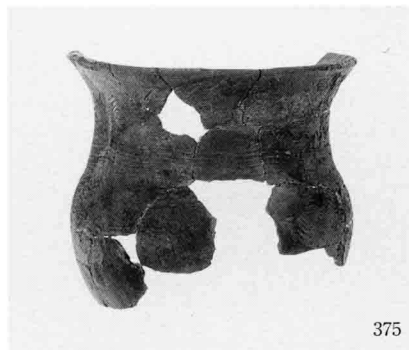
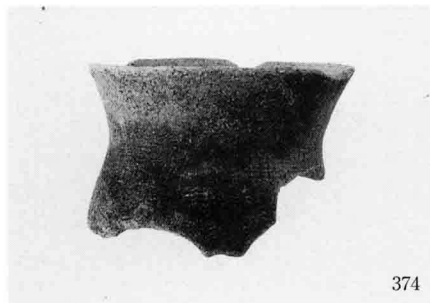
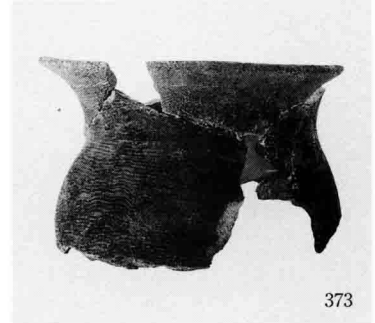
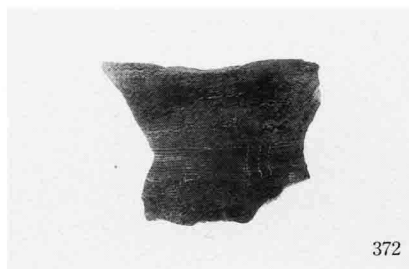
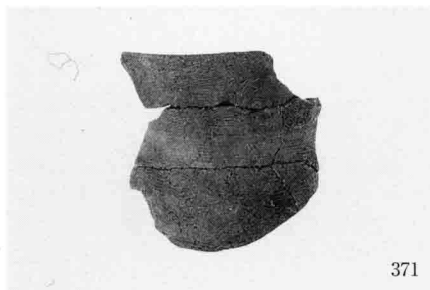
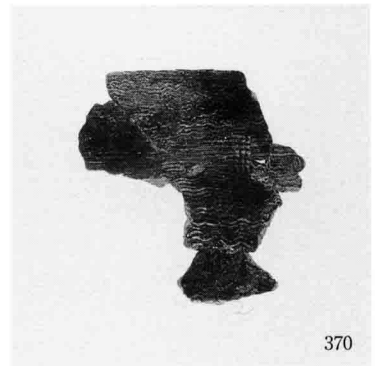
361



360

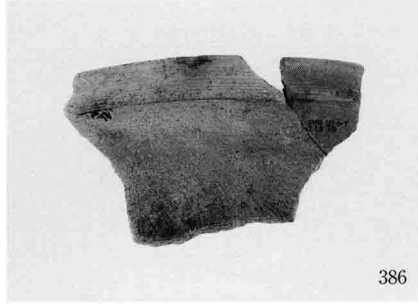


363





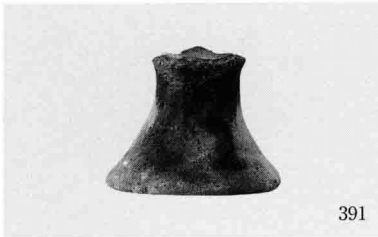
381



386



390



391



394



395



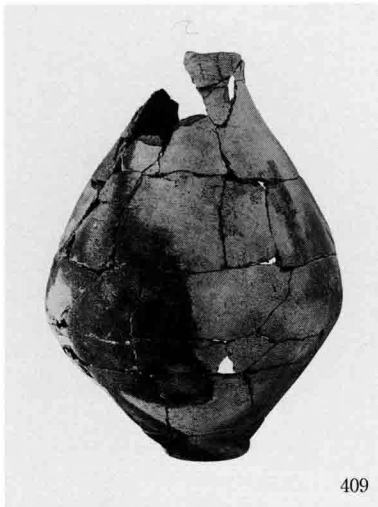
396



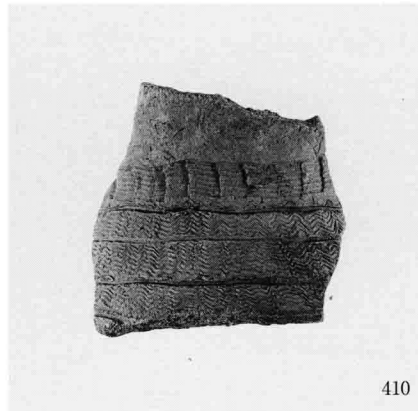
397



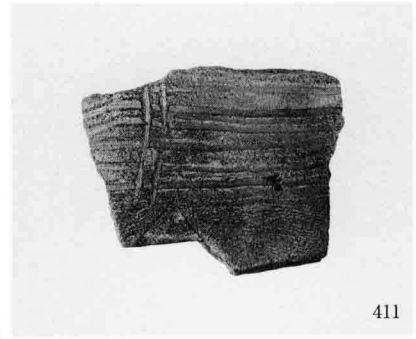
406



409



410



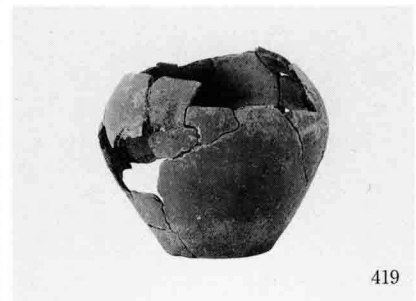
411



415



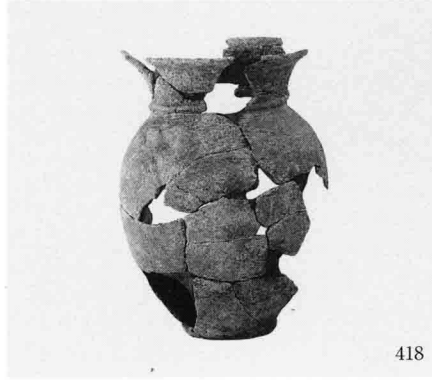
417



419



414



418



421



422



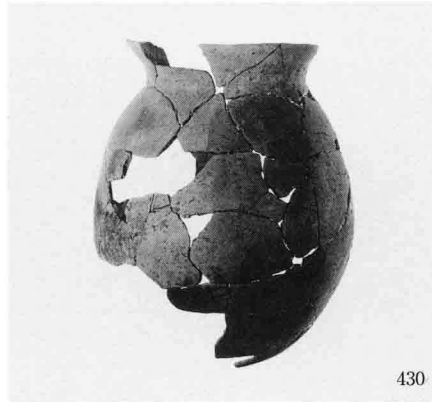
424



425



427



430



432



433



434



435



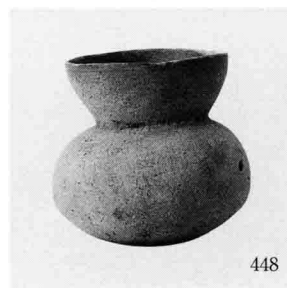
436



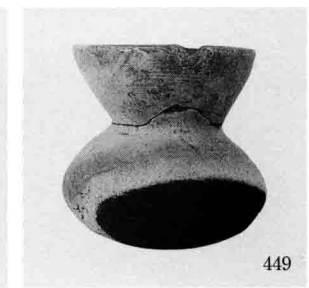
437



447



448



449



442



446



450



452



453



454



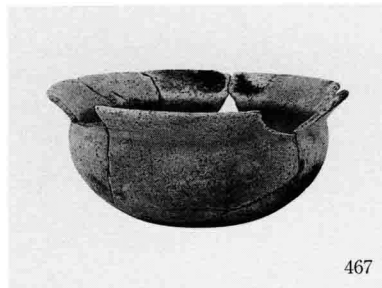
463



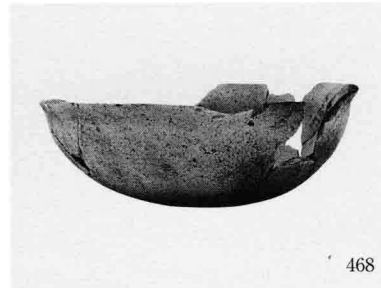
464



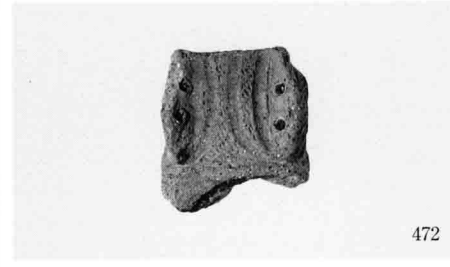
465



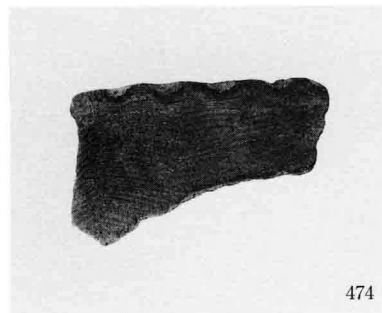
467



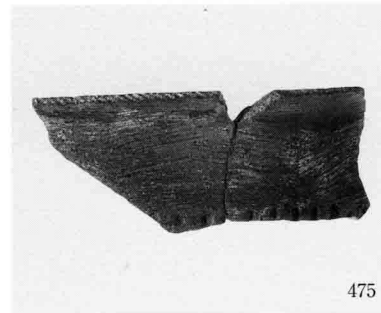
468



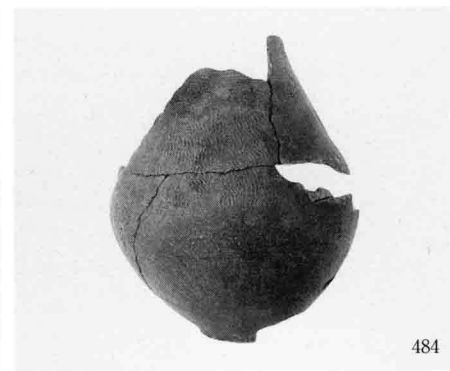
472



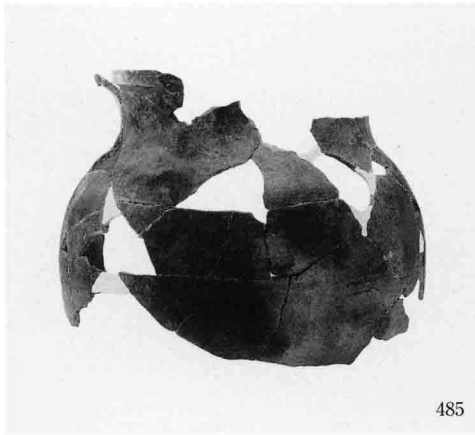
474



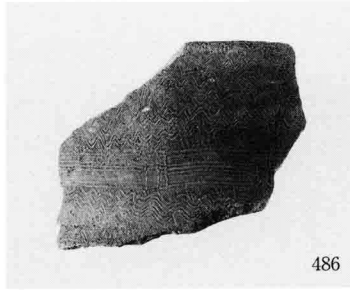
475



484



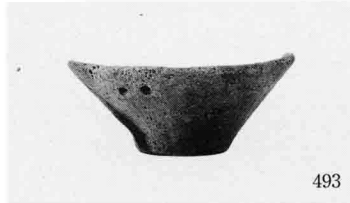
485



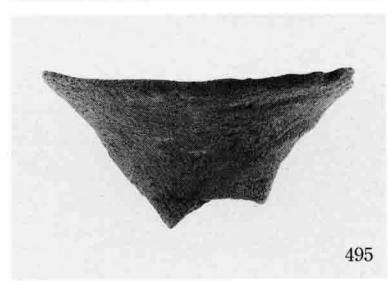
486



489



493



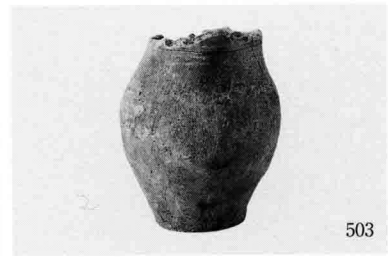
495



492



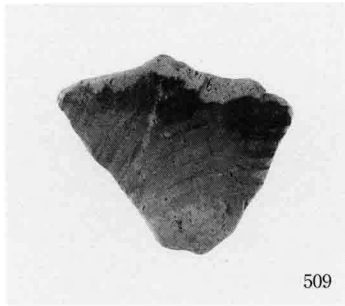
494



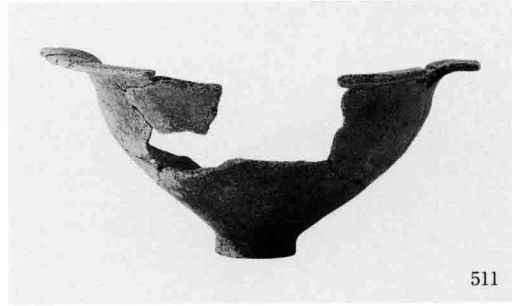
503



500



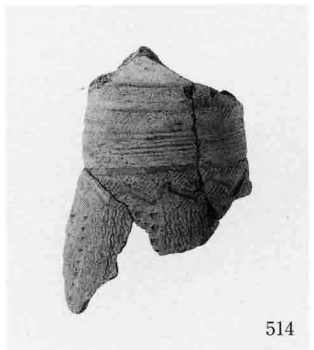
509



511



513



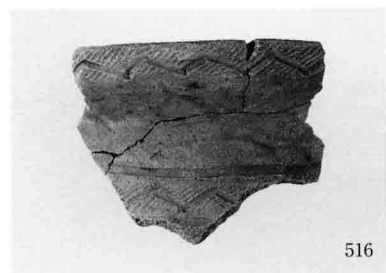
514



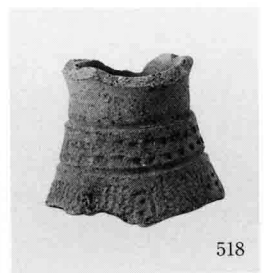
515



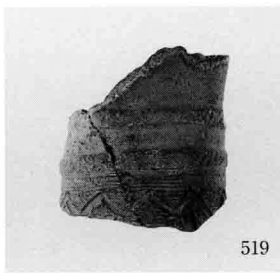
522



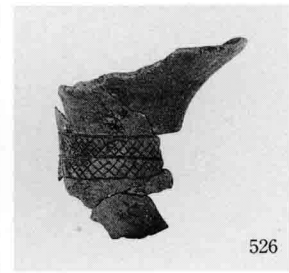
516



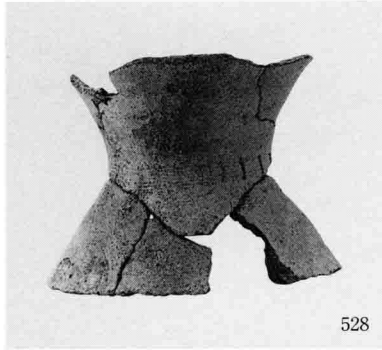
518



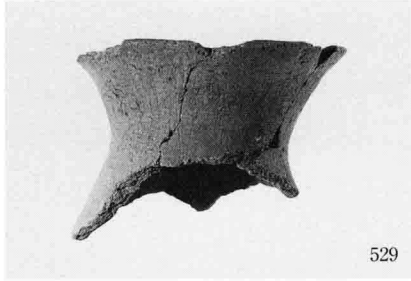
519



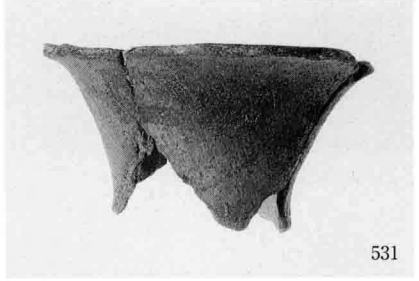
526



528



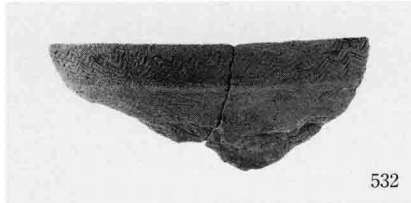
529



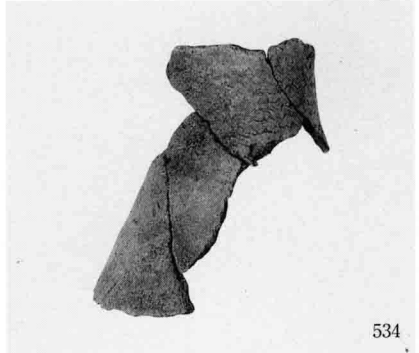
531



530



532



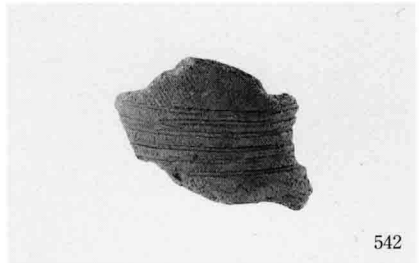
534



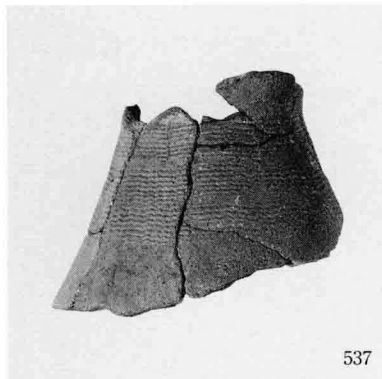
535



536



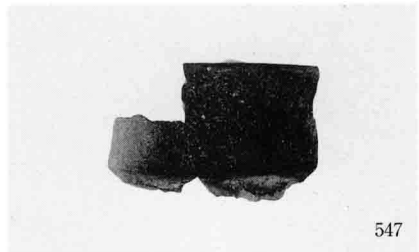
542



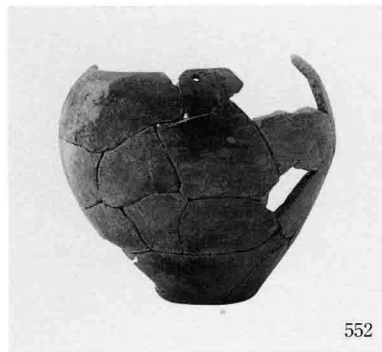
537



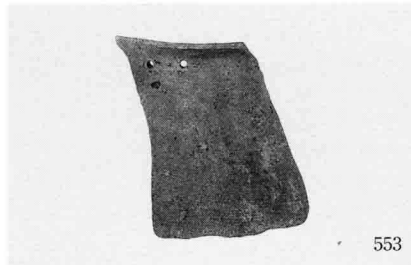
551



547



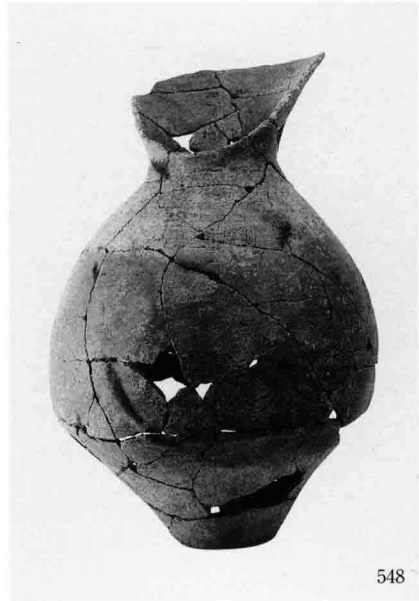
552



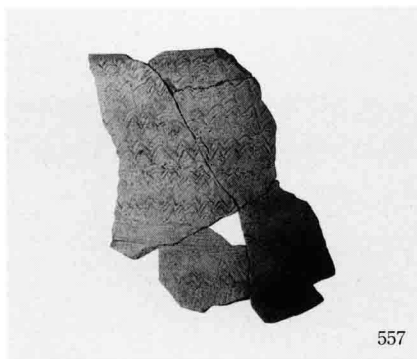
553



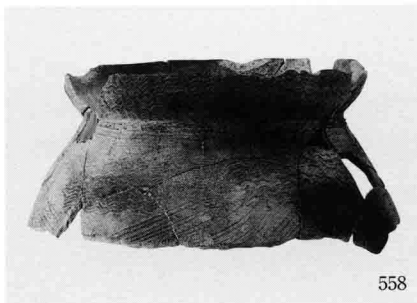
559



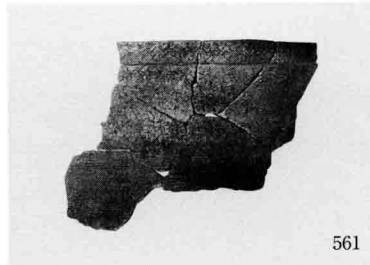
548



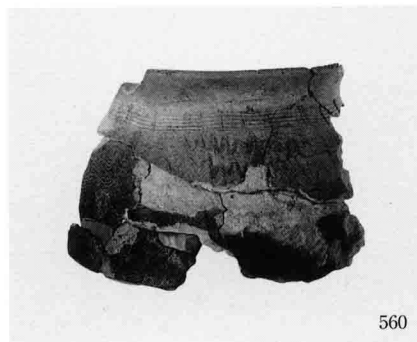
557



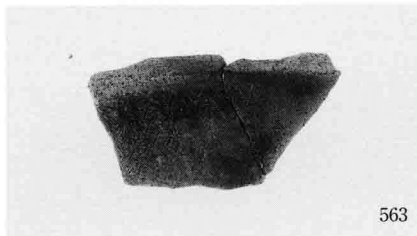
558



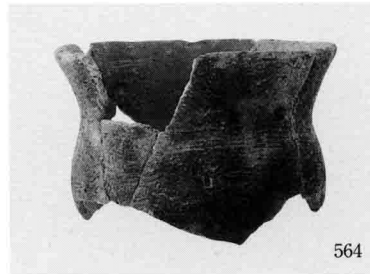
561



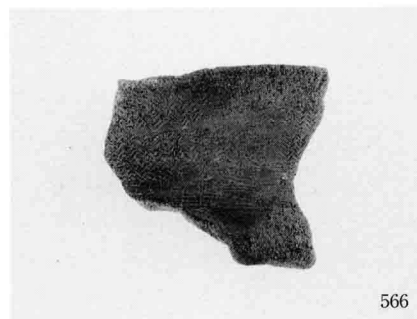
560



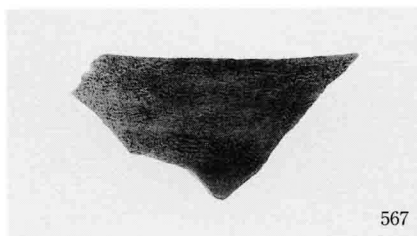
563



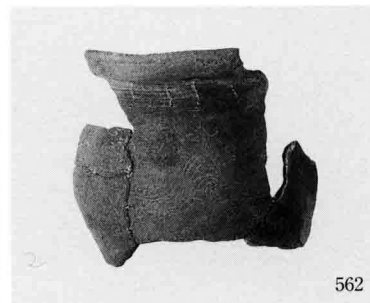
564



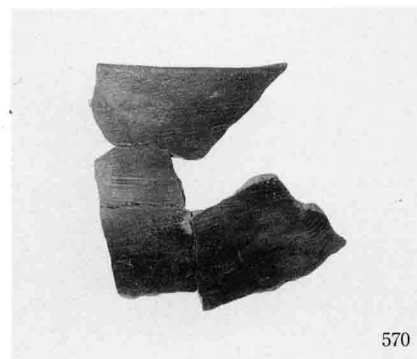
566



567



562



570



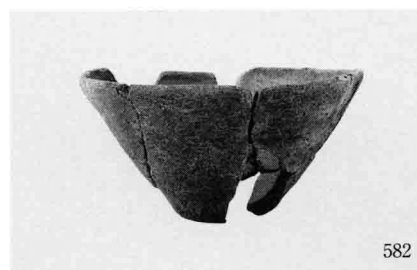
571



572



583



582



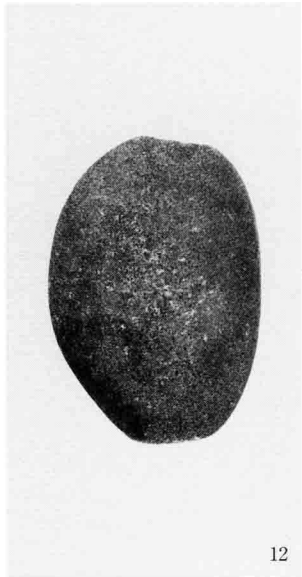
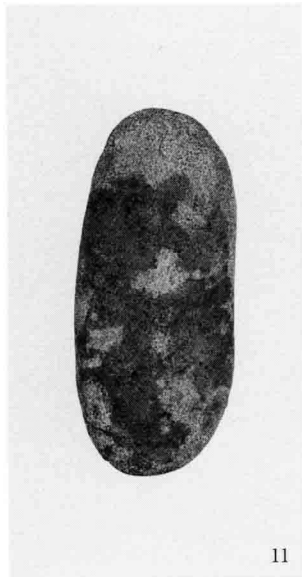
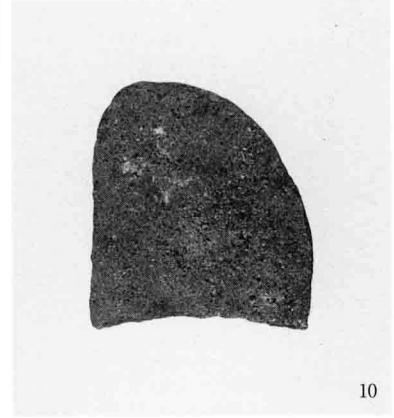
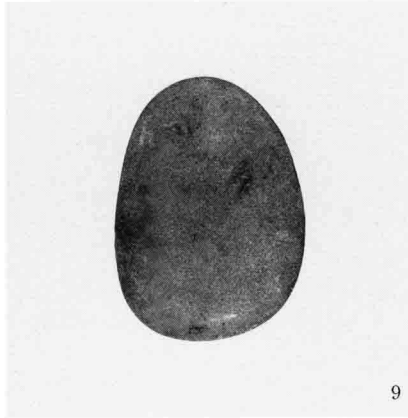
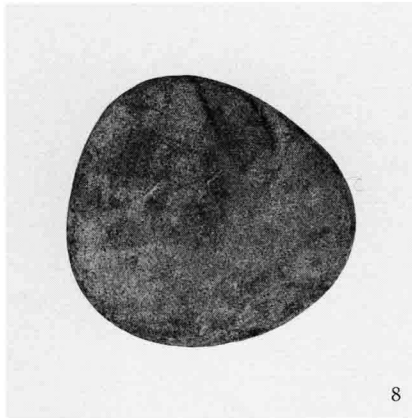
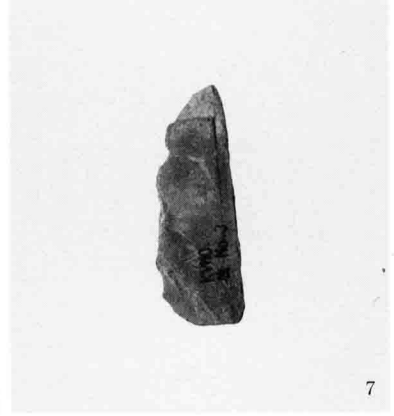
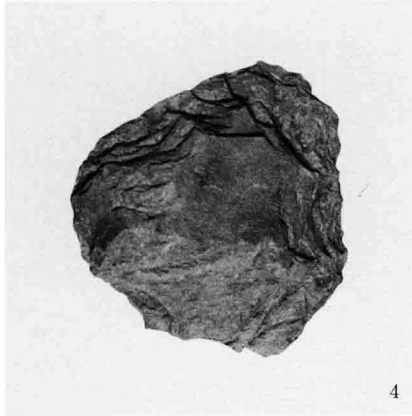
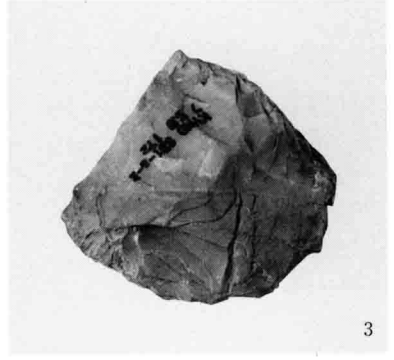
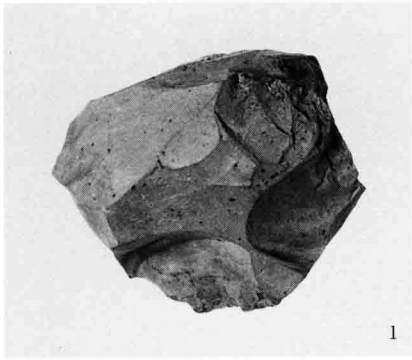
579

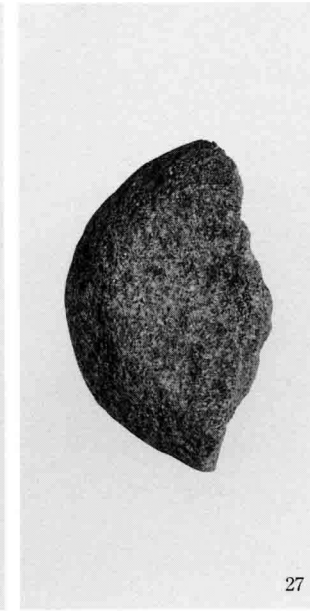
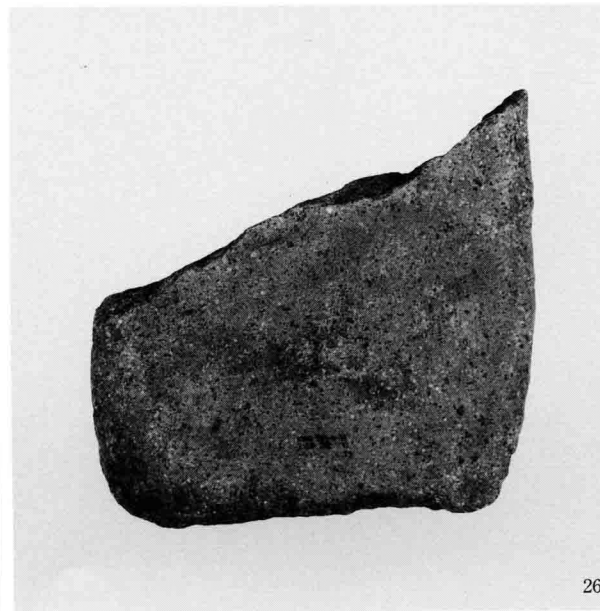
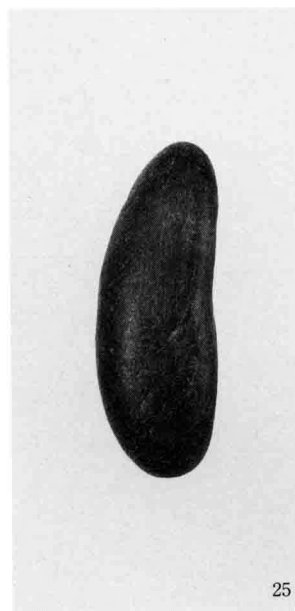
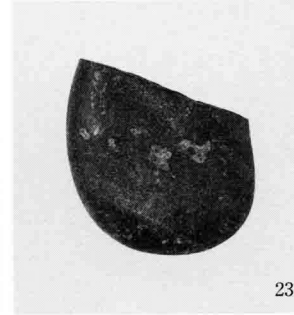
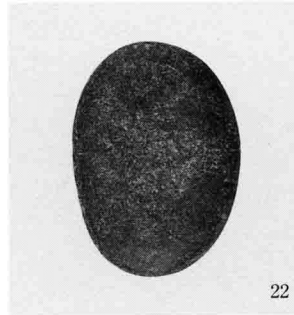
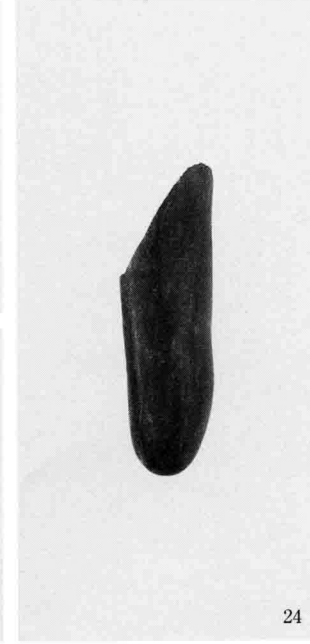
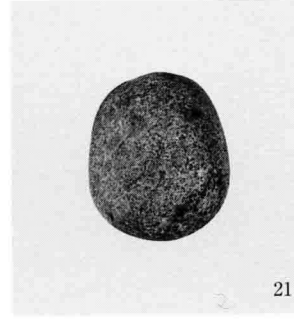
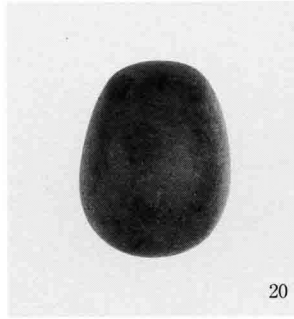
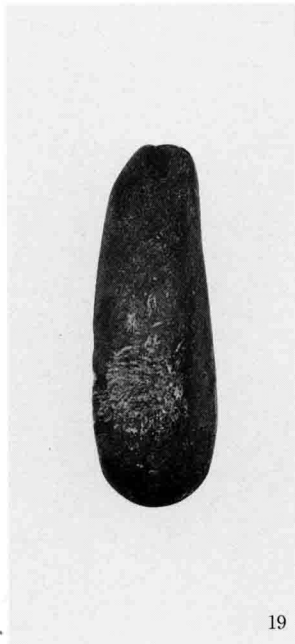
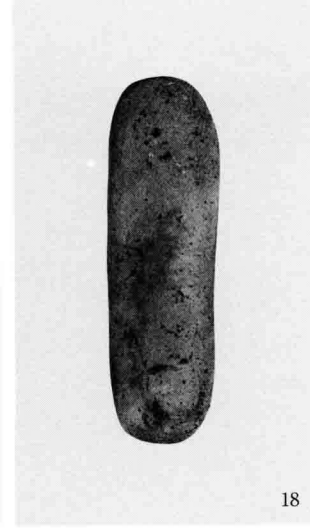
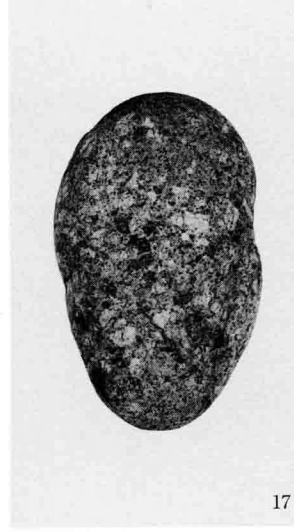
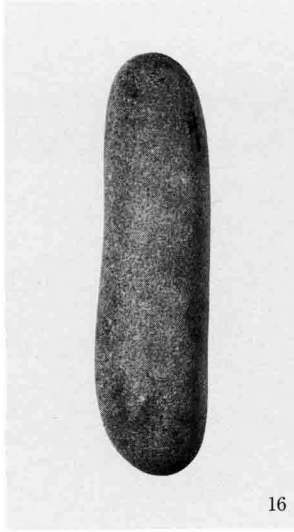
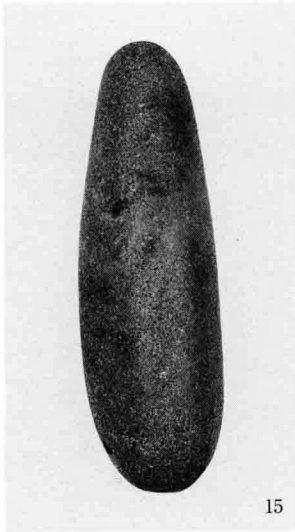


588



585







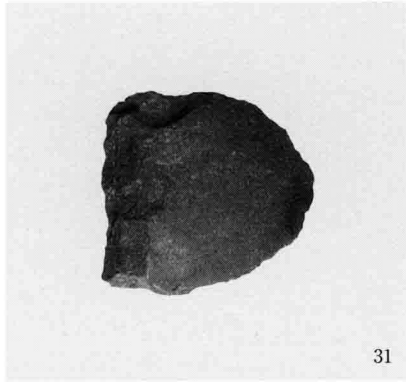
28



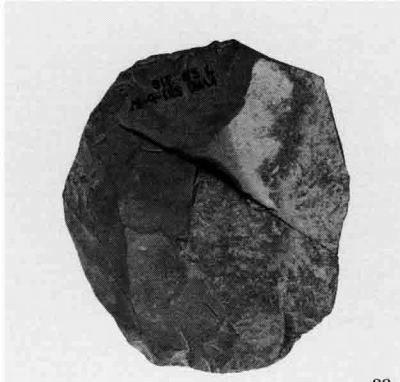
29



30



31



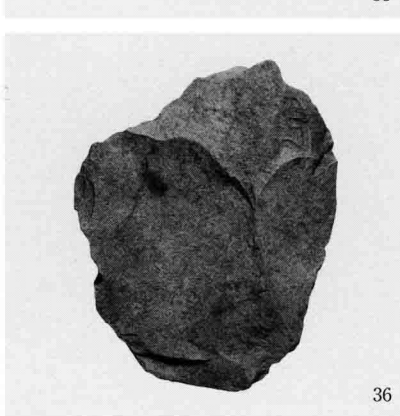
33



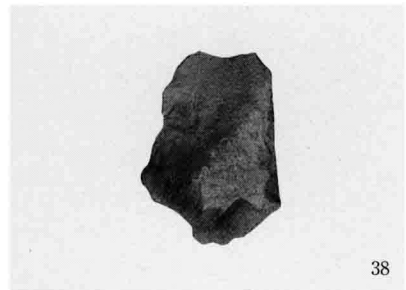
34



35



36



38



37



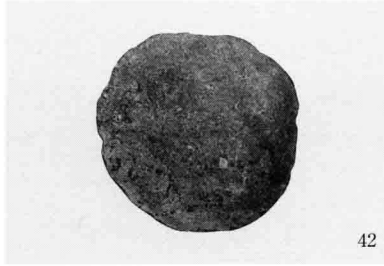
39



40



41



42



43



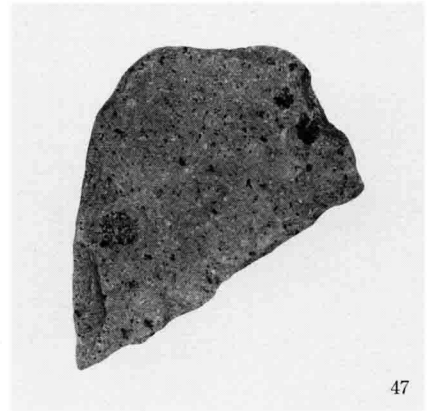
44



45



46



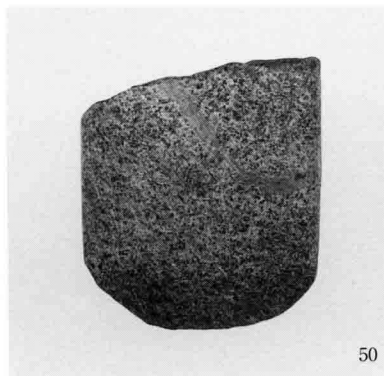
47



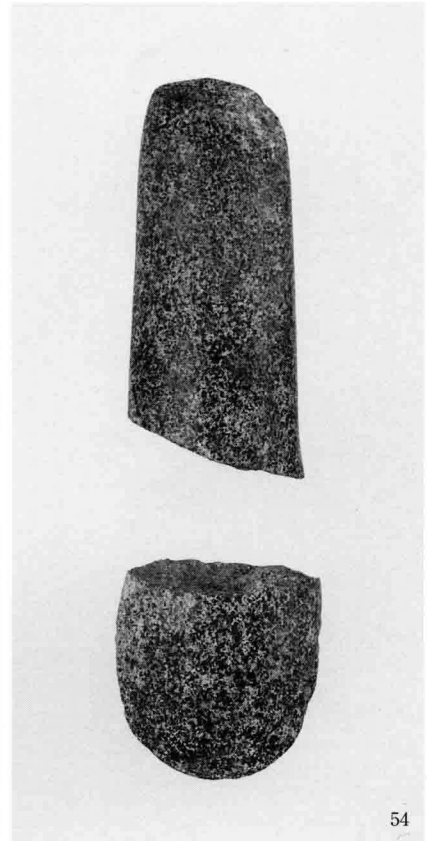
48



49



50



54



55



56



57



51



58



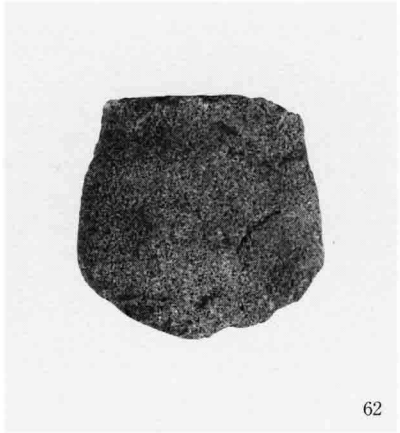
59



60



61



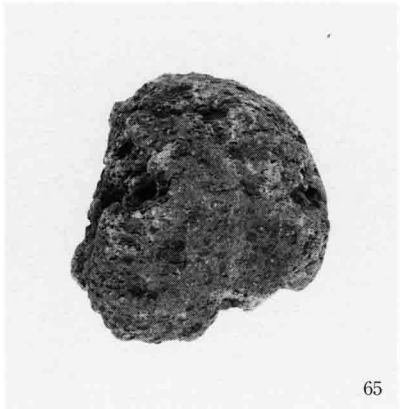
62



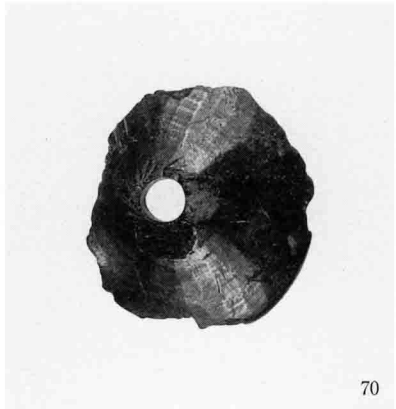
63



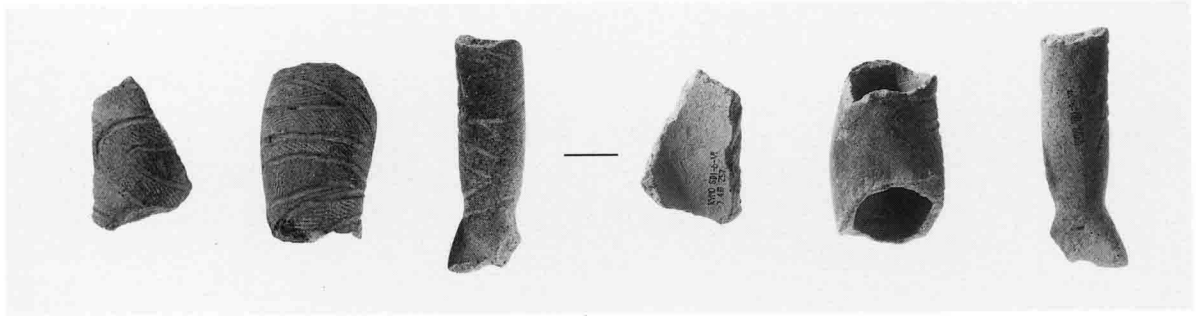
64

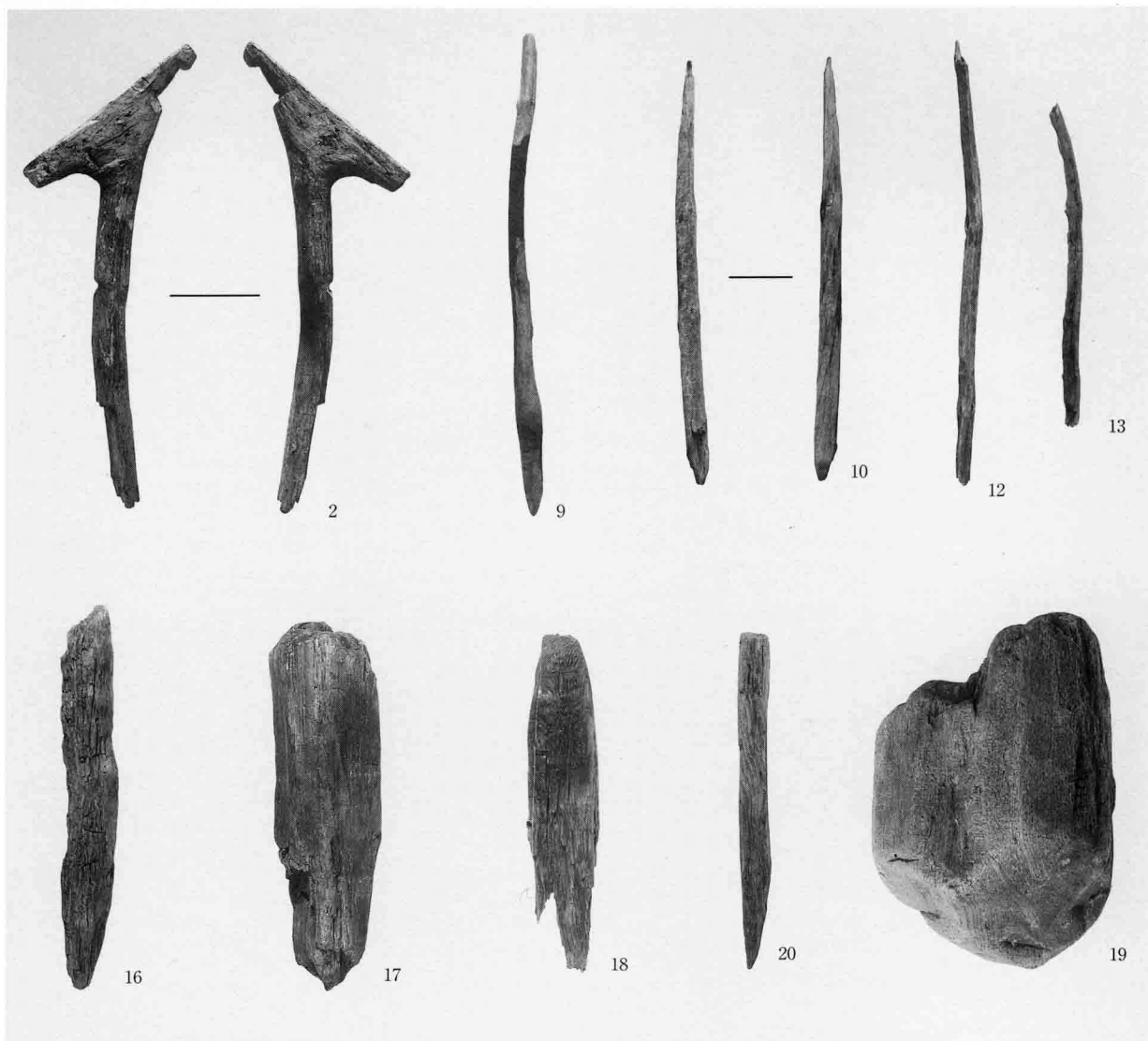


65



70





16



17



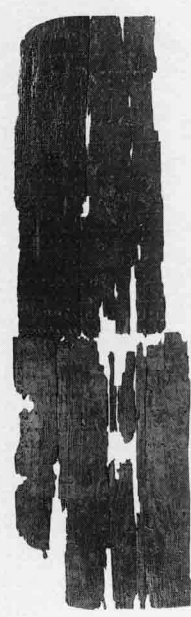
18



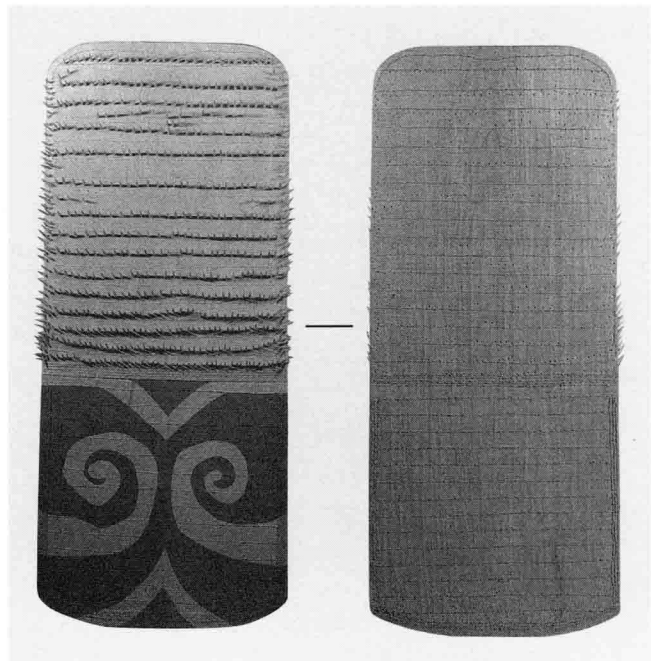
20



19



木盾A



木盾復元レプリカ
 (長野市立博物館)
 左 表
 右 裏

報告書抄録

ふりがな	こじまやなぎはらいせきぐん みのちましますいちげんじんじゃいせき							
書名	小島柳原遺跡群 水内坐一元神社遺跡							
副書名	—柳原市民体育館建設地点—							
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第88集							
編著者名	千野浩・矢口忠良・多羅沢美恵子・橋本達也・汐見 真・岡田文男							
編集機関	長野市教育委員会埋蔵文化財センター							
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106							
発行年月日	1998（平成10）年3月30日							
印刷所	ほおずき書籍株式会社（長野市柳原2133-5）							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		経緯度 （日本測地系）	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡					
みのちまします 水内坐 いちげんじんじゃいせき 一元神社遺跡	ながのけんながのしおおあぎこじま 長野県長野市大字小島 あぢみつやおき 字三ツ家沖823他	20201	B-003	北緯 36°39'11" 東経 138°15'29"	19960524 ～ 19960809	1000m ²	市民体育 館建設	
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
水内坐一元 神社遺跡	集落跡	弥生時代中期	大溝 1条		栗林式土器・石器・土偶		居住域不明	
		弥生時代後期	竪穴住居址 土壇 環濠（大溝）	4軒 14基 2条	吉田式・箱清水式・北陸系土 器、装飾木盾・槍先・弓・平 鍬・鋤・槽他木製品		環濠集落・武 器形木製品を 伴う祭祀	
		弥生時代後期 終末～古墳時 代前期	土壇	2基		箱清水式系・北陸系・東海系 土器		大溝4層の土 器、居住域不 明
		古墳時代中・ 後期	土壇	3基		土師器・須恵器		大溝3・2層 の土器、居住 域不明

長野市の埋蔵文化財第88集

小島柳原遺跡群

水内坐一元神社遺跡Ⅲ

平成10年3月25日 印刷

平成10年3月30日 発行

編集 長野市教育委員会
発行 長野市埋蔵文化財センター

印刷 ほおずき書籍株式会社